

檜葉町 住民意向調査 報告書

平成29年3月

復興庁
福島県
檜葉町

檜葉町 住民意向調査

報告書

目次

I 調査の概要	1
1-1 調査目的	3
1-2 調査内容	3
1-3 調査設計	3
1-4 回収結果	3
1-5 報告書の見方	3
II 回答者の属性	5
2-1 回答者の属性	7
III 調査結果	11
3-1 現在の状況	13
3-1-1 世帯構成・人数	13
3-1-2 職業	20
3-1-3 現在の状況	23
3-2 震災発生当時の住居形態	29
3-2-1 震災発生当時の住居形態	29
3-2-2 震災発生当時の持ち家の今後の予定	30
3-3 将来の意向	31
3-3-1 今後の職業についての意向	31
3-3-2 檜葉町への帰還意向	35
3-3-3 檜葉町内での今後の生活において必要だと感じていること	42
3-3-4 檜葉町へ戻る時期	46
3-3-5 帰還後の世帯構成・人数	49
3-3-6 檜葉町へ帰還する場合の住居形態	51
3-3-7 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること	53
3-3-8 檜葉町への帰還を判断する上で考慮する情報	58
3-3-9 戻らないと決めている理由	62

3-3-10	帰還しない場合に居住する自治体	65
3-3-11	帰還しない場合の住居形態	69
3-3-12	檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報	71
3-4	意見・要望	73
IV	参考資料	89
4-1	使用調査票	91

I 調査の概要

1-1 調査目的

本調査は、楡葉町民の現在の居住状況や今後の居住希望、今後の生活において必要だと感じていること、避難生活の現況及び意向等の基礎的情報収集等を目的とする。

1-2 調査内容

※4-1 使用調査票を参照のこと

1-3 調査設計

(1) 調査地域	楡葉町
(2) 調査対象と標本数	世帯の代表者 3,567 世帯
(3) 調査手法	郵送にて配布・回収（自記式）
(4) 調査期間	平成 29 年 1 月 4 日（水）～平成 29 年 1 月 18 日（水）
(5) 調査主体	復興庁、福島県、楡葉町
(6) 調査機関	株式会社サーベイリサーチセンター

1-4 回収結果

有効回収数 1,916 世帯（有効回収率 53.7%）

1-5 報告書の見方

- ・調査数（ $n = \text{Number of cases}$ ）とは、回答者総数あるいは分類別の回答者数のことである。
- ・回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。従って、回答比率の合計が 100%にならない場合がある。
- ・回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- ・図表および文章中で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。
- ・調査数（ n 値）が少数（概ね 30 を下回る）のものは、回答構成比の信頼性が低いため、文章中の分析では言及していない。ただし、震災発生当時の住まいの行政区別の分析は n 値が 30 を下回る場合も言及する場合がある。

II 回答者の属性

2-1 回答者の属性

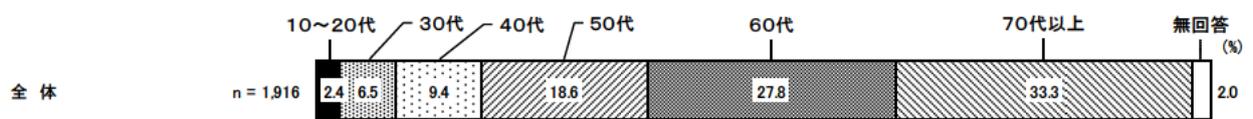
(1) 性別

<図表2-1-1>



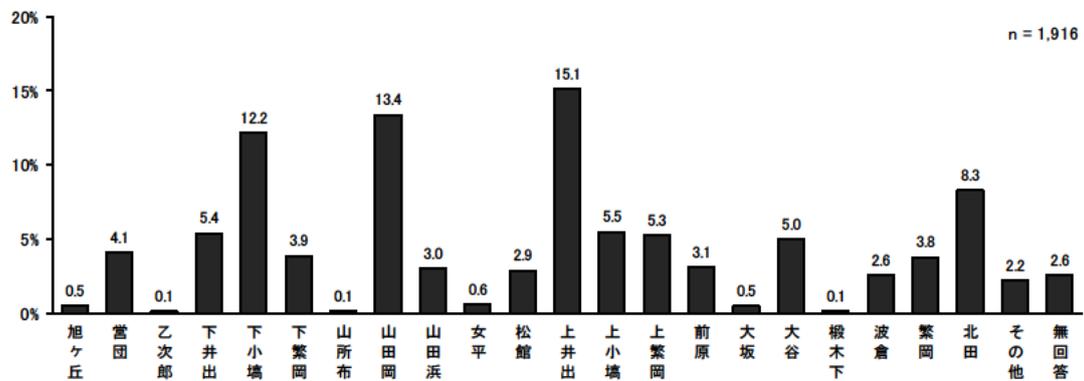
(2) 年齢

<図表2-1-2>



(3) 震災発生当時の住まいの行政区

<図表2-1-3>



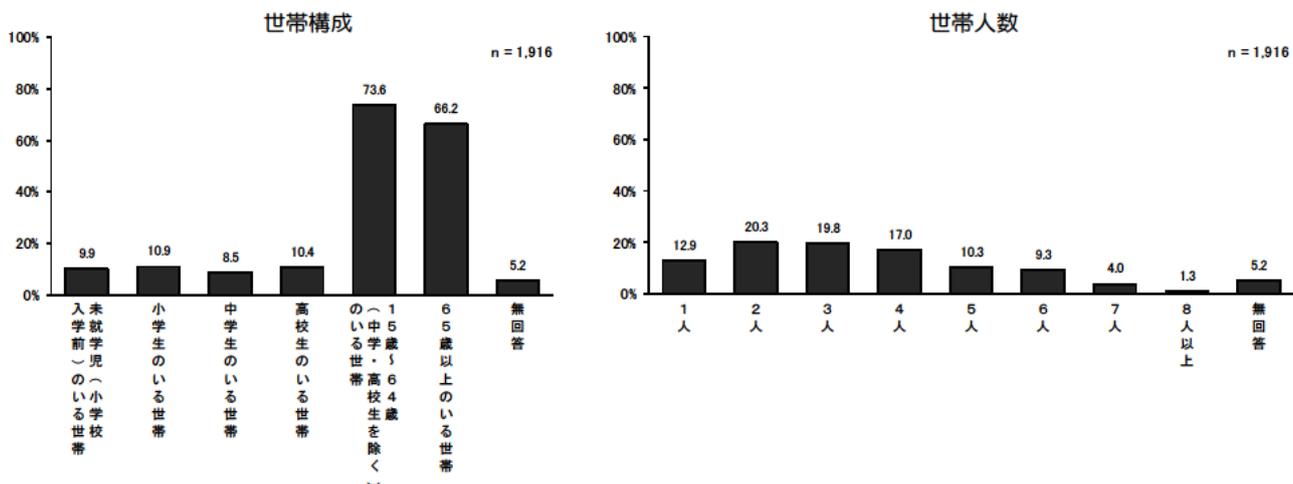
(4) 震災発生当時の世帯での立場

<図表2-1-4>



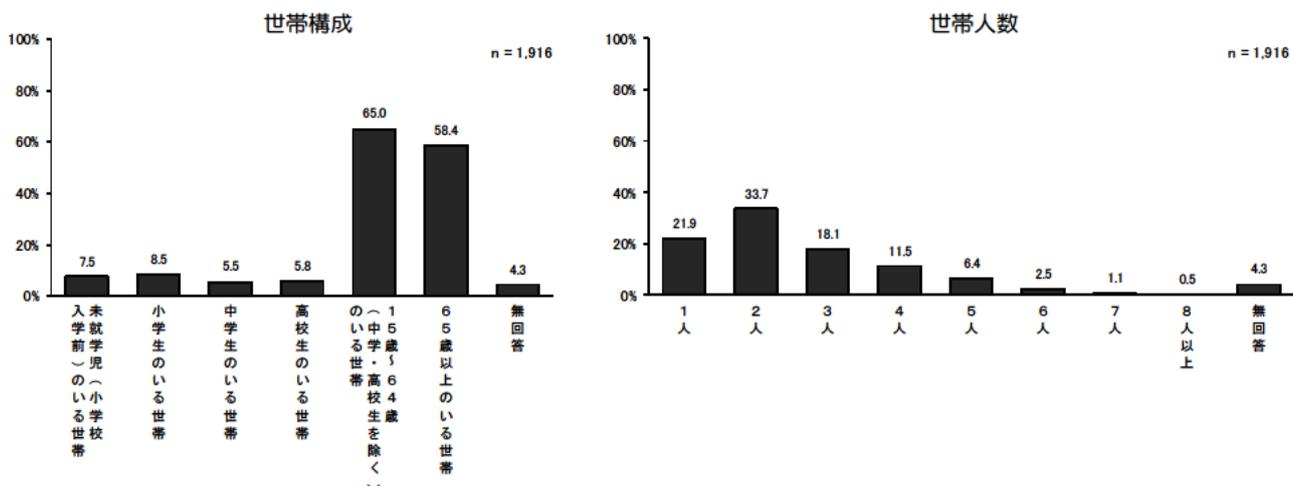
(5) 震災発生当時の世帯構成・人数

<図表2-1-5>



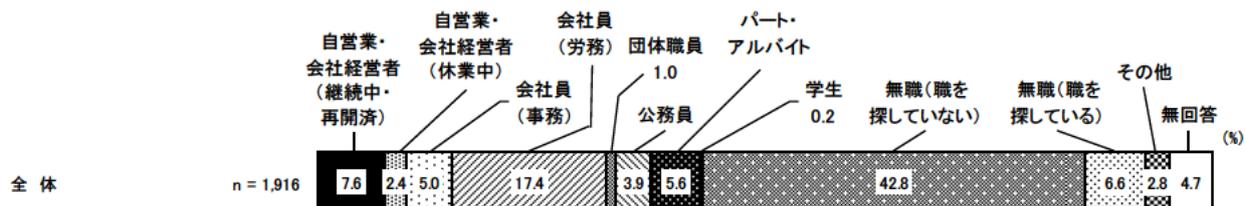
(6) 現在の世帯構成・人数

<図表2-1-6>



(7) 現在の職業 (就業形態)

<図表2-1-7>



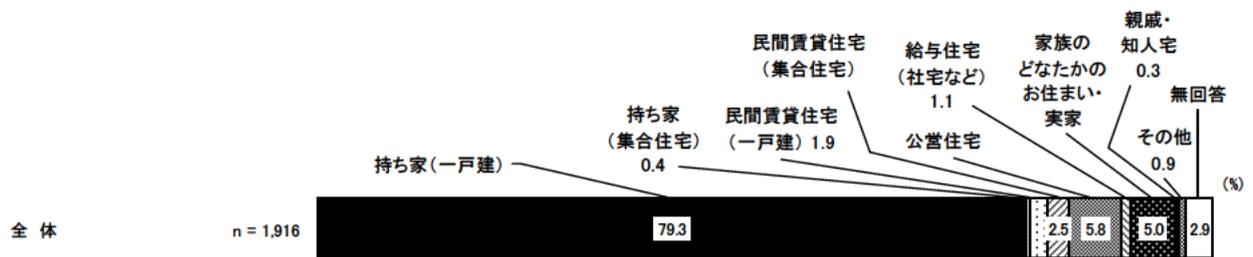
(8) 現在の職業（業種）

<図表2-1-8>



(9) 震災発生当時の住居形態

<図表2-1-9>



III 調査結果

3-1 現在の状況

3-1-1 世帯構成・人数

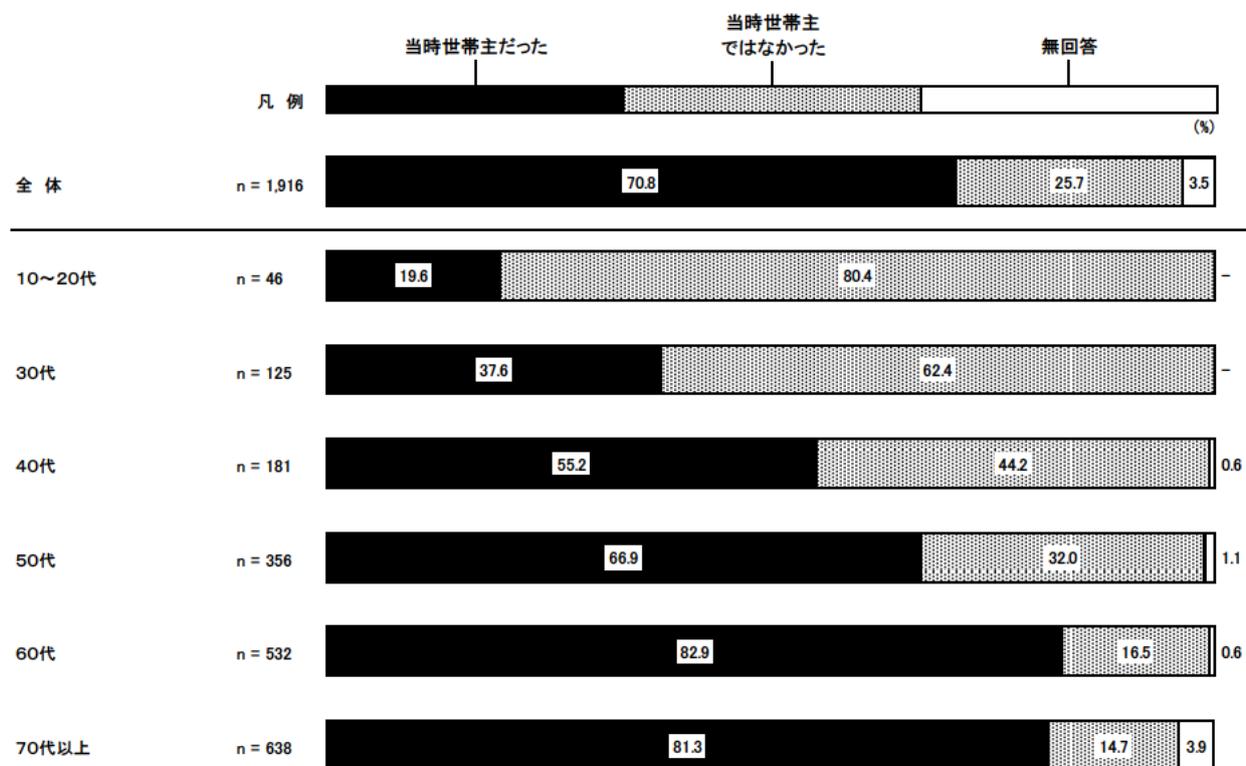
(1) 震災発生当時の世帯での立場

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の世帯での立場については、「当時世帯主だった」が70.8%、「当時世帯主ではなかった」が25.7%となっている。

回答者の年齢別にみると、概ね年齢が高くなるに従い、「当時世帯主だった」の割合が高くなっている。

<図表3-1-1-1 震災発生当時の世帯での立場（年齢別）>



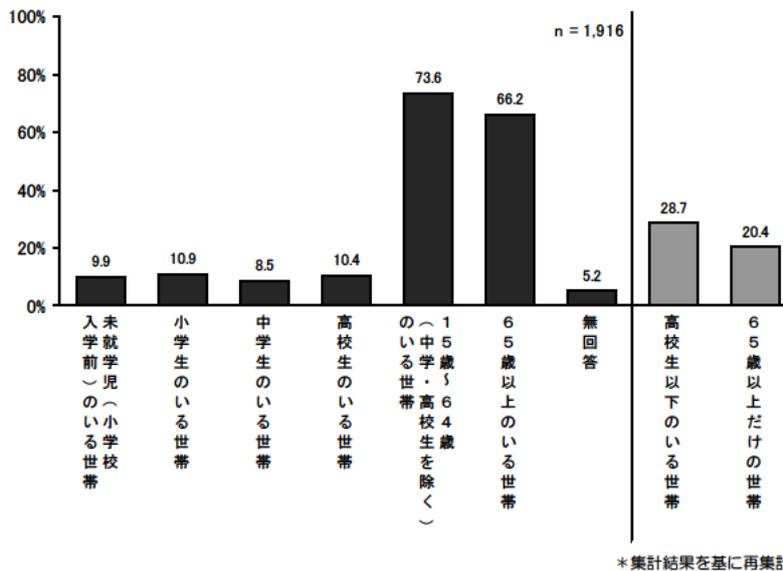
(2) 震災発生当時の世帯構成・人数

問5 「震災発生当時」に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学年にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

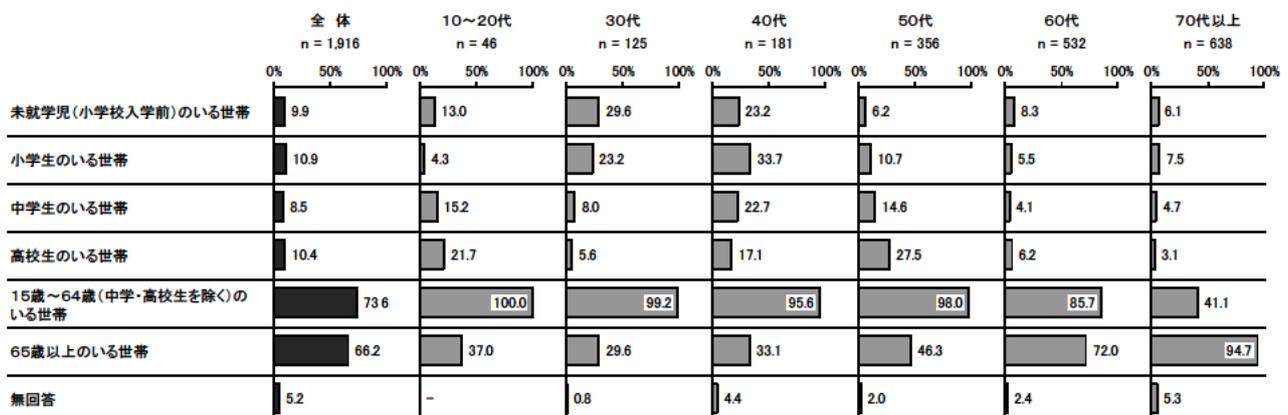
① 震災発生当時の世帯構成

震災発生当時の世帯構成については、「15歳～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が73.6%と最も高く、次いで「65歳以上のいる世帯」が66.2%となっている。一方、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」(9.9%)、「小学生のいる世帯」(10.9%)、「中学生のいる世帯」(8.5%)、「高校生のいる世帯」(10.4%)はいずれも概ね1割となっている。

<図表3-1-1-2 震災発生当時の世帯構成>



<図表3-1-1-3 震災発生当時の世帯構成（年齢別）>

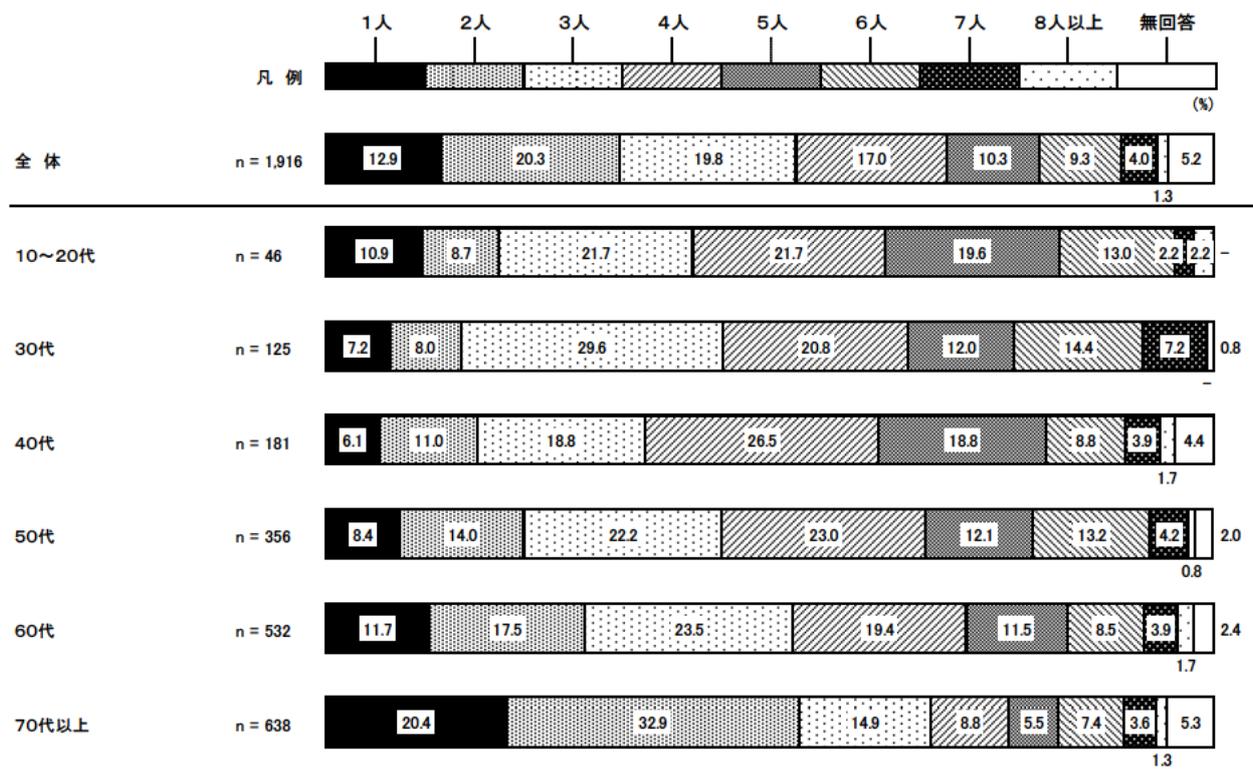


② 震災発生当時の世帯人数

震災発生当時の世帯人数については、「2人」が20.3%と最も高く、次いで「3人」が19.8%、「4人」17.0%となっている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は70代以上（32.9%）、「3人」は30代以上（29.6%）、「4人」は40代（26.5%）で、他の年代と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-1-4 震災発生当時の世帯人数（年齢別）>



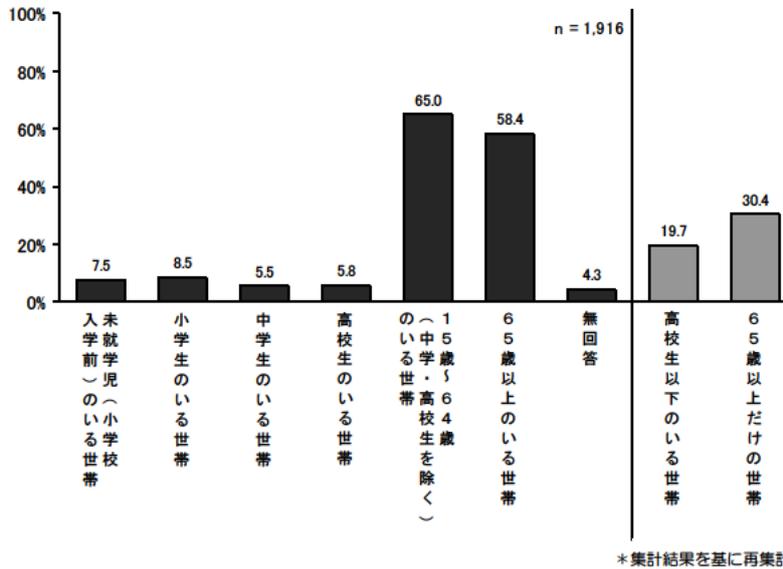
(3) 現在の世帯構成・人数

問8 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

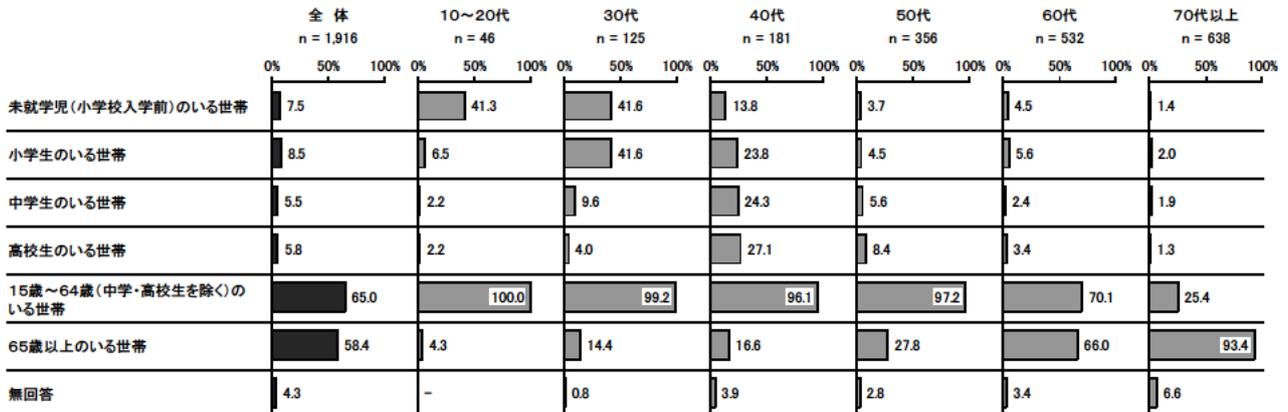
① 現在の世帯構成

現在の世帯構成については、「15歳～64歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」が65.0%と最も高く、次いで「65歳以上のいる世帯」が58.4%となっている。一方、「未就学児（小学校入学前）のいる世帯」（7.5%）、「小学生のいる世帯」（8.5%）、「中学生のいる世帯」（5.5%）、「高校生のいる世帯」（5.8%）はいずれも1割未満となっている。

<図表3-1-1-5 現在の世帯構成>



<図表3-1-1-6 現在の世帯構成（年齢別）>

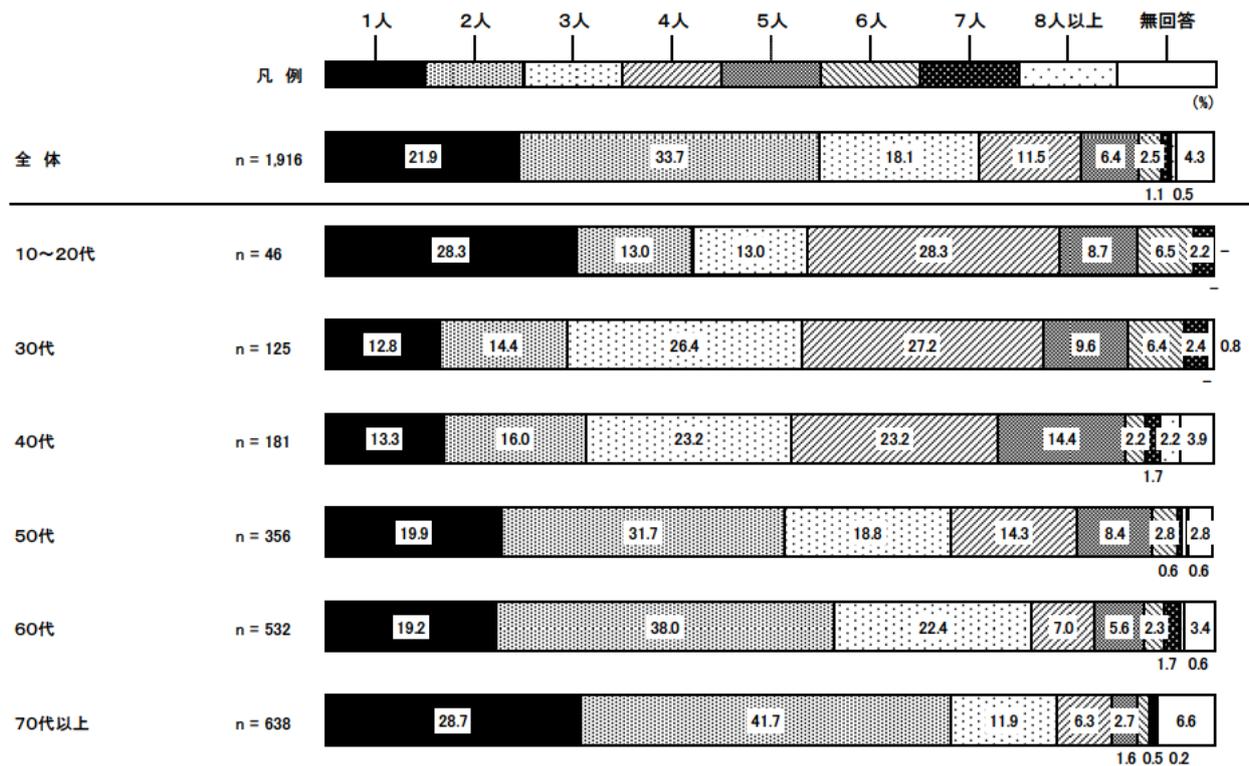


② 現在の世帯人数

現在の世帯人数については、「2人」が33.7%と最も高く、次いで「1人」が21.9%、「3人」が18.1%となっている。図表3-1-1-4の震災発生当時と比較すると、世帯人数2人以下の世帯が2割程度増えている。

回答者の年齢別にみると、「2人」は60代以上（38.0%）、70代以上（41.7%）、「1人」は10～20代以上（28.3%）、70代以上（28.7%）、「3人」は30代（26.4%）で、他の年代と比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-1-7 現在の世帯人数（年齢別）>



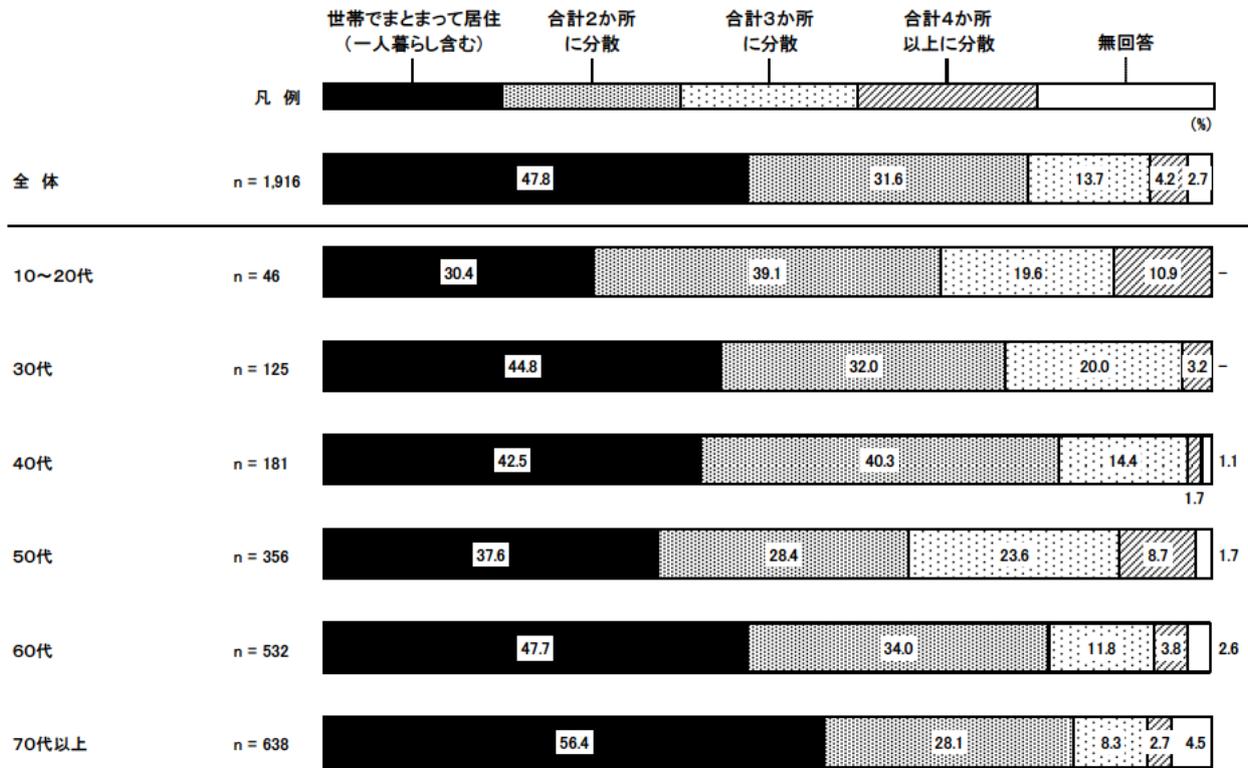
(4) 世帯の分散状況

問9 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(〇は1つ)

世帯の分散状況については、「世帯でまとまって居住（一人暮らし含む）」(47.8%) が最も高いが、次いで「合計2か所に分散」(31.6%)、「合計3か所に分散」(13.7%)となっており、「合計4か所以上に分散」(4.2%)をあわせると、分散している世帯は約5割となっている(49.5%)。

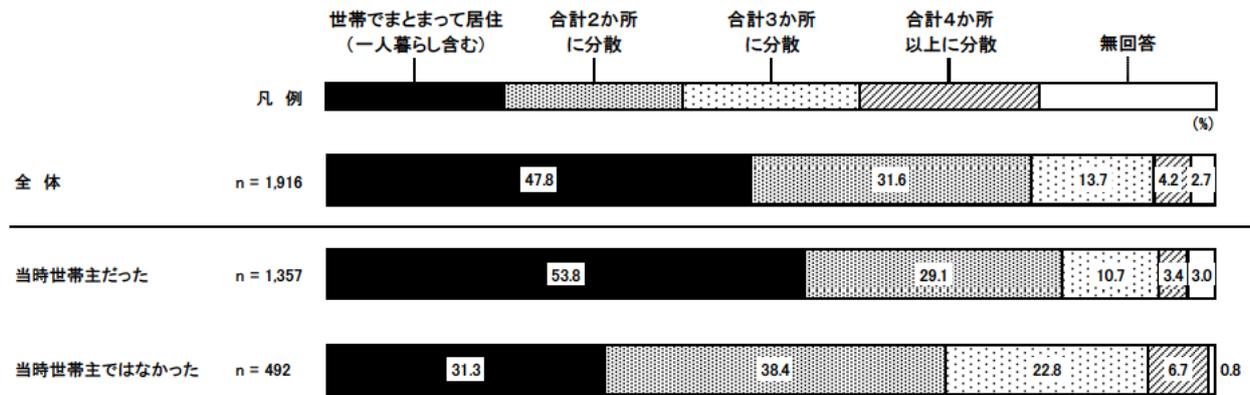
回答者の年齢別にみると、「世帯でまとまって居住（一人暮らし含む）」は、70代以上(56.4%)が他の年代と比べて最も高くなっている。一方、10~20代では分散している世帯が7割程度(69.6%)となり他の年代と比べて最も高くなっている。

<図表3-1-1-8 世帯の分散状況（年齢別）>



震災発生当時の世帯での立場別にみると、当時世帯主だった方では「世帯でまとまって居住（一人暮らし含む）」(53.8%)が過半数を占めている。一方、当時世帯主ではなかった方では「合計2か所に分散」(38.4%)が最も高く、次いで「世帯でまとまって居住（一人暮らし含む）」(31.3%)となっている。

<図表3-1-1-9 世帯の分散状況（震災発生当時の世帯での立場別）>



3-1-2 職業

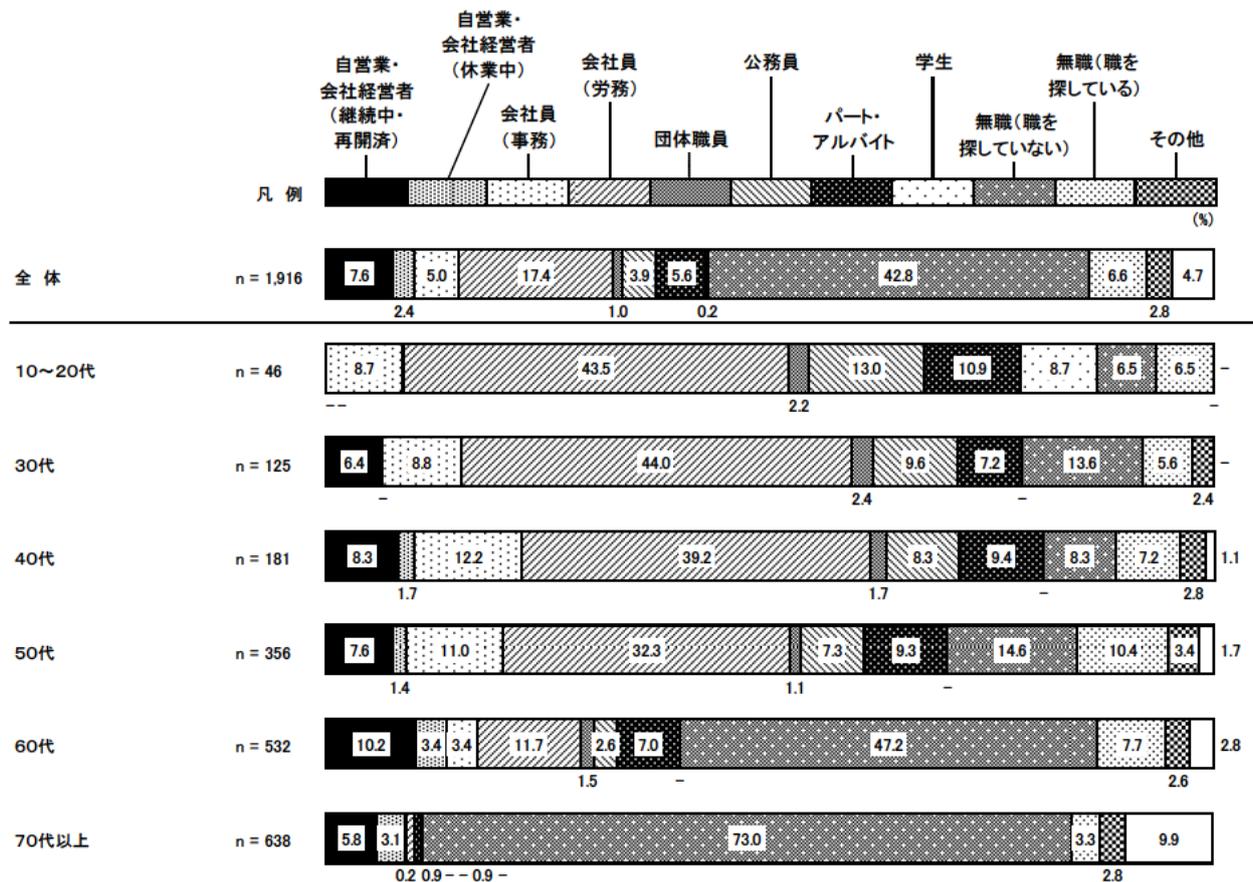
(1) 現在の職業（就業形態）

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。
 (1) 職業（就業形態）(○は1つ)

現在の職業（就業形態）については、「無職（職を探していない・職を探している）」以外では、「会社員（労務）」（17.4%）が最も高く、次いで「自営業・会社経営者（継続中・再開済）」（7.6%）となっている。

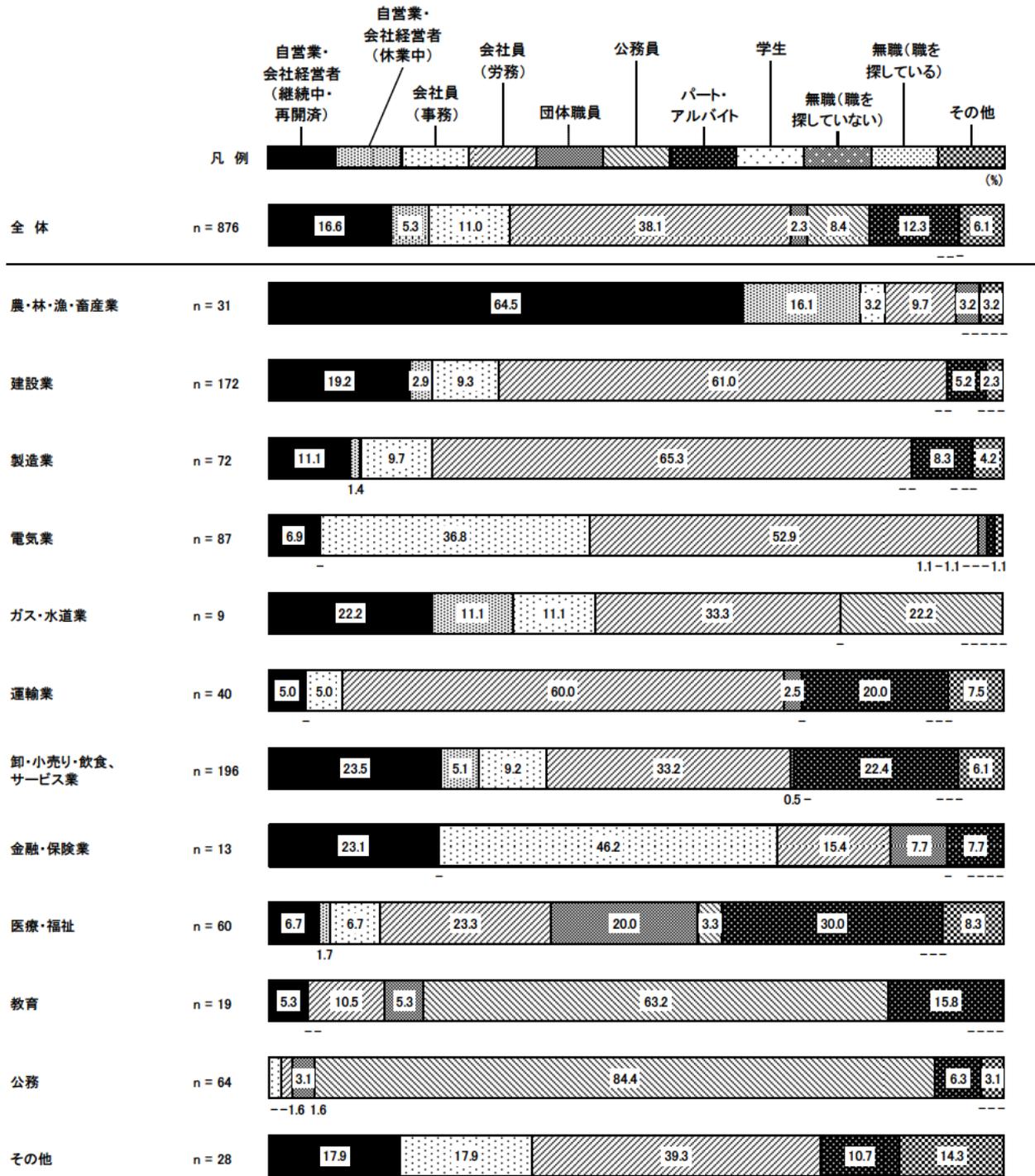
回答者の年齢別にみると、「会社員（労務）」は、10～20代（43.5%）、30代（44.0%）、40代（39.2%）、50代（32.3%）で、「無職（職を探していない）」は、60代（47.2%）、70代以上（73.0%）で、他の年代と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-1 現在の職業（年齢別）>



業種別にみると、「会社員（労務）」は、製造業（65.3%）、建設業（61.0%）、運輸業（60.0%）、電気業（52.9%）で、「自営業・会社経営者（継続中・再開済）」は、農・林・漁・畜産業（64.5%）で、他の業種と比べて高くなっている。

<図表3-1-2-2 現在の職業（業種別）>



(2) 現在の職業（業種）

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

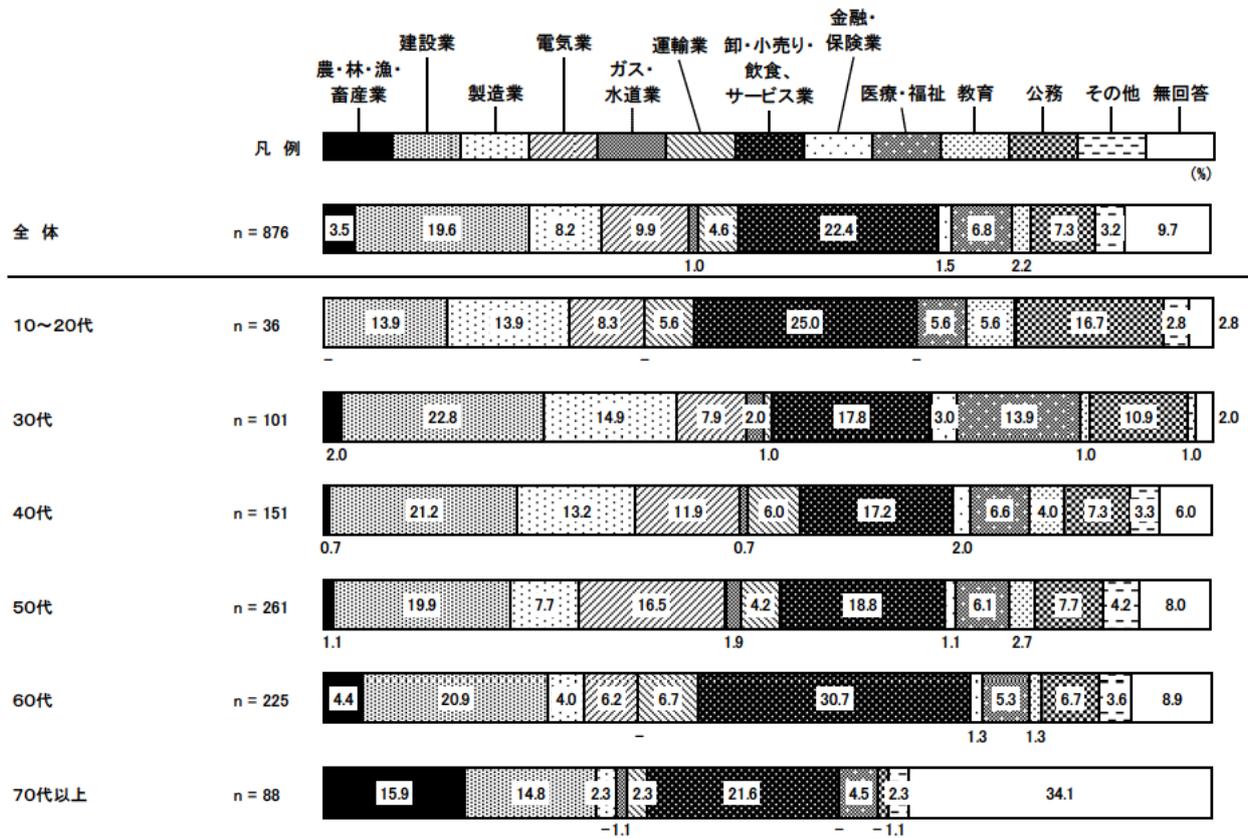
【就業している方にかがいます。】

(2) 業種 (〇は1つ)

現在の職業（業種）については、「卸・小売り・飲食、サービス業」が22.4%と最も高く、次いで「建設業」が19.6%となっている。

回答者の年齢別にみると、「卸・小売り・飲食、サービス業」は10～20代（25.0%）、60代（30.7%）で、それぞれ他の年代に比べて割合が高くなっている。

<図表3-1-2-3 現在の業種（年齢別）>



3-1-3 現在の状況

(1) 現在の檜葉町内での住居形態

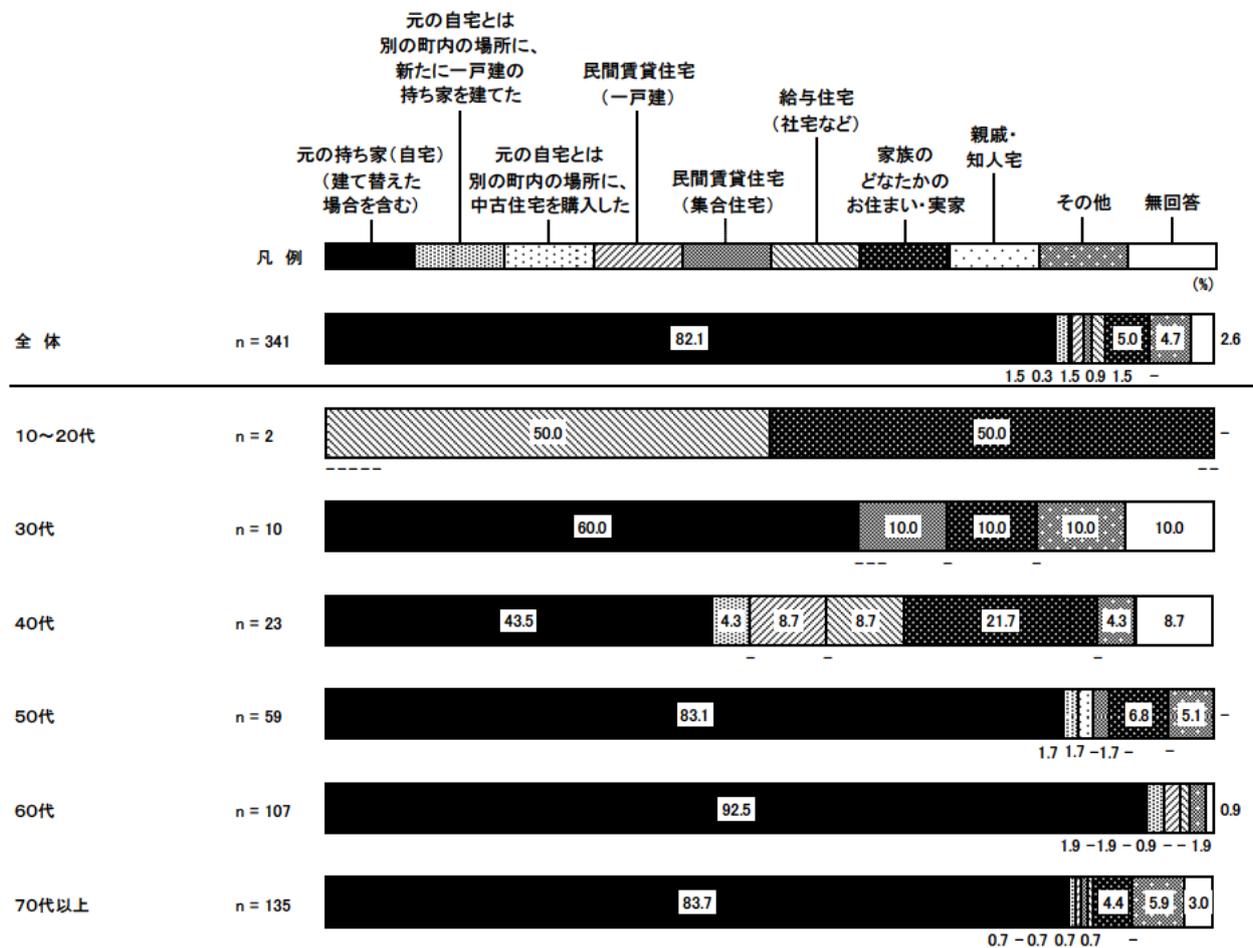
【問 13 は、問 12 で、「1 檜葉町に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問 13 (1) 現在、檜葉町内でお住まいの住宅は、どのような形態ですか。(〇は1つ)

現在の檜葉町内での住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替えた場合を含む）」が 82.1% で最も高い割合を占めている。

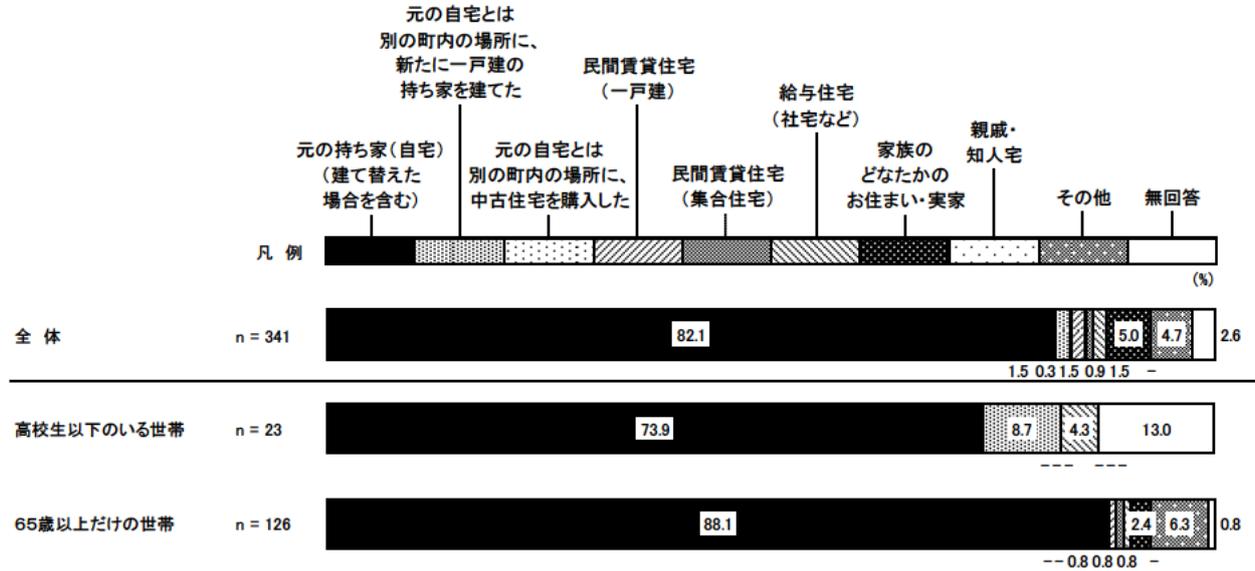
回答者の年齢別にみると、「元の持ち家（自宅）（建て替えた場合を含む）」は、いずれの年代においても最も高い割合を占めている。

<図表3-1-3-1 現在の檜葉町内での住居形態（年齢別）>



世帯構成別にみると、いずれの世帯においても、「元の持ち家（自宅）（建て替えた場合を含む）」が最も高い割合を占めている。

<図表3-1-3-2 現在の檜葉町内での住居形態（世帯構成別）>



(2) 現在の居住自治体

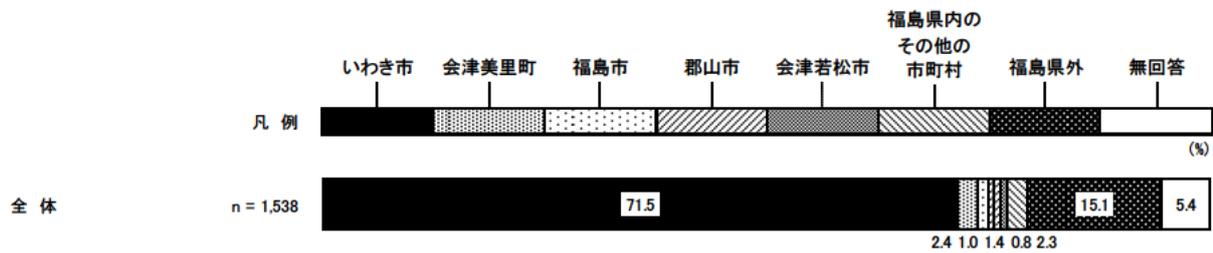
【問 14 は、問 12 で、「2」～「5」と回答した方にうかがいます。】

問 14 (1) あなたが現在お住まいの自治体名を教えてください。(〇は1つ)

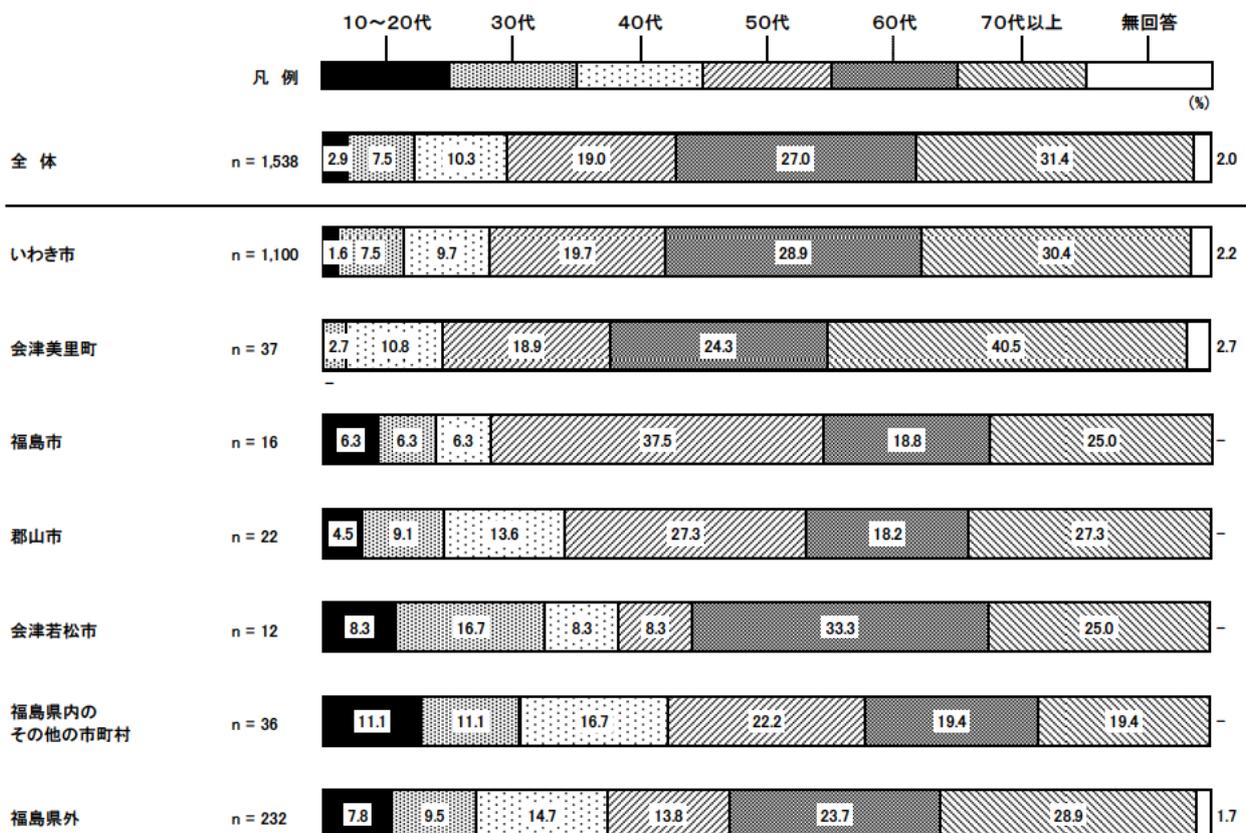
問 12 で「楡葉町に戻っている」と回答した方以外の現在の居住自治体については、「いわき市」が71.5%と最も高く、次いで「福島県外」が15.1%となっている。

現在の居住自治体について回答者の年齢別にみると、「いわき市」では、60代以上の高齢層が約6割と割合が高くなっている。

<図表3-1-3-3 現在の居住自治体>



<図表3-1-3-4 現在の居住自治体の年齢構成>



震災発生当時の住まいの行政区別にみると、すべての行政区において「いわき市」が5割以上となっている。

<図表3-1-3-5 現在の居住自治体（震災発生当時の住まいの行政区別）>

	n	(%)							
		いわき市	会津美里町	福島市	郡山市	会津若松市	福島県内のその他の市町村	福島県外	無回答
全体	1,538	71.5	2.4	1.0	1.4	0.8	2.3	15.1	5.4
旭ヶ丘	8	50.0	25.0	-	-	-	-	25.0	-
営団	65	64.6	3.1	1.5	6.2	1.5	4.6	15.4	3.1
乙次郎	-	-	-	-	-	-	-	-	-
下井出	88	69.3	3.4	1.1	-	1.1	3.4	15.9	5.7
下小埜	181	77.3	1.7	0.6	-	0.6	1.7	13.8	4.4
下繁岡	64	70.3	1.6	3.1	1.6	1.6	1.6	15.6	4.7
山所布	1	-	-	-	-	-	-	100.0	-
山田岡	202	72.8	2.5	1.5	1.5	-	2.5	14.4	5.0
山田浜	41	87.8	2.4	-	-	-	-	7.3	2.4
女平	6	100.0	-	-	-	-	-	-	-
松館	44	77.3	-	-	-	-	-	9.1	13.6
上井出	242	65.3	4.5	0.4	2.9	1.7	1.7	17.8	5.8
上小埜	87	69.0	2.3	3.4	1.1	1.1	1.1	18.4	3.4
上繁岡	81	79.0	2.5	2.5	1.2	-	2.5	7.4	4.9
前原	52	78.8	1.9	-	-	-	9.6	7.7	1.9
大坂	6	83.3	-	-	-	-	-	-	16.7
大谷	75	73.3	2.7	-	-	2.7	4.0	14.7	2.7
楢木下	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-
波倉	42	71.4	-	-	4.8	-	-	19.0	4.8
繁岡	62	67.7	-	-	1.6	-	3.2	19.4	8.1
北田	124	71.0	0.8	0.8	1.6	0.8	3.2	16.1	5.6
その他	23	52.2	-	4.3	-	-	-	26.1	17.4

(3) 檜葉町以外の居住者の現在の住居形態

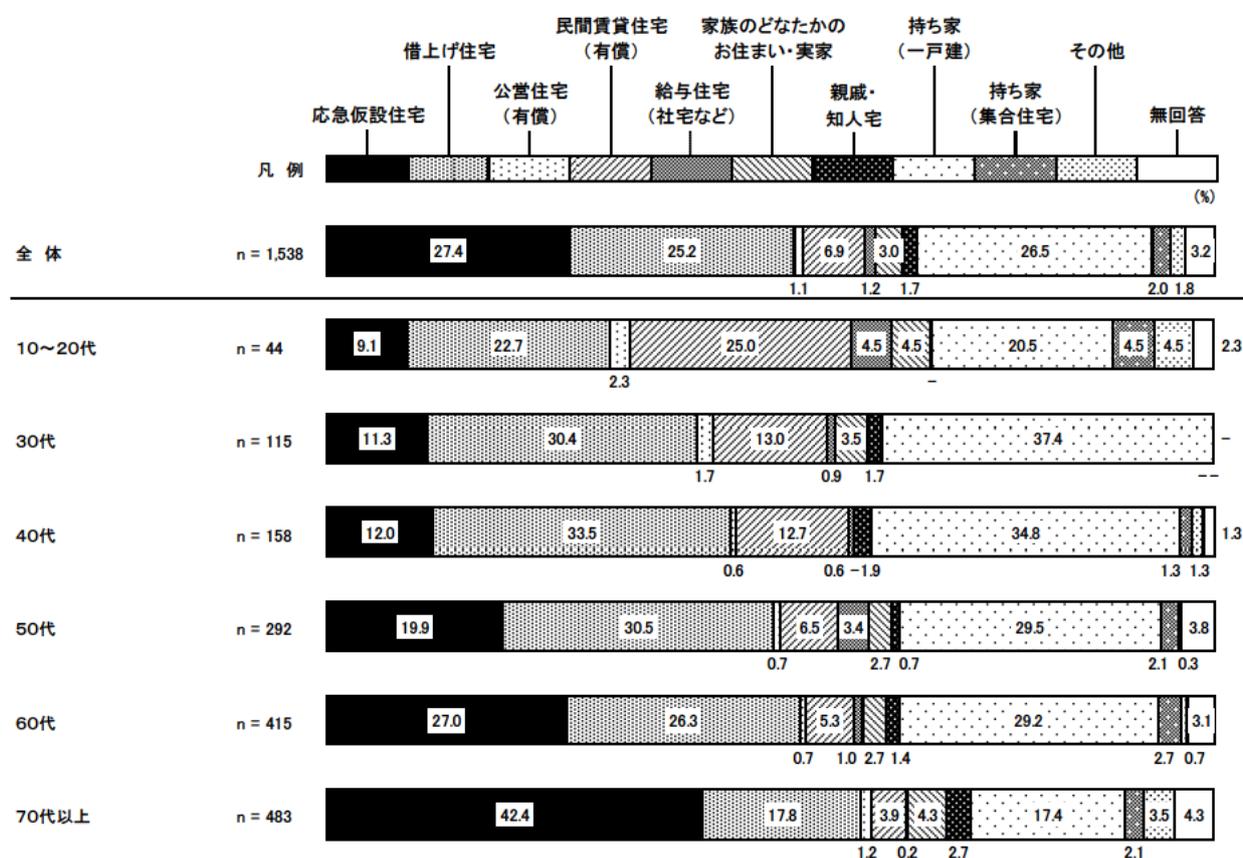
【問 14 は、問 12 で、「2」～「5」と回答した方にうかがいます。】

問 14 (2) 現在お住まいの住居は、どのような住居形態ですか。(〇は1つ)

問 12 で「檜葉町に戻っている」と回答した方以外の現在の住居形態については、「応急仮設住宅」が 27.4% と最も高く、次いで「持ち家（一戸建）」が 26.5%、「借上げ住宅」25.2%となっている。

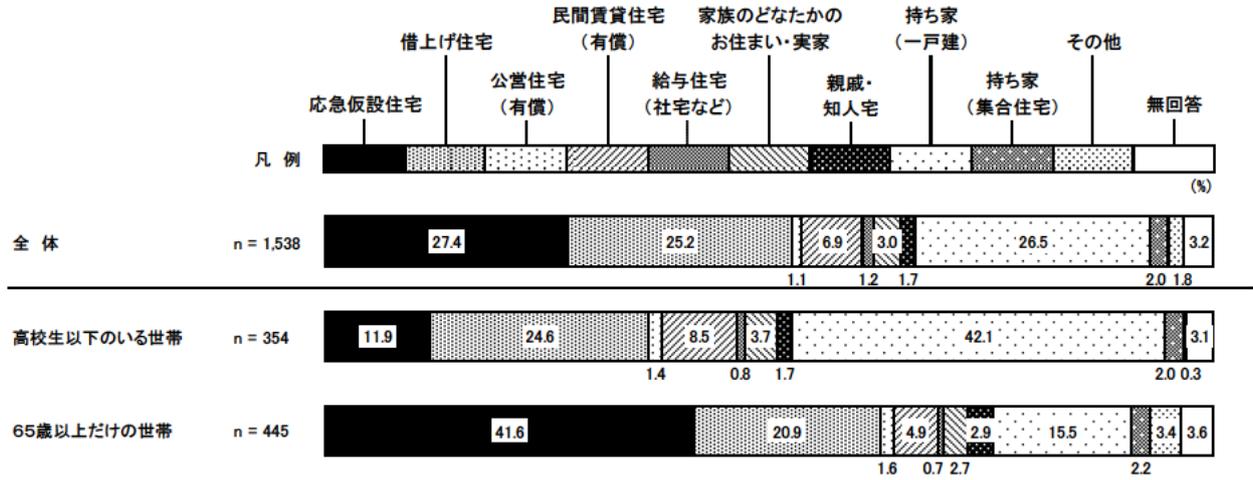
回答者の年齢別にみると、「応急仮設住宅」は年齢が高くなるほど割合が高くなり、70 代以上（42.4%）で最も高くなっている。一方、「持ち家（一戸建）」は年齢が低くなるほど割合が高くなり、30 代（37.4%）で最も高くなっている。また、「借上げ住宅」は 30 代（30.4%）、40 代（33.5%）、50 代（30.5%）で、3 割以上となっている。

<図表 3-1-3-6 檜葉町以外の居住者の現在の住居形態（年齢別）>

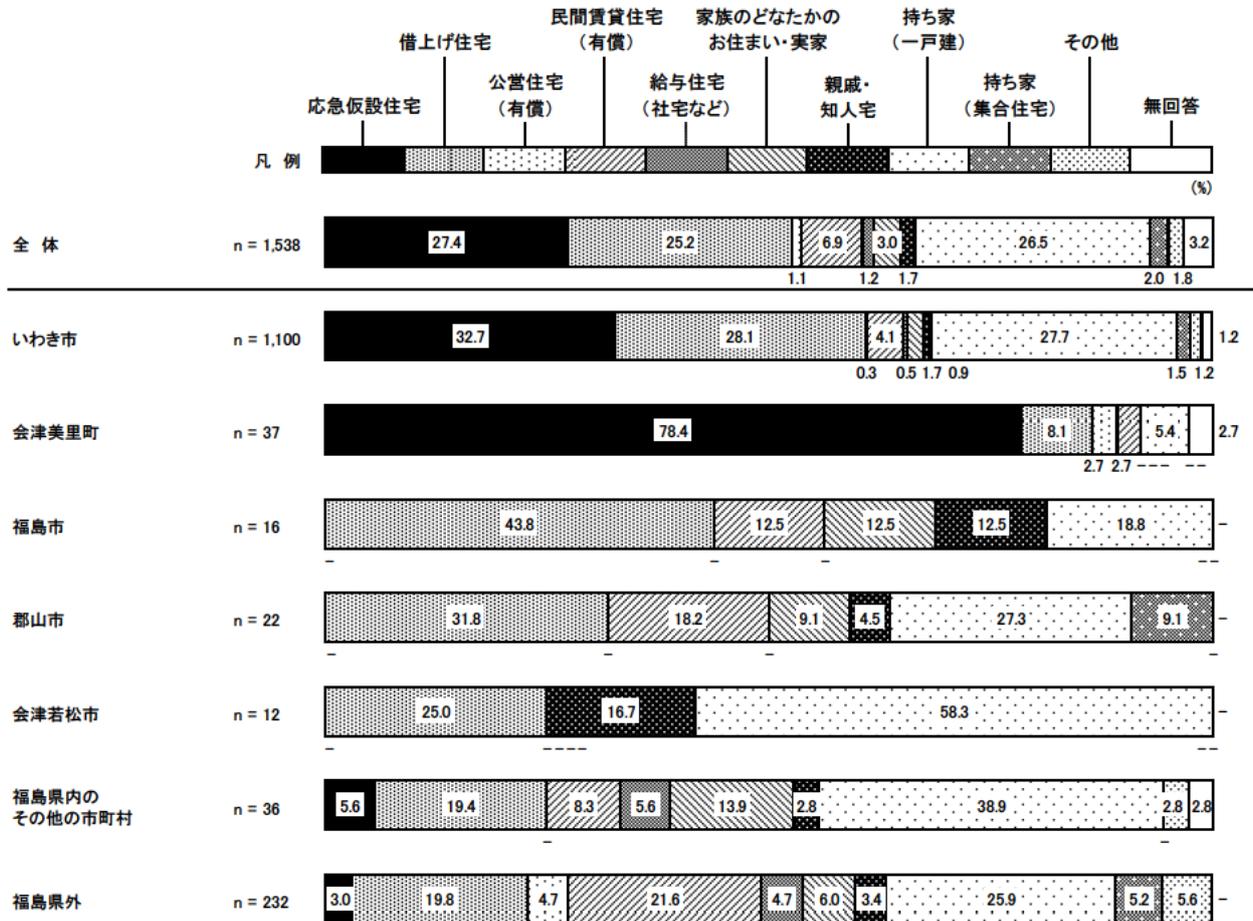


世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「応急仮設住宅」(41.6%)が最も高くなっている一方、高校生以下のいる世帯では「持ち家(一戸建)」(42.1%)が最も高くなっている。
現在の居住自治体別にみると、会津美里町で「応急仮設住宅」(78.4%)が特に高くなっている。

<図表3-1-3-7 榎葉町以外の居住者の現在の住居形態(世帯構成別)>



<図表3-1-3-8 榎葉町以外の居住者の現在の住居形態(現在の居住自治体別)>



3-2 震災発生当時の住居形態

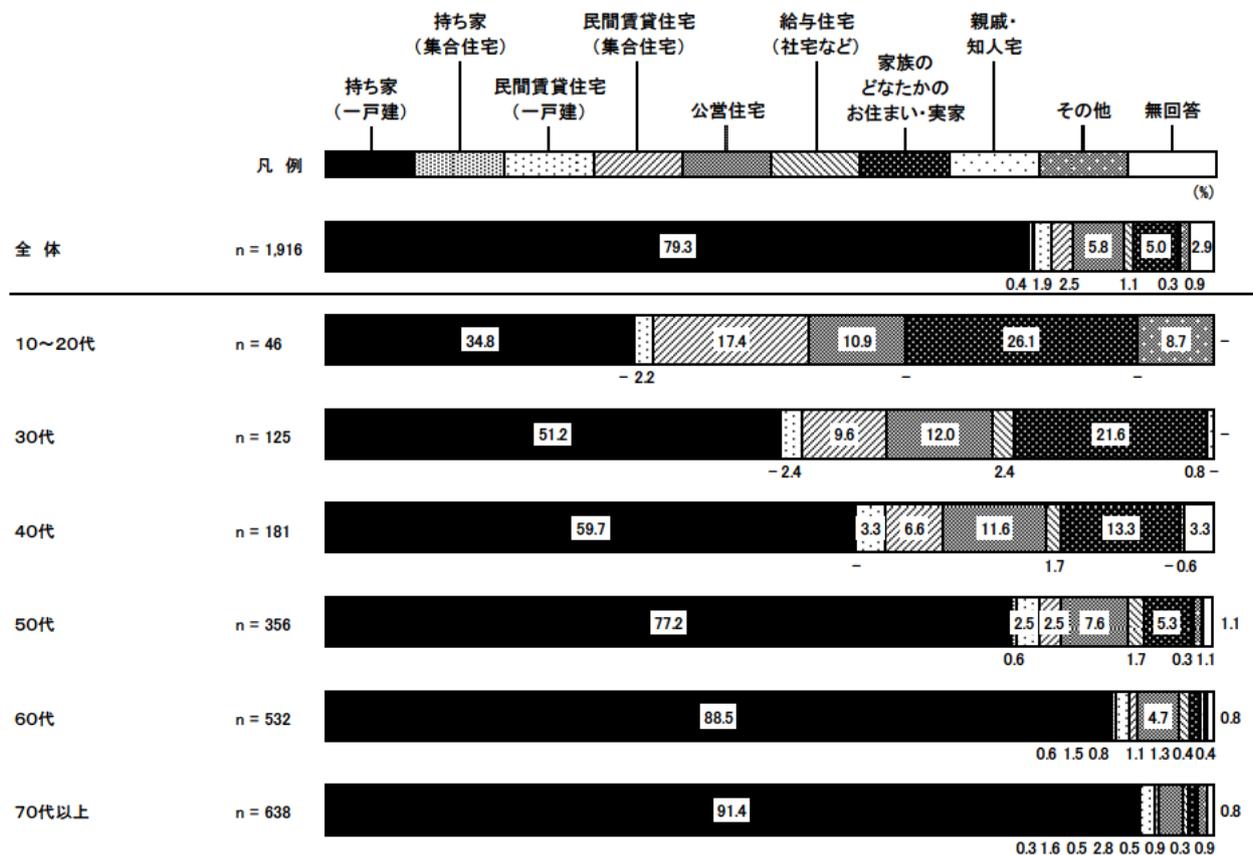
3-2-1 震災発生当時の住居形態

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(〇は1つ)

震災発生当時の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が79.3%となっており、最も高い割合を占めている。

回答者の年齢別にみると、70代以上は「持ち家（一戸建）」（91.4%）が約9割と、年齢が高くなるほど割合が高くなっている。一方、10～20代は「民間賃貸住宅（集合住宅）」（17.4%）、「家族のどなたかのお住まい・実家」（26.1%）と、年齢が低くなるほど割合が高くなっている。

<図表3-2-1-1 震災発生当時の住居形態（年齢別）>



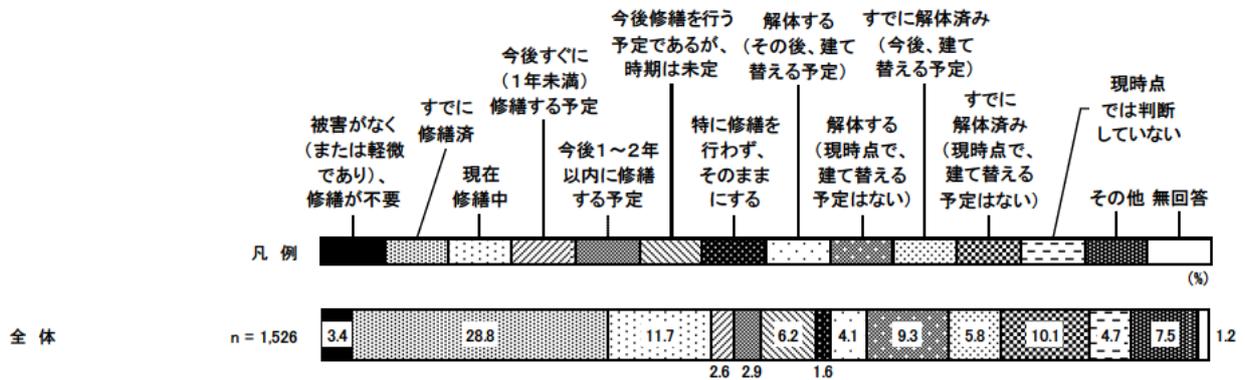
3-2-2 震災発生当時の持ち家の今後の予定

【問6で、「1 持ち家（一戸建）」または「2 持ち家（集合住宅）」と回答した方にうかがいます。】

問7 震災発生当時にお住まいだった持ち家（自宅）は、今後どのようにされる予定ですか。（〇は1つ）

震災発生当時の持ち家の今後の予定については、「すでに修繕済」が28.8%と最も高く、次いで「現在修繕中」が11.7%、「すでに解体済み（現時点で、建て替える予定はない）」が10.1%となっている。

<図表3-2-2-1 震災発生当時の持ち家の今後の予定>



3-3 将来の意向

3-3-1 今後の職業についての意向

(1) 今後の職業についての意向

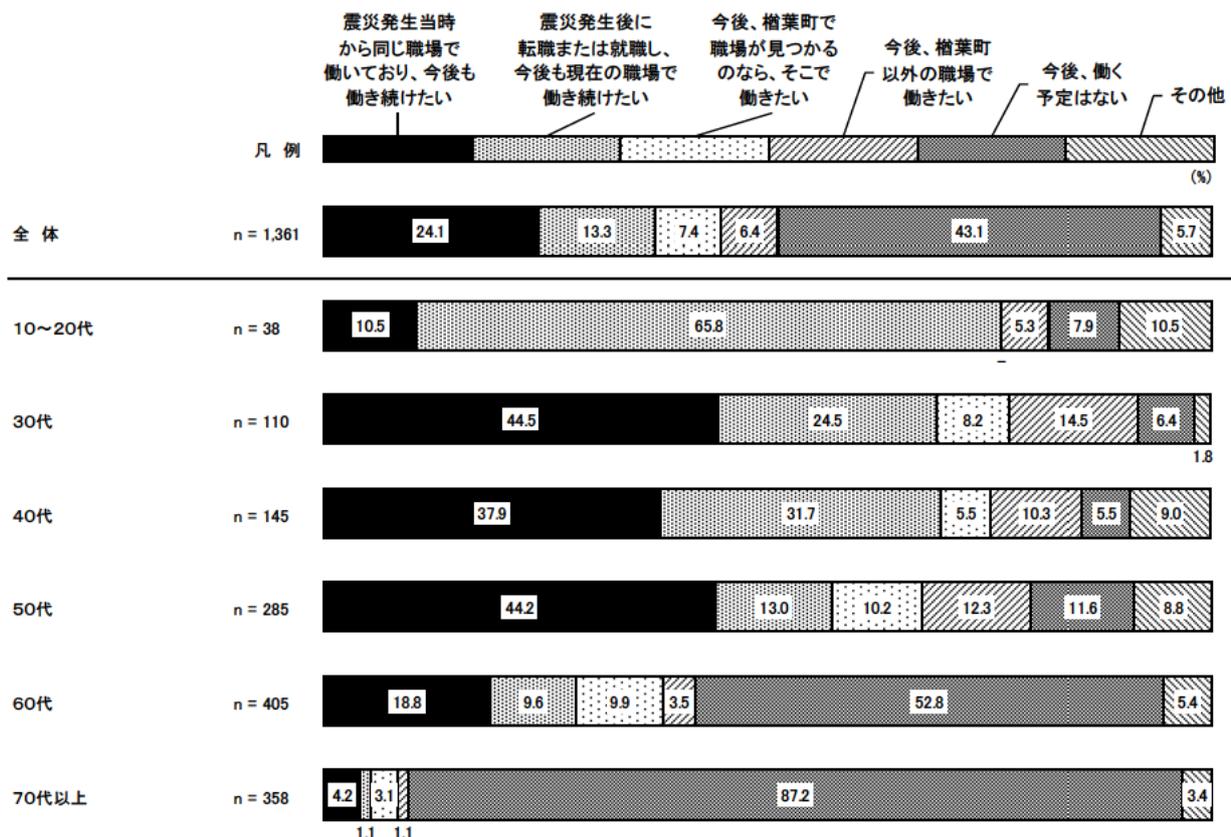
【問 11 は、震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外（会社員、団体職員、公務員、パート・アルバイト、学生、無職、その他）の方は下記にご回答ください。】

問 11 (1) 今後の職業について、どのようにお考えですか。(〇は1つ)

震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外だった人の今後の職業についての意向については、「今後、働く予定はない」が43.1%と最も高く、次いで「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が24.1%、「震災発生後に転職または就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」が13.3%となっている。

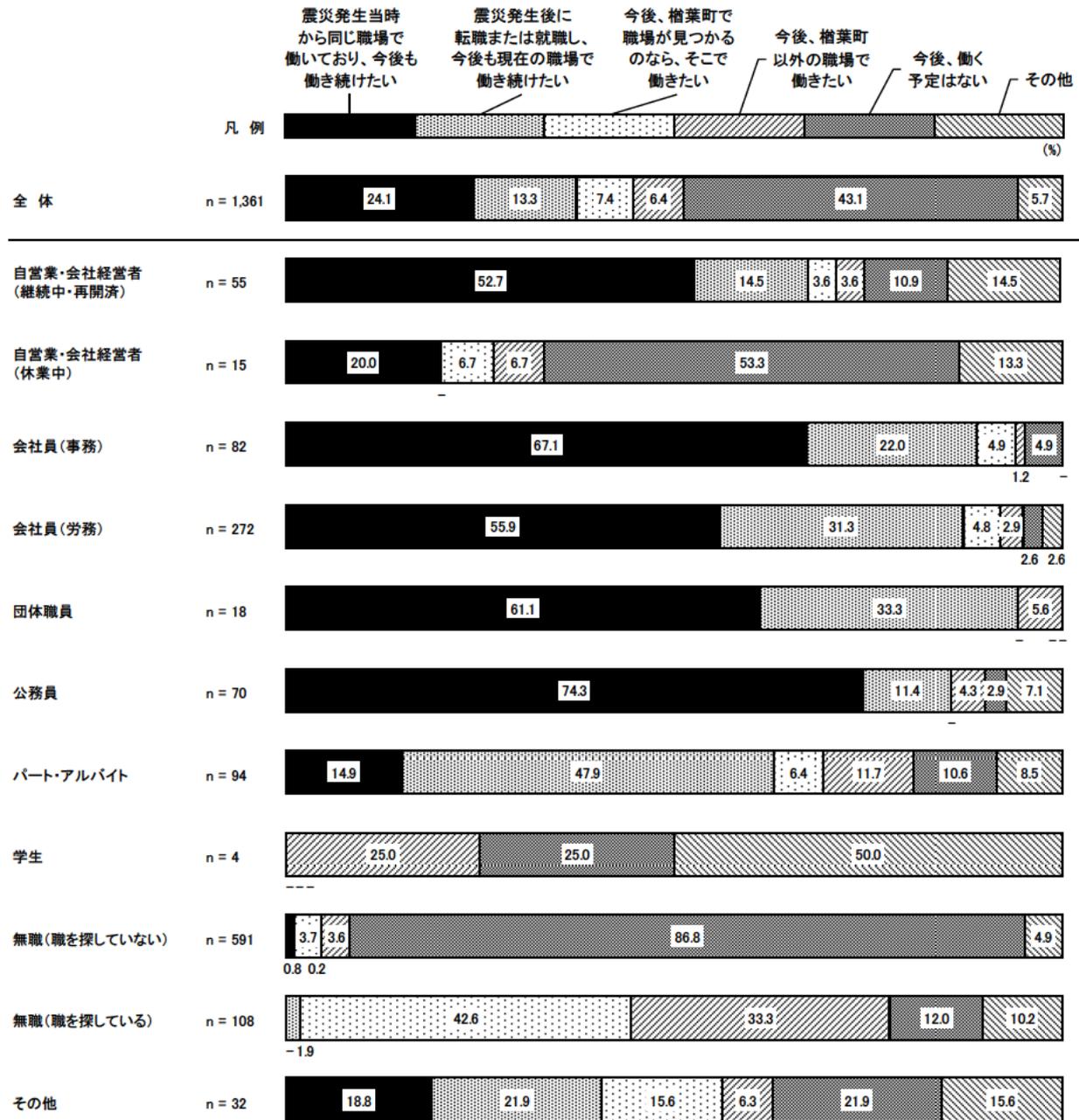
回答者の年齢別にみると、30代、40代、50代で「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」が最も高くなっているが、10～20代では「震災発生後に転職または就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」が高くなっている。

<図表3-3-1-1 今後の職業についての意向（自営業、会社経営者以外）（年齢別）>



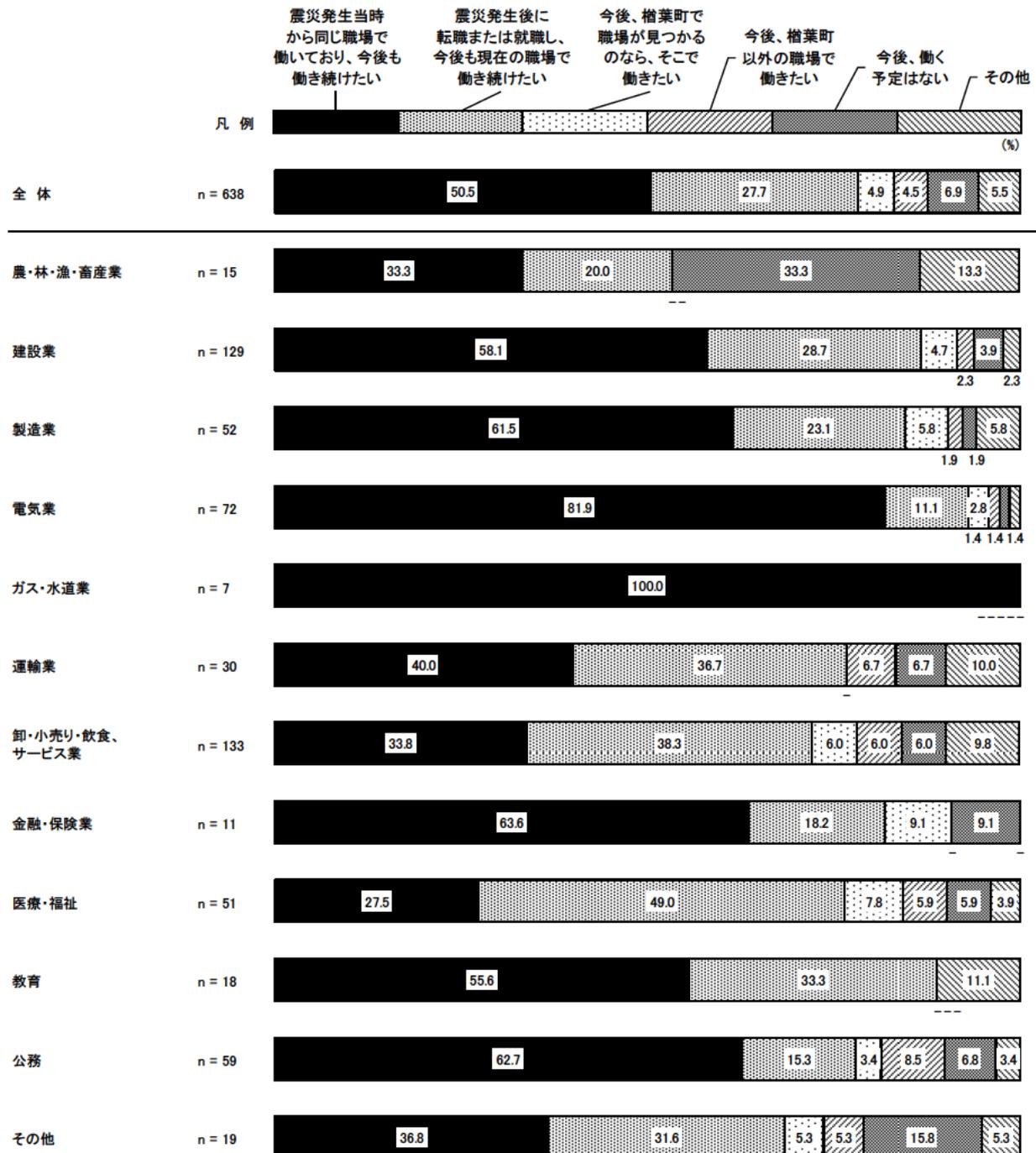
職業別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、公務員（74.3%）、会社員（事務）（67.1%）、会社員（労務）（55.9%）が他の職業に比べて割合が高くなっている。
 無職（職を探している）の方では、「今後、楢葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」（42.6%）が他に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-1-2 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者以外）（職業別）>



業種別にみると、「震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働き続けたい」は、電気業（81.9%）が他の業種に比べて高くなっている。また、「震災発生後に転職または就職し、今後も現在の職場で働き続けたい」は、医療・福祉（49.0%）が他の業種に比べて高くなっている。

<図表3-3-1-3 今後の職業についての意向（自営業・会社経営者以外）（業種別）>



(2) 檜葉町内で求職や就労する際の支障や希望する支援策

【問 11 (1) で、「3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」と回答した方にかがいます。】

問 11 (2) 今後、町内で職場を探し、仕事をする上で何か支障となること、支援策として事業者や行政に望むことがありましたら、自由なお考えをご回答ください。

檜葉町内で求職や就労する際の支障や希望する支援策について、代表的な意見は以下のとおり。

〔檜葉町内で求職や就労する際の支障や希望する支援策〕

- 職業訓練校の開校。(30代)
- 介護をしながらでも出来るシフト制の仕事の求人。(40代)
- 障がいがあっても働ける仕事の紹介。(40代)
- 檜葉町内での求人。(50代)
- 檜葉町の復興に関わる仕事の紹介。(50代)
- 工業団地の増設。(50代)
- 商業施設の充実。(50代)
- 広報等での求人情報等の掲載。(50代)
- 高齢の親が居る為、数日家を空けた時の急な対応支援。(60代)
- 高齢者でも働ける仕事の提供。(60代)
- 帰町して働くための住宅の提供。(60代)
- 仕事場までの送迎。もしくは、自宅から徒歩圏内の仕事場。(60代)
- 生活インフラ等の整備の全般支援。檜葉で働く為の生活費支援。(60代)
- 自分に合った仕事の求人。(60代)
- 若者への求人支援。(70代以上)
- 帰町した高齢者への求人支援。(70代以上)

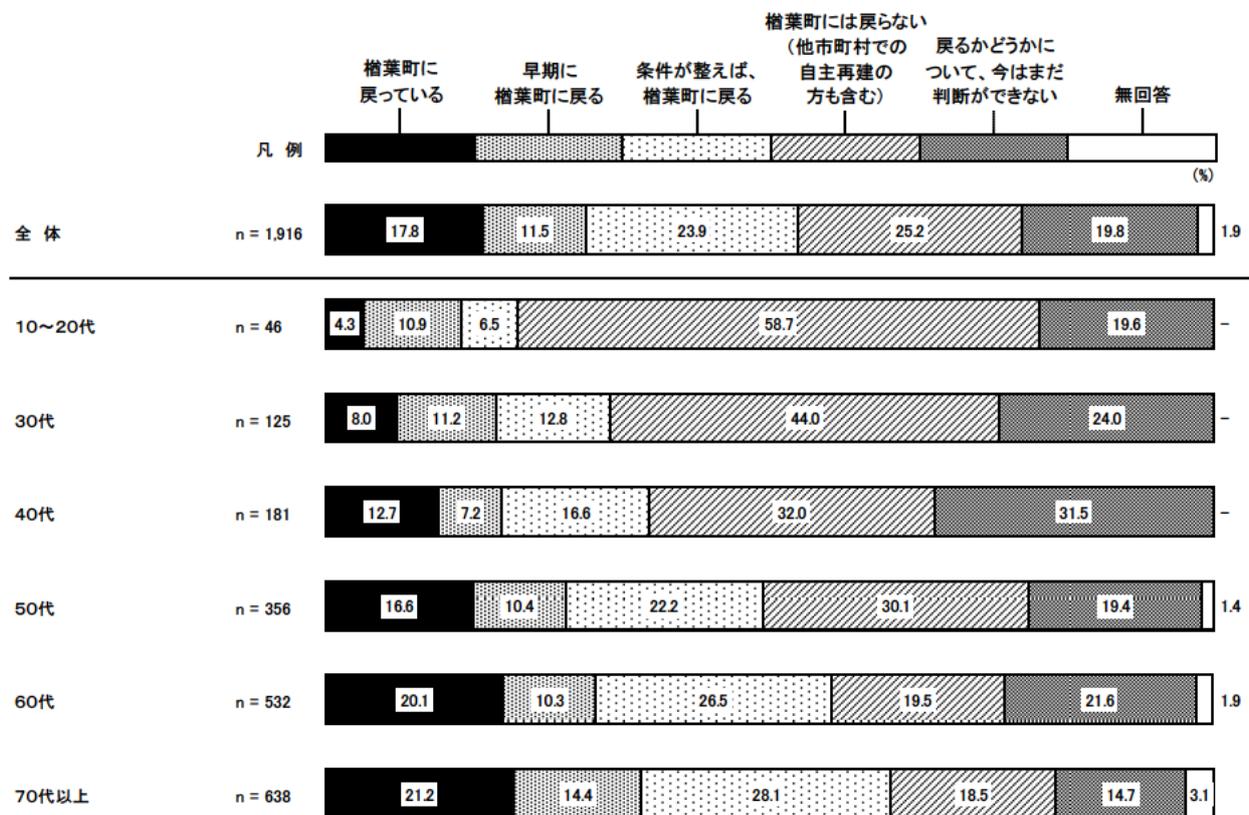
3-3-2 檜葉町への帰還意向

問 12 現状及びこれからの住まいについてお答えください。(〇は1つ)

檜葉町への帰還意向については、「檜葉町に戻っている」が 17.8%、「早期に檜葉町に戻る」が 11.5%、「条件が整えば、檜葉町に戻る」が 23.9%で、5 割以上の方（53.2%）が「戻っている」、「戻る」と回答している。

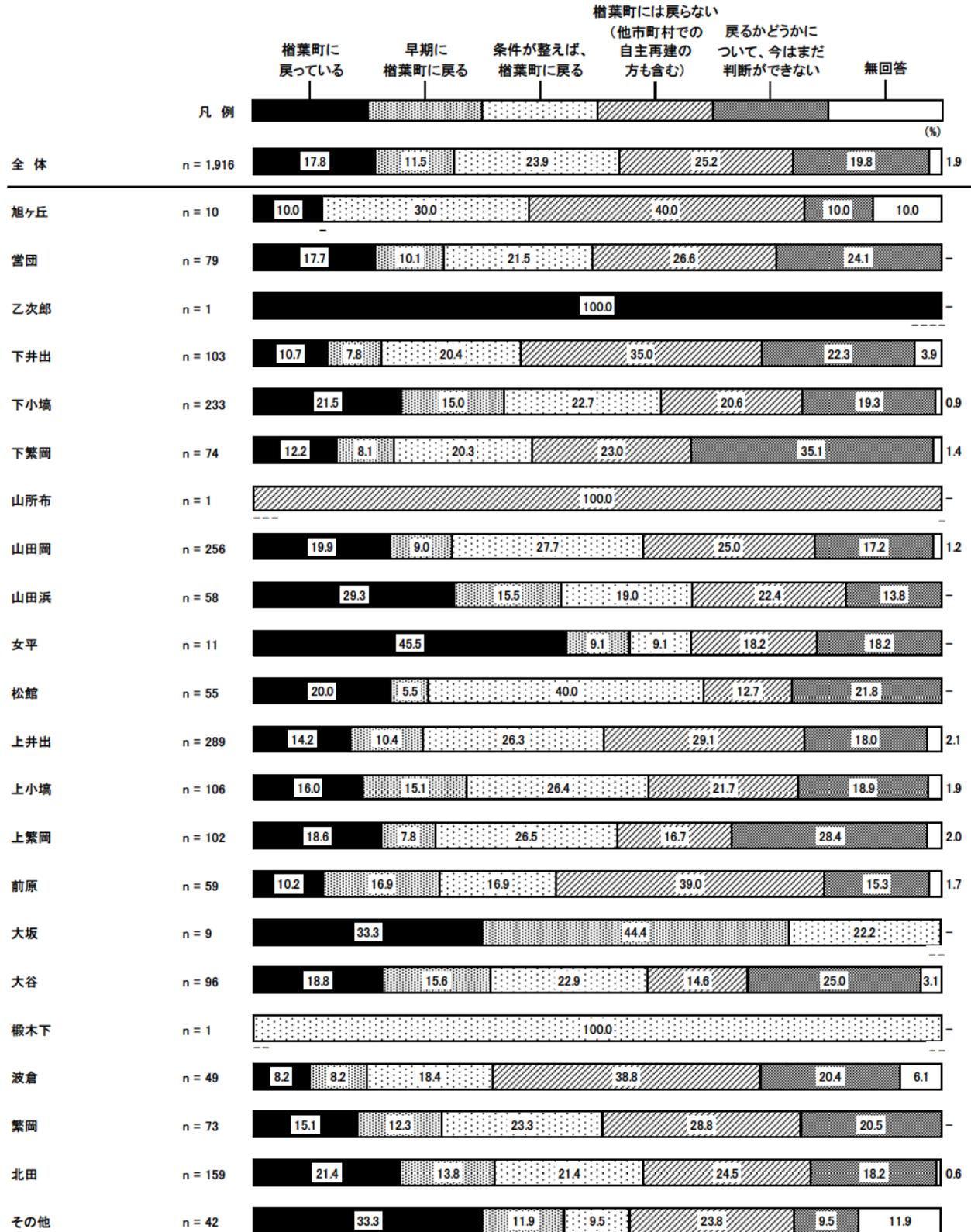
回答者の年齢別にみると、年齢が高くなるにつれて「戻っている」、「戻る」と回答した方の割合が高くなり、年齢が低くなるにつれて「戻らない」の回答した方の割合が高くなっている。

<図表3-3-2-1 檜葉町への帰還意向（年齢別）>



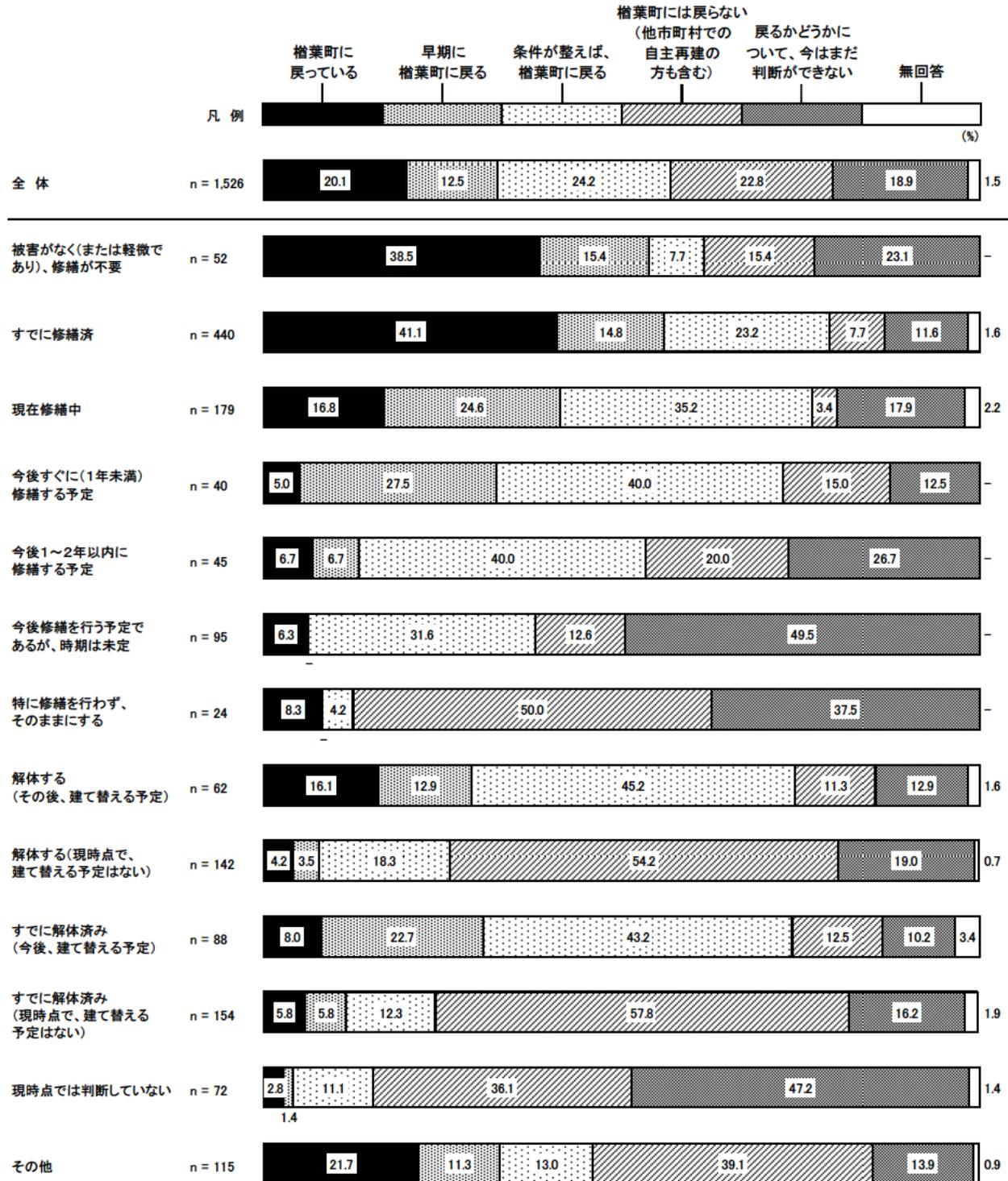
震災発生当時の住まいの行政区別にみると、「榑葉町に戻っている」は山田浜（29.3%）、「条件が整えば、榑葉町に戻る」は松館（40.0%）、「榑葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」は前原（39.0%）、波倉（38.8%）が、その他の居住行政区に比べて最も高くなっている。

<図表3-3-2-2 榑葉町への帰還意向（震災発生当時の住まいの行政区）>



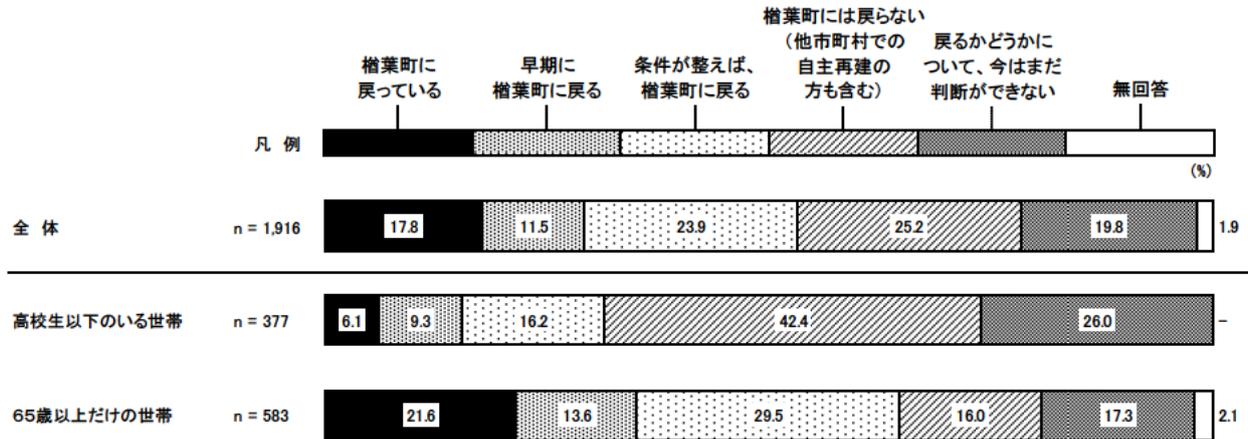
自宅修繕の進捗状況別にみると、「現在修繕中」「今後すぐに（1年未満）修繕する予定」「すでに解体済み（今後、建て替える予定）」と回答した方の概ね6割以上は「檜葉町に戻る」と回答している。

<図表3-3-2-3 檜葉町への帰還意向（自宅修繕の進捗状況別）>

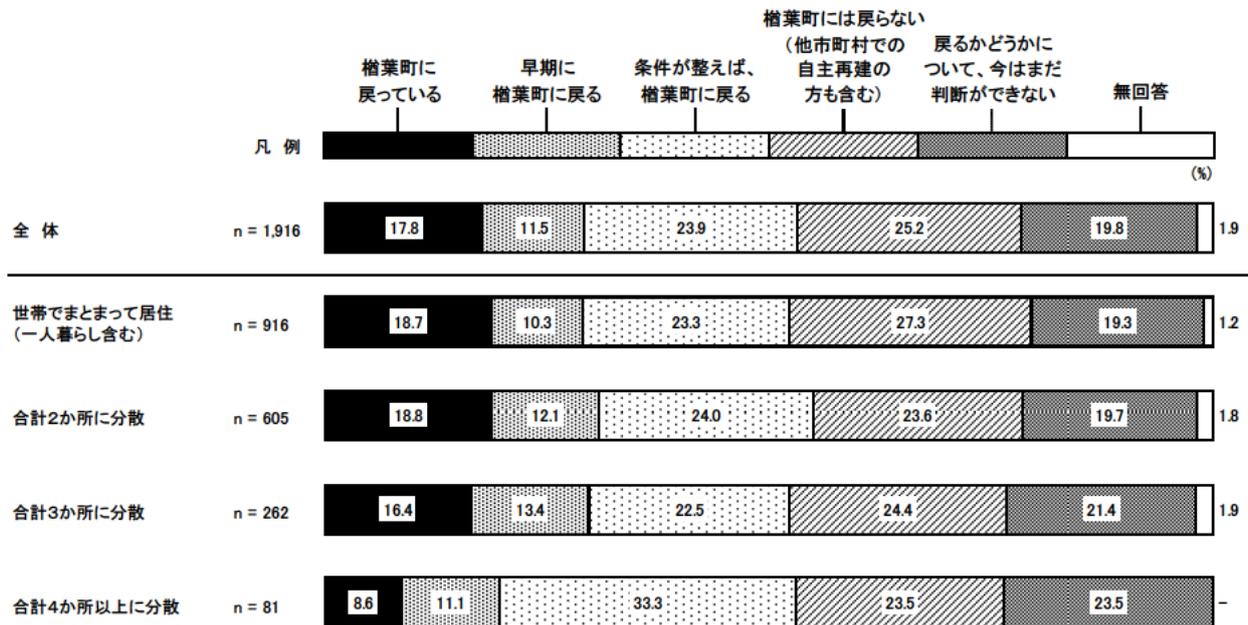


世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「檜葉町に戻っている」、「早期に檜葉町に戻る」、「条件が整えば、檜葉町に戻る」を合わせて6割以上となっている。一方、高校生以下のいる世帯では、「檜葉町には戻らない」が42.4%となっている。

<図表3-3-2-4 檜葉町への帰還意向（世帯構成別）>

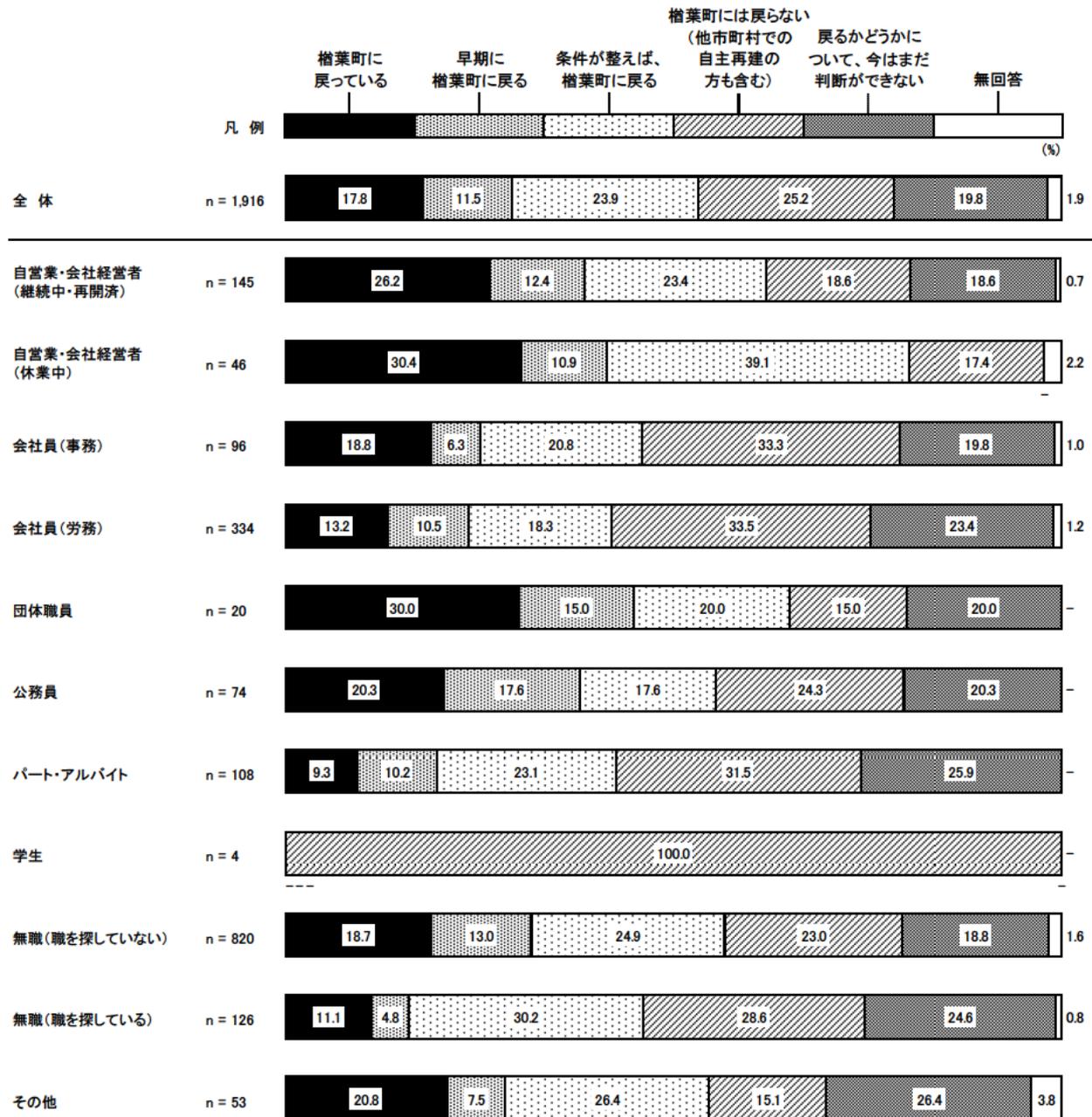


<図表3-3-2-5 檜葉町への帰還意向（世帯分散状況別）>



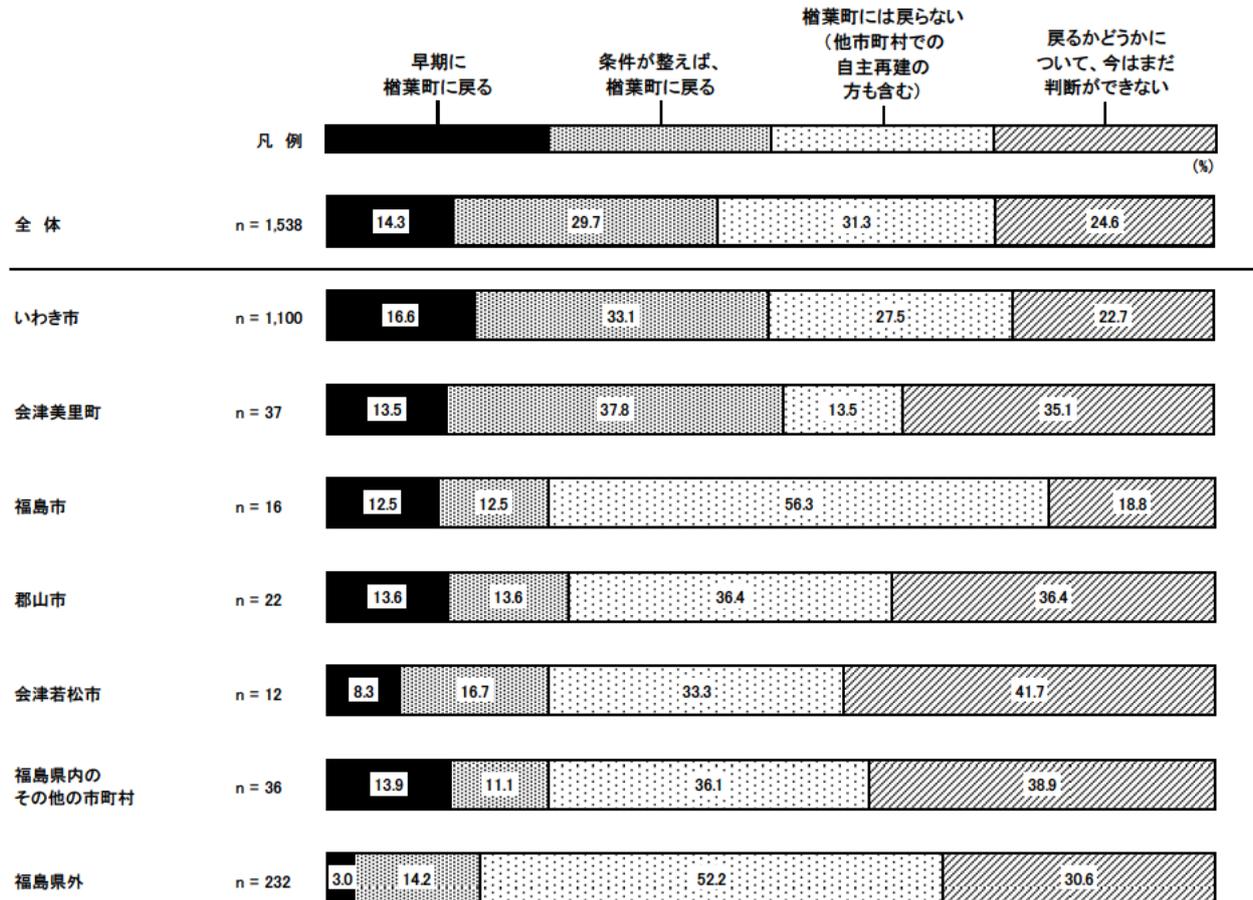
職業別に見ると、「条件が整えば、檜葉町に戻る」は、自営業・会社経営者（休業中）（39.1%）が他の職業に比べて割合が高くなっている。一方、「檜葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」は会社員（労務）（33.5%）、会社員（事務）（33.3%）、パート・アルバイト（31.5%）が他の職業に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-2-6 檜葉町への帰還意向（職業別）>



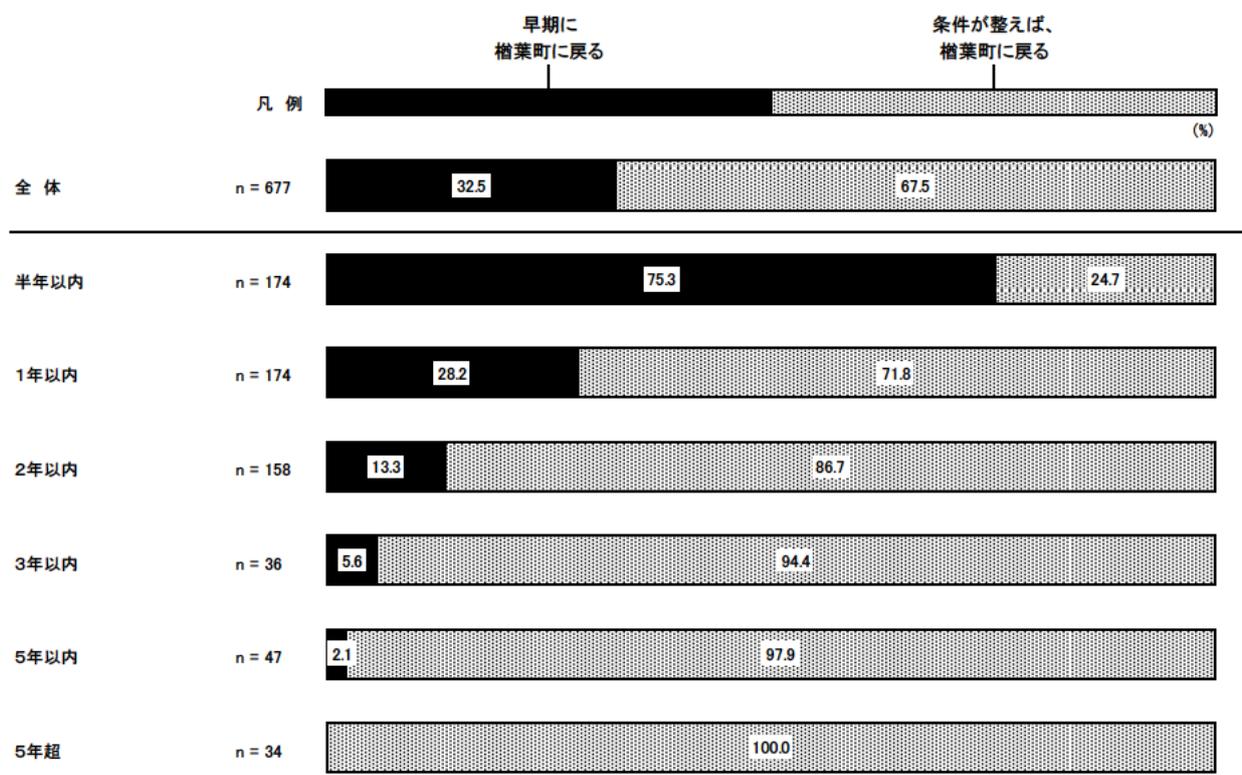
現在の居住自治体別にみると、いわき市、会津美里町で「早期に榎葉町に戻る」と「条件が整えば、榎葉町に戻る」が5割程度となっており、他の自治体に比べて割合が高くなっている。一方、「榎葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」は、福島県外（52.2%）が最も高くなっている。

<図表3-3-2-7 榎葉町への帰還意向（現在の居住自治体別）>



檜葉町への帰還時期別にみると、半年以内では「早期に檜葉町に戻る」が75.3%ととなっているが、1年以内、2年以内、3年以内、5年以内、5年超と帰還時期が先になるに従って「条件が整えば、檜葉町に戻る」の割合が高くなっている。

<図表3-3-2-8 檜葉町への帰還意向（檜葉町への帰還時期別）>



3-3-3 榑葉町内での今後の生活において必要だと感じていること

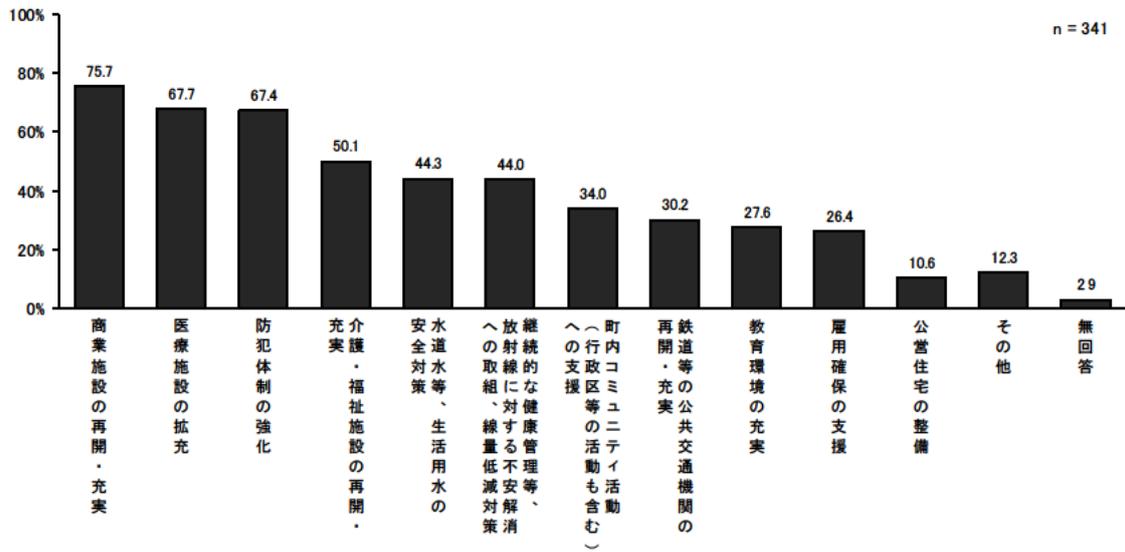
(1) 榑葉町での今後の生活において必要だと感じていること

【問 13 は、問 12 で、「1 榑葉町に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問 13 (2) 榑葉町内での今後の生活において、必要だと感じていることについてお答えください。(〇はいくつでも)

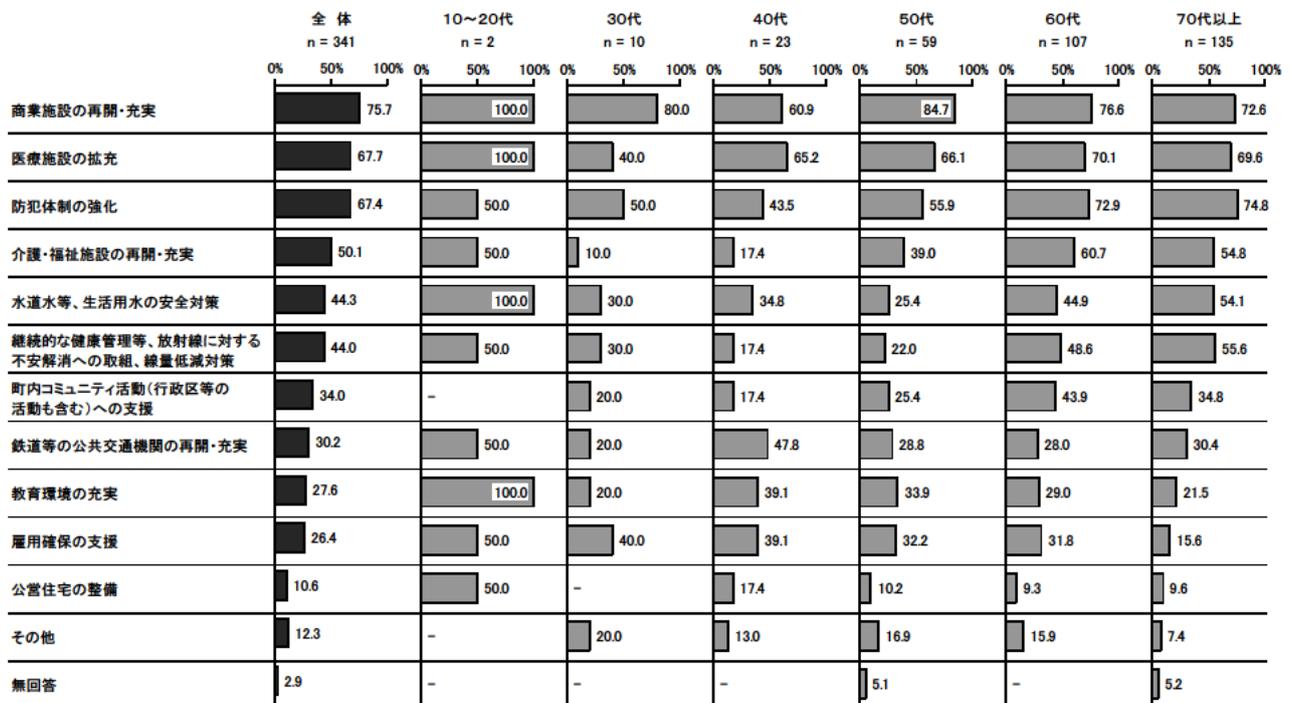
榑葉町での今後の生活において必要だと感じていることについては、「商業施設の再開・充実」が 75.7%と最も高く、次いで、「医療施設の拡充」が 67.7%、「防犯体制の強化」が 67.4%となっている。

<図表 3-3-3-1 榑葉町内での今後の生活において必要だと感じていること>



回答者の年齢別にみると、「商業施設の再開・充実」は、他の必要だと感じていることに比べてどの年代でも概ね高くなっているが、「防犯体制の強化」は60代（72.9%）、70代以上（74.8%）が他の年代と比べて高くなっている。

<図表3-3-3-2 檜葉町内での今後の生活において必要だと感じていること（年齢別）>



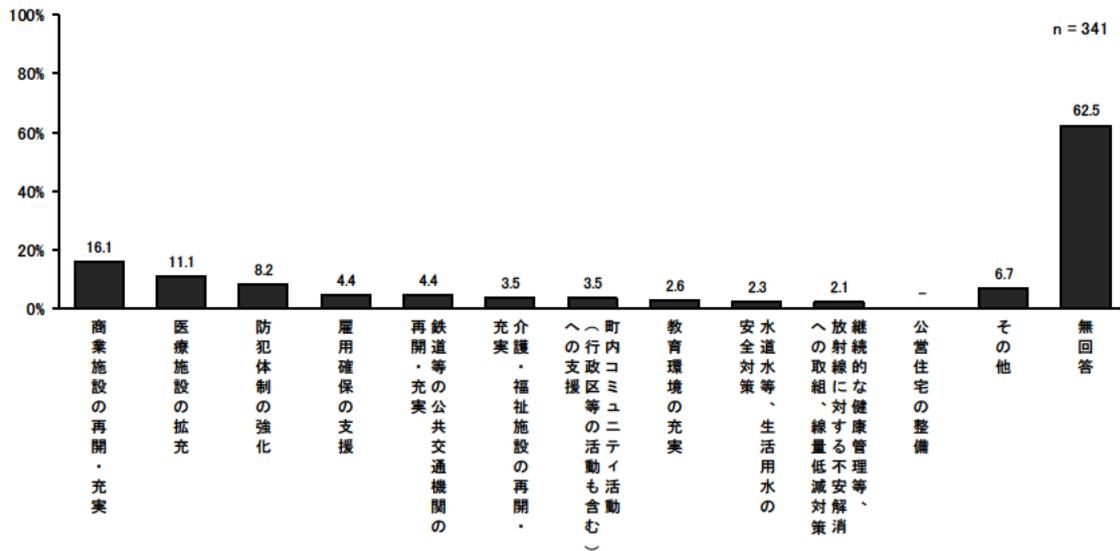
(2) 檜葉町内での今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考え

【問 13 は、問 12 で、「1 檜葉町に戻っている」と回答した方にうかがいます。】

問 13 (3) 問 13 (2) で選択した「必要だと感じていること」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「必要だと感じていること」について、自由なお考えをご回答ください。

檜葉町内での今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考えについては、「商業施設の再開・充実」が 16.1%と最も高く、次いで「医療施設の拡充」が 11.1%、「防犯体制の強化」が 8.2%となっている。

<図表 3-3-3-3 檜葉町内での今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考え>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【商業施設の再開・充実】

- 日曜日の商店営業。(30代)
- コンビニばかりでなく、夜間も営業する飲食店や、クリーニング店、ファーストフード店などの新設。(40代)
- コンパクトタウン以外の商業施設の開設。(40代)
- 余暇になる様な施設の充実。飲食店、DVD店など。(50代)
- 大型ショッピングモールがほしい。(50代)
- 大手スーパーなどの誘致。(60代)
- 食糧品、衣料品、雑貨等が一か所で買える様な施設を作ってほしい。(60代)
- 理容室、パーマ屋さんが早くほしい。(70代以上)

【医療施設の拡充】

- 眼科や耳鼻科の設置。(40代)
- 総合病院の設置が必要。(50代)
- 二次医療施設。(50代)
- 入院設備のある医療機関の設置。(60代)
- 医薬分業ではなく、院内処方の充実。薬剤師の人数を増やす。(60代)
- 夜間にも常住する医師の増員。(70代以上)
- 休日診療、夜間対応。(70代以上)

【防犯体制の強化】

- 消防団による活動の再開。地区ごとに見回りしてほしい。(40代)
- パトロールの強化と頻度の増加。(50代)
- 防犯カメラの設置を更に進め、夜間の外出の安全性を確保。(60代)
- こどもが安心して遊んだり、運動したり散歩したりできる環境の整備・充実。(60代)

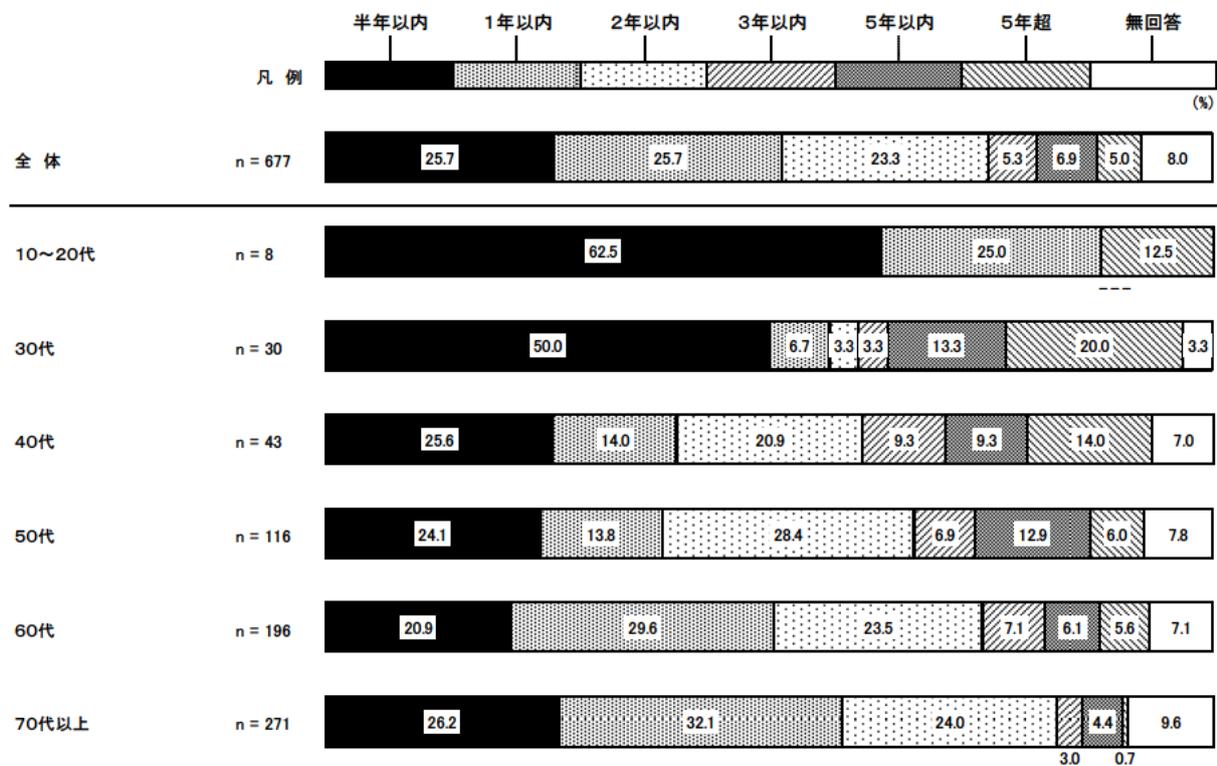
3-3-4 檜葉町へ戻る時期

【問 15 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」または「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】
 問 15 (1) 檜葉町に戻る時期について、現在のお考えをお聞かせください。(〇は1つ)

檜葉町へ戻る時期については、「半年以内」と「1年以内」がともに 25.7%と最も高く、次いで「2年以内」が 23.3%となっている。

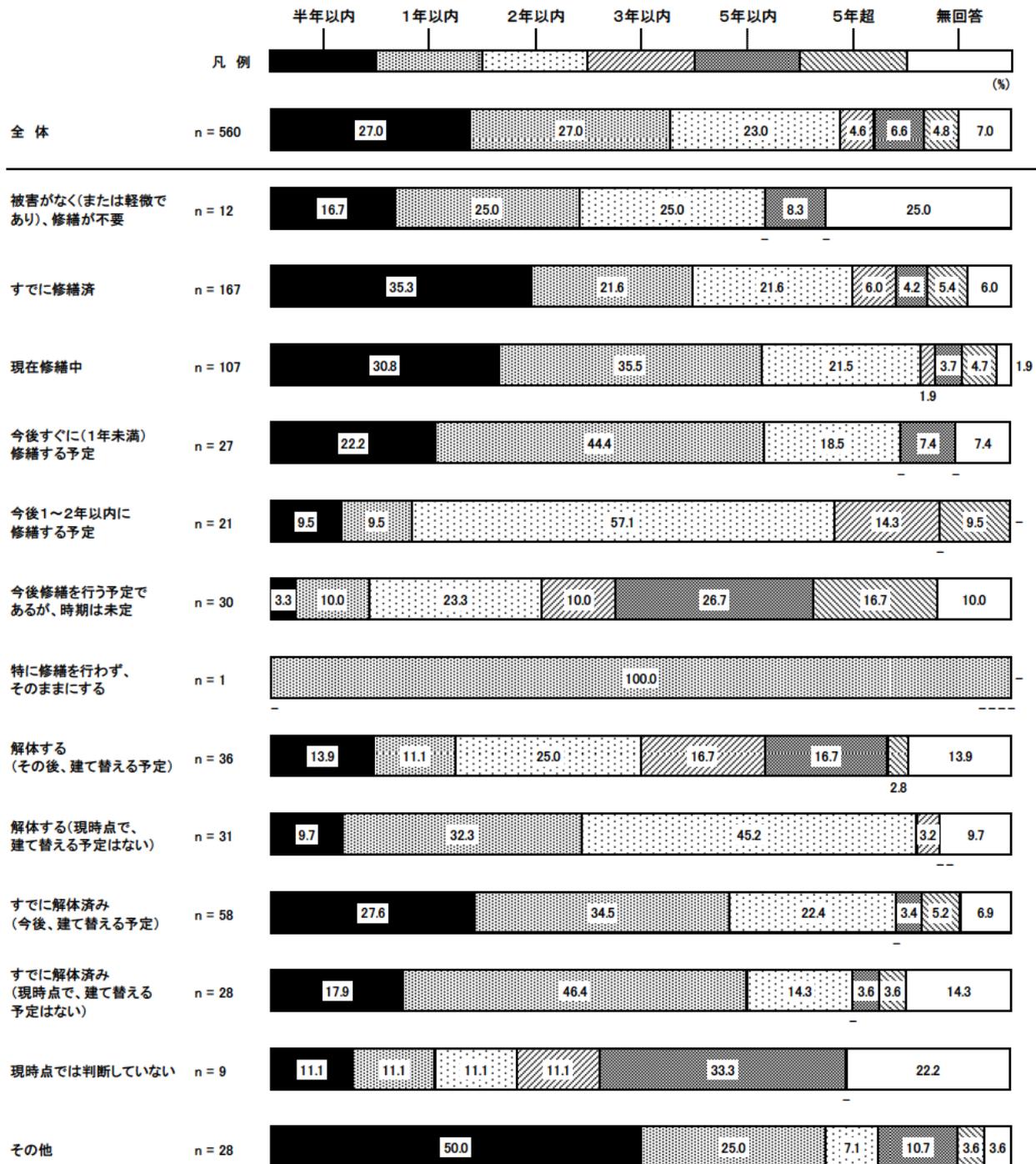
回答者の年齢別にみると、「半年以内」は、30代(50.0%)が他の年代に比べて割合が高くなっている。また、「1年以内」は60代(29.6%)、70代以上(32.1%)が他の年代と比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-4-1 檜葉町へ戻る時期(年齢別)>



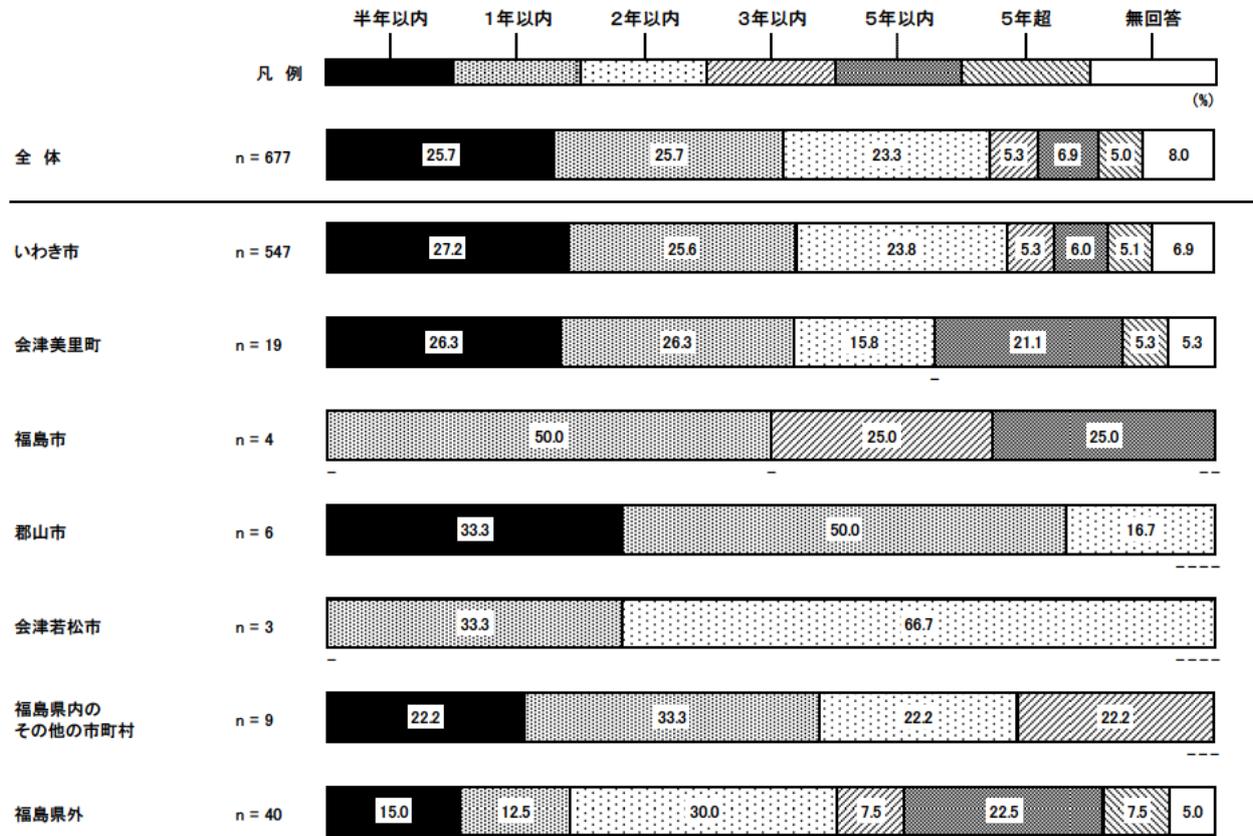
自宅修繕の進捗状況別にみると、「半年以内」はすでに修繕済(35.3%)、「1年以内」は現在修繕中(35.5%)、すでに解体済み(今後、建て替える予定)(34.5%)、「2年以内」は解体する(現時点で、建て替える予定はない)(45.2%)が、他の修繕状況と比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-4-2 檜葉町へ戻る時期(自宅修繕の進捗状況別)>



現在の居住自治体別にみると、最も回答者数が多いいわき市では「半年以内」、「1年以内」、「2年以内」、「3年以内」で8割程度を占めている。

<図表3-3-4-3 檜葉町へ戻る時期（現在の居住自治体別）>



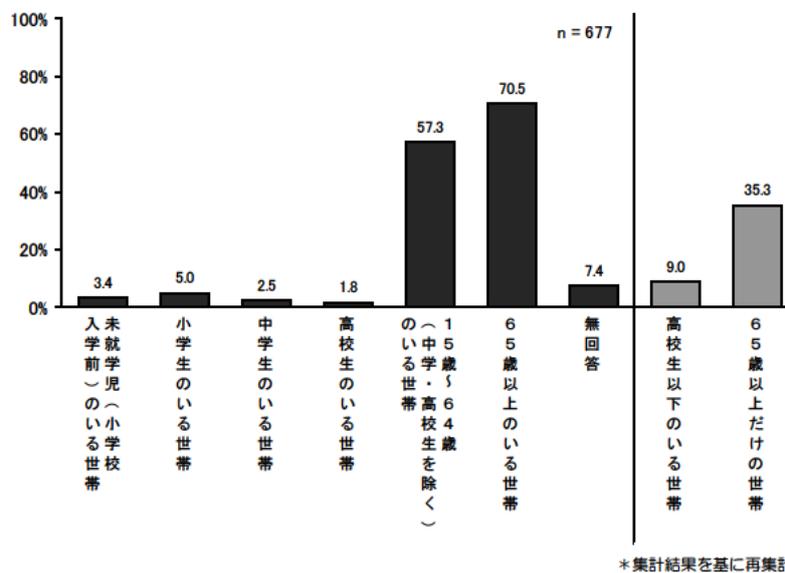
3-3-5 帰還後の世帯構成・人数

【問 15 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」または「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

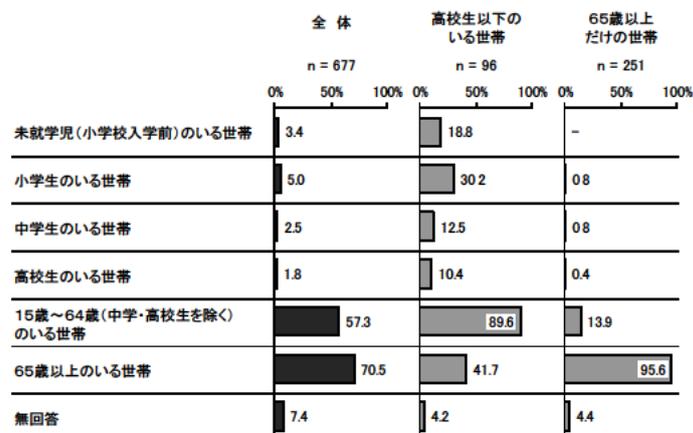
問 15 (2) 檜葉町への帰還後、どのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

帰還後の世帯構成については、「65 歳以上のいる世帯」が 70.5%、次いで「15 歳から 64 歳（中学・高校生を除く）のいる世帯」57.3%となっている。

<図表 3-3-5-1 帰還後の世帯構成>



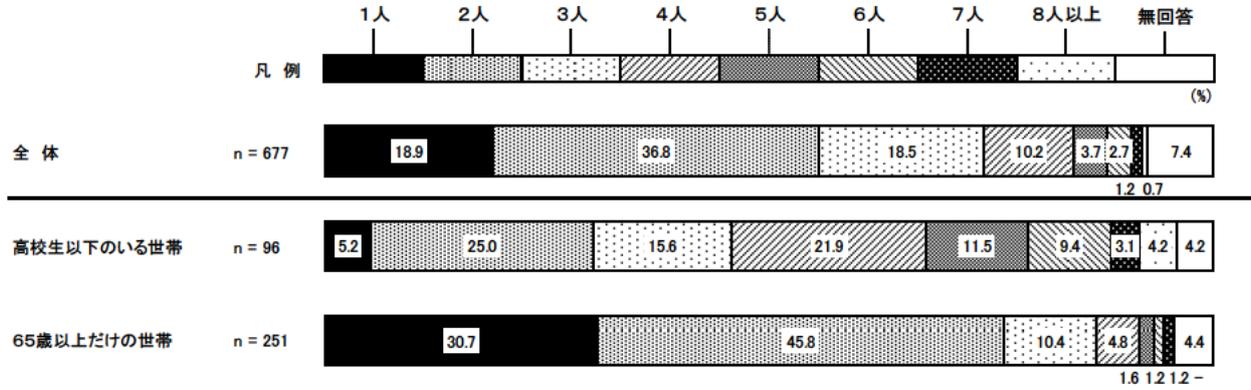
<図表 3-3-5-2 帰還後の世帯構成(世帯構成別)>



III 調査結果

帰還後の世帯人数を世帯構成別にみると、65歳以上だけの世帯では「1人」(30.7%)と「2人」(45.8%)の割合が高くなっているが、高校生以下のいる世帯では3人以上の割合が6割を超えている。

<図表3-3-5-3 帰還後の世帯人数(世帯構成別)>



3-3-6 榑葉町へ帰還する場合の住居形態

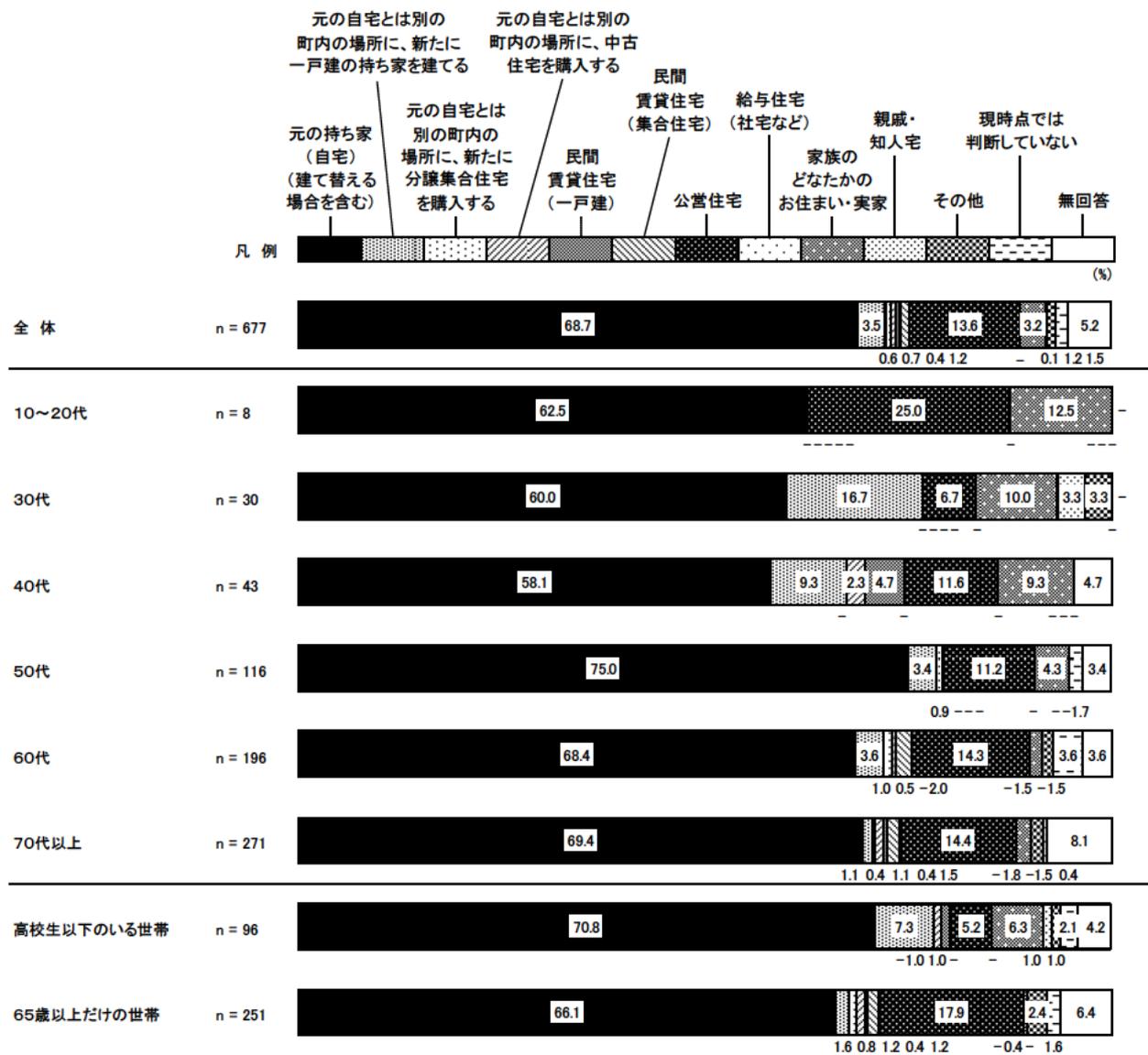
【問 15 は、問 12 で、「2 早期に榑葉町に戻る」または「3 条件が整えば、榑葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15 (3) 榑葉町へ帰還した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(〇は1つ)

榑葉町へ帰還する場合の住居形態については、「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が 68.7% と最も高く、次いで「公営住宅」が 13.6% となっている。

回答者の年齢別にみると、全ての年代で「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が他の住居形態に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-6-1 榑葉町へ帰還する場合の住居形態（年齢別・世帯構成別）>



III 調査結果

震災発生当時の住まいの行政区別にみると、すべての行政区において「元の持ち家（自宅）（建て替える場合を含む）」が、その他の住居形態に比べて最も高くなっている。

＜図表3-3-6-2 檜葉町へ帰還する場合の住居形態（震災発生当時の住まいの行政区別）＞

		(%)													
	n	元の持ち家（自宅） （建て替える場合を 含む）	元の持ち家とは別の町内 建の場所に、新たに 建て替える場合を 含む）	元の持ち家とは別の町内 建の場所に、新たに 購入する	元の持ち家とは別の町内 建の場所に、新たに 購入する	元の持ち家とは別の町内 建の場所に、新たに 購入する	民間賃貸住宅 （一戸建）	民間賃貸住宅 （集合住宅）	公営住宅	給与住宅（社宅など）	家族のどなたか のお住まい・実家	親戚・知人宅	その他	現時点では判断して いない	無回答
全 体	677	68.7	3.5	0.6	0.7	0.4	1.2	13.6	-	3.2	0.1	1.2	1.5	5.2	
旭ヶ丘	3	33.3	-	-	-	-	-	66.7	-	-	-	-	-	-	
営団	25	60.0	4.0	-	-	-	-	28.0	-	-	-	-	8.0	-	
乙次郎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
下井出	29	65.5	-	-	-	-	-	24.1	-	3.4	-	3.4	-	3.4	
下小埜	88	77.3	1.1	-	2.3	-	-	10.2	-	1.1	-	-	2.3	5.7	
下繁岡	21	76.2	-	-	-	-	-	9.5	-	4.8	-	-	4.8	4.8	
山所布	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
山田岡	94	61.7	6.4	-	1.1	2.1	2.1	16.0	-	2.1	-	1.1	3.2	4.3	
山田浜	20	70.0	15.0	-	5.0	-	-	5.0	-	-	-	5.0	-	-	
女平	2	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
松館	25	80.0	4.0	-	-	-	-	4.0	-	-	-	-	-	12.0	
上井出	106	53.8	6.6	1.9	0.9	0.9	2.8	24.5	-	2.8	0.9	-	-	4.7	
上小埜	44	88.6	-	-	-	-	-	4.5	-	4.5	-	-	-	2.3	
上繁岡	35	77.1	2.9	-	-	-	-	8.6	-	-	-	-	-	8.6	
前原	20	75.0	10.0	-	-	-	-	5.0	-	10.0	-	-	-	-	
大坂	6	83.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	16.7	
大谷	37	83.8	-	-	-	-	-	5.4	-	5.4	-	-	-	5.4	
楢木下	1	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
波倉	13	23.1	-	15.4	-	-	-	23.1	-	15.4	-	7.7	-	15.4	
繁岡	26	65.4	-	-	-	-	-	15.4	-	3.8	-	3.8	3.8	7.7	
北田	56	78.6	1.8	-	-	-	-	5.4	-	7.1	-	1.8	1.8	3.6	
その他	9	44.4	-	-	-	-	-	11.1	-	-	-	22.2	-	22.2	

3-3-7 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること

(1) 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること

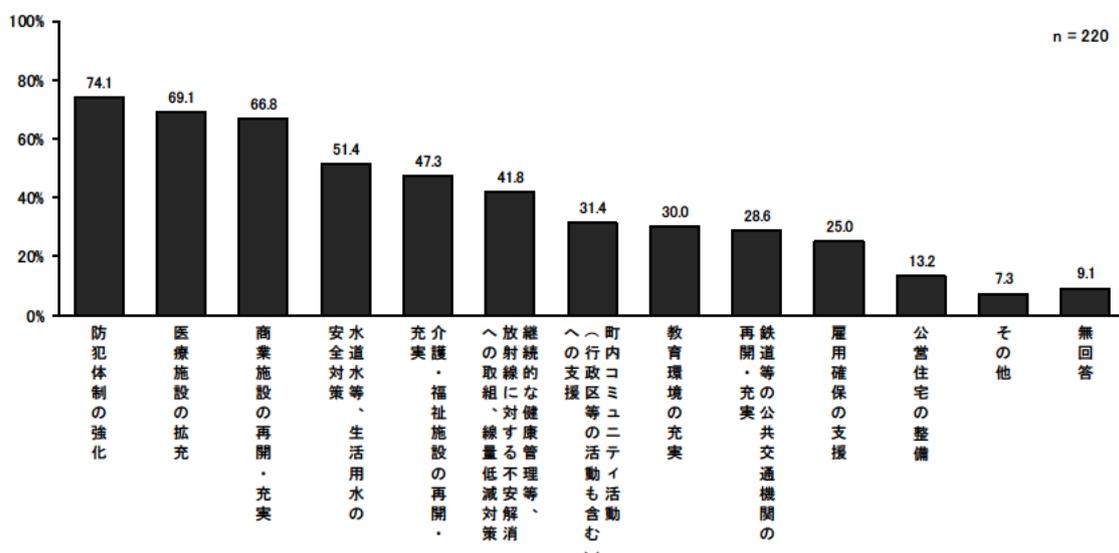
【問 16 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (1) 檜葉町内での今後の生活において、必要だと感じていることについてお答えください。

(〇はいくつでも)

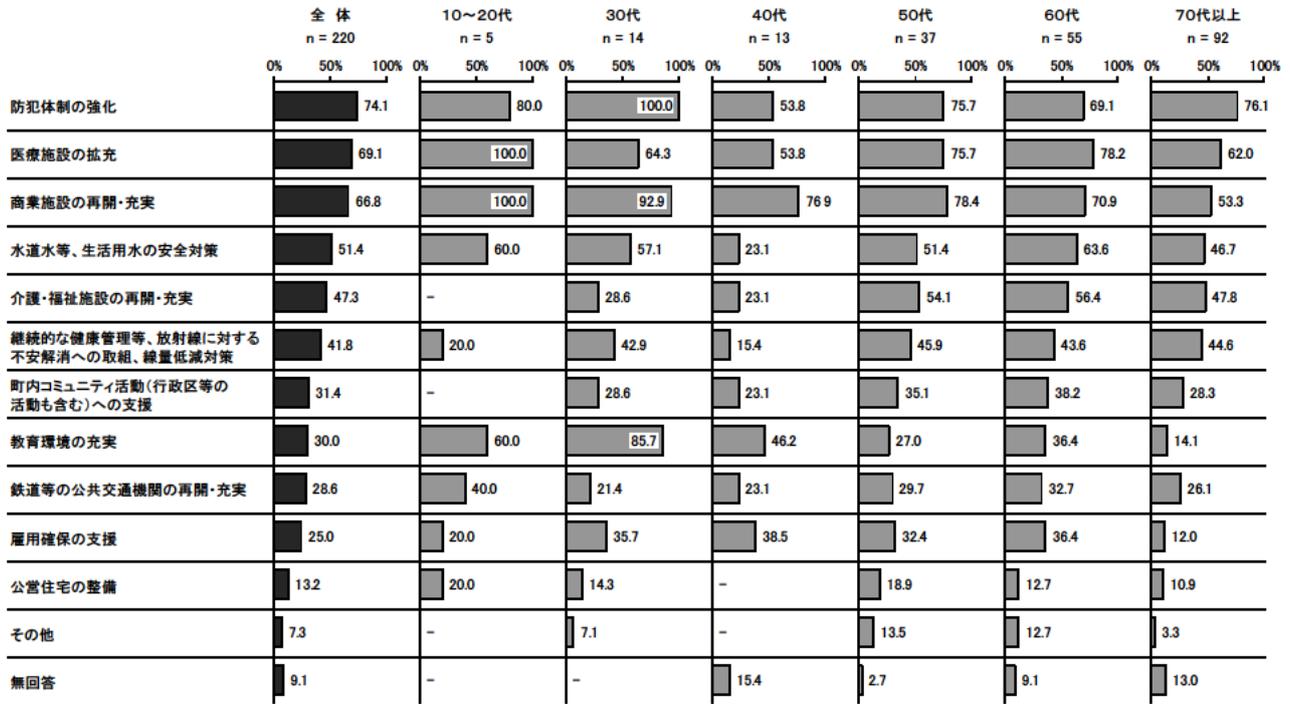
早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていることについては、「防犯体制の強化」が 74.1%と最も高く、次いで「医療施設の拡充」が 69.1%、「商業施設の再開・充実」が 66.8%となっている。

<図表 3-3-7-1 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること>



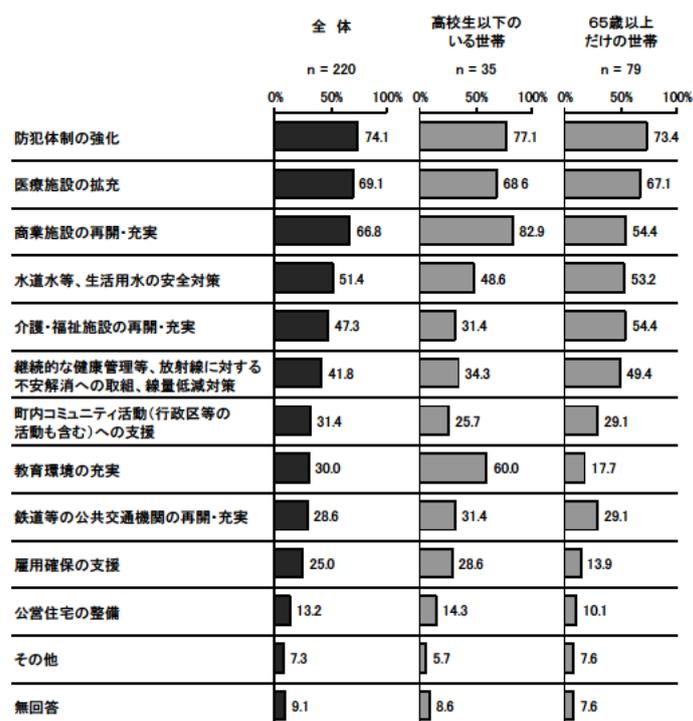
回答者の年齢別にみると、全ての年代で「防犯体制の強化」「医療施設の拡充」「商業施設の再開・充実」が他の必要だと感じていることに比べて割合が高くなっている。

＜図表3-3-7-2 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること（年齢別）＞



世帯構成別にみると、「防犯体制の強化」、「医療施設の拡充」は、いずれの世帯構成においても6割を超えている。また、高校生以下のいる世帯では、「商業施設の再開・充実」(82.9%)、「教育環境の充実」(60.0%)、「雇用確保の支援」(28.6%)が65歳以上の世帯に比べて、1割以上高くなっている。一方、65歳以上の世帯では「介護・福祉施設の再開・充実」(54.4%)、「継続的な健康管理等、放射線に対する不安解消への取組、線量低減対策」(49.4%)が高校生以下のいる世帯に比べて、1割以上高くなっている。

<図表3-3-7-3 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていること(世帯構成別)>



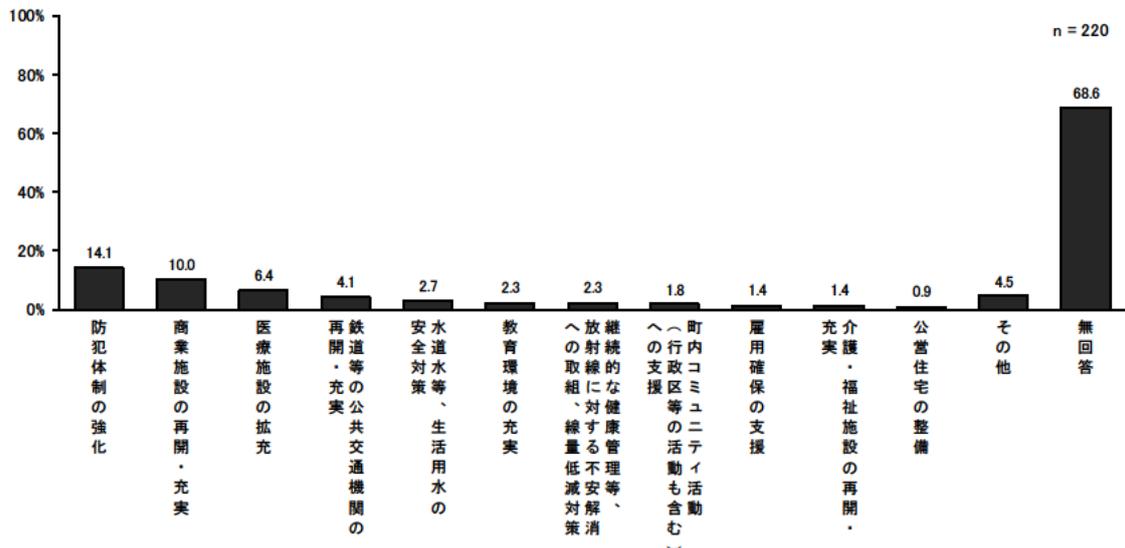
(2) 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考え

【問 16 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (2) 問 16 (1) で選択した「必要だと感じていること」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「必要だと感じていること」について、自由なお考えをご回答ください。

早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考えについては、「防犯体制の強化」が 14.1%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が 10.0%、「医療施設の拡充」が 6.4%となっている。

<図表 3-3-7-4 早期に帰還する場合に今後の生活において必要だと感じていることの具体的な考え>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

〔防犯体制の強化〕

- コンパクトタウンへの交番の設置。街灯の増設。(10~20代)
- 防犯パトロール強化(警察などの)。(40代)
- 防犯カメラの設置。(50代)
- 消防団員の不足により緊急時の対応が懸念される為、自衛消防隊の発足。(60代)
- IOT等を利用した安否確認可能品への経済的な助成。(70代以上)

〔商業施設の再開・充実〕

- ホームセンターや娯楽施設等を作ってほしい。(50代)
- 日用品や食品などが揃っているスーパーが必要。(60代)
- 生鮮食品売場の充実。(60代)
- 休日でも買物や食事が出来る商業施設の充実。(70代以上)
- 生活用品等の宅配サービスの充実。(70代以上)

[医療施設の拡充]

- 小児科の設置。(10～20代)
- 平日のみでなく土曜にも診療してほしい。(30代)
- 病院以外に、薬局等の設置。(30代)
- 総合病院に近い施設の開設。特に小児科。(50代)
- 入院施設の整備と並行し、訪問診療や訪問看護が必要。また、認知症等に対応できる精神科やメンタル面の支援のための心理士の配置。(60代)
- 常勤の医者の確保。(70代以上)

3-3-8 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報

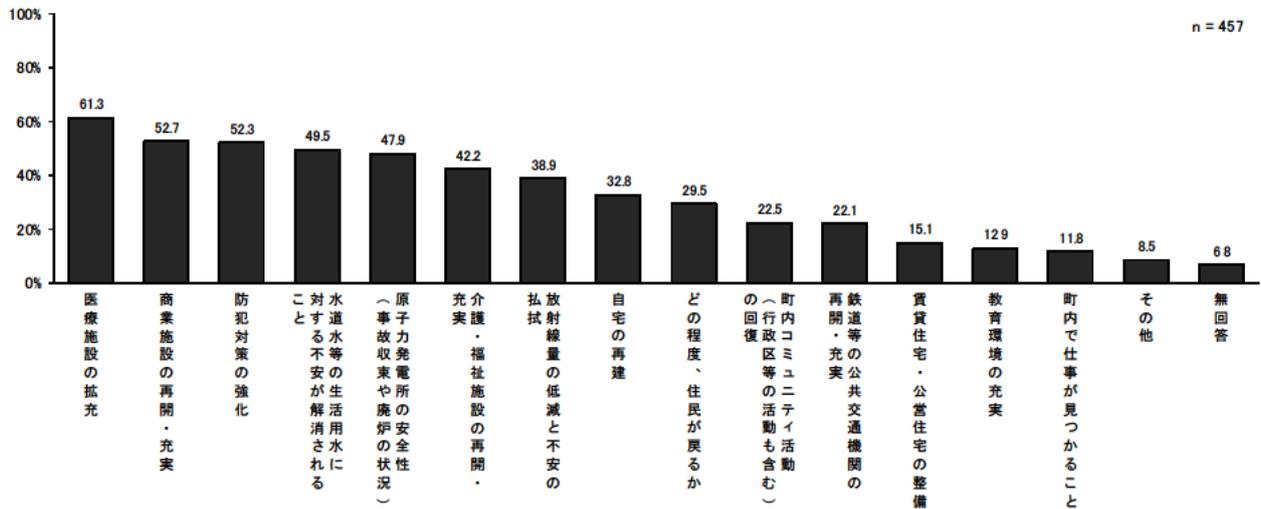
(1) 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報

【問 17 は、問 12 で、「3 条件が整えば、楡葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (1) 楡葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する項目についてあてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

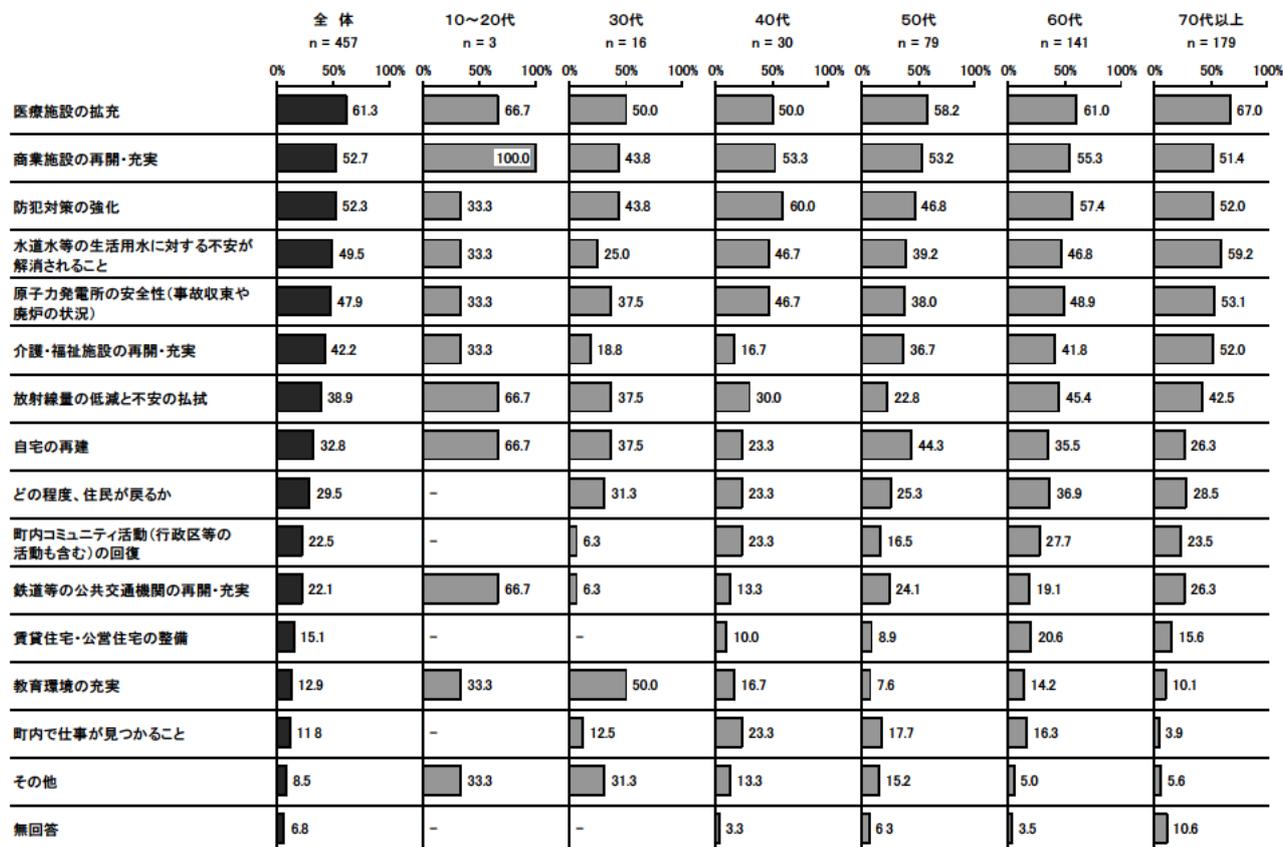
楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報については、「医療施設の拡充」が 61.3%と最も高く、次いで「商業施設の再開・充実」が 52.7%、「防犯体制の強化」が 52.3%となっている。

<図表3-3-8-1 楡葉町への帰還を判断する上で考慮する情報>



回答者の年齢別にみると、50代以上では「医療施設の拡充」「介護・福祉施設の再開・充実」が他の年代に比べて高くなっている。

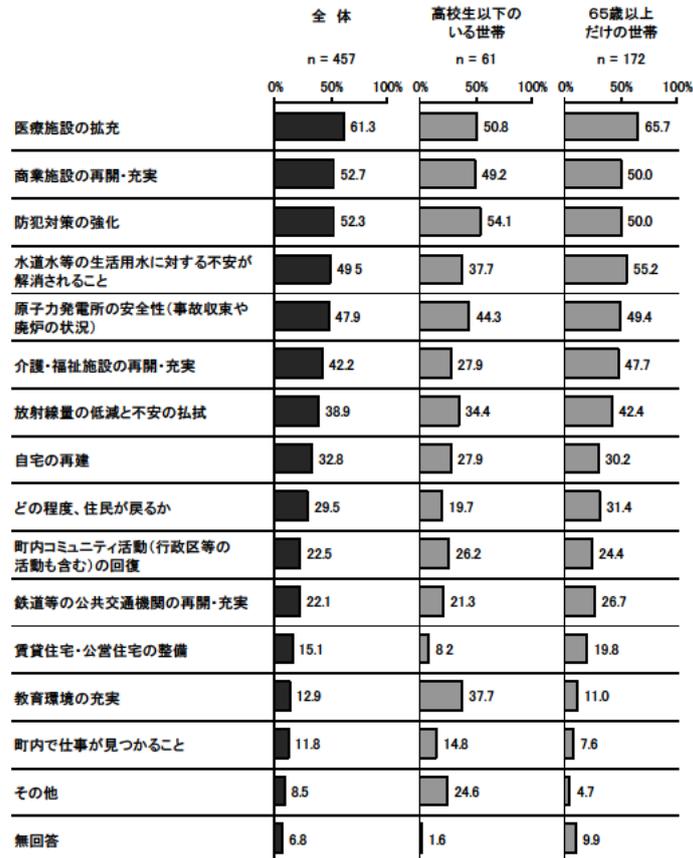
<図表3-3-8-2 榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報（年齢別）>



III 調査結果

世帯構成別にみると、65歳以上の世帯で「医療施設の拡充」(65.7%)、「水道水等の生活用水に対する不安が解消されること」(55.2%)、「介護・福祉施設の再開・充実」(47.7%)、「どの程度、住民が戻るか」(31.4%)、「賃貸住宅・公営住宅の整備」(19.8%)が、高校生以下のいる世帯よりも1割以上高くなっている。

<図表3-3-8-3 檜葉町への帰還を判断する上で考慮する情報(世帯構成別)>



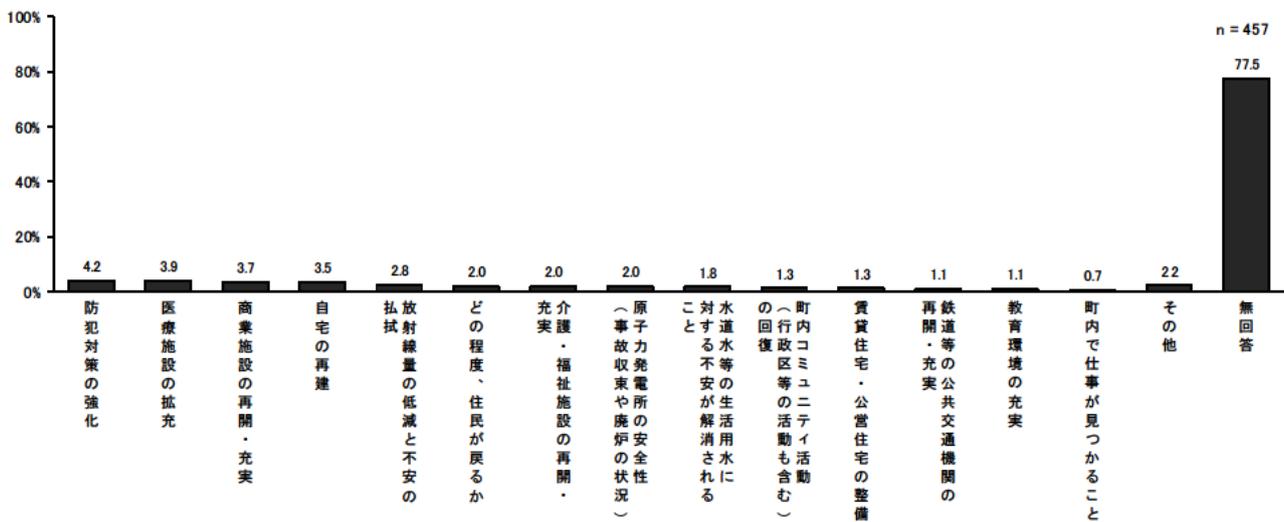
(2) 榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報の具体的な考え

【問 17 は、問 12 で、「3 条件が整えば、榑葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (2) 問 17 (1) で選択した「条件として考慮する項目」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「条件として考慮する項目」について、自由なお考えをご回答ください。

榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報の具体的な考えについては、「防犯体制の強化」が 4.2%と最も高く、次いで「医療施設の拡充」が 3.9%、「商業施設の再開・充実」が 3.7%となっている。

<図表 3-3-8-4 榑葉町への帰還を判断する上で考慮する情報の具体的な考え>



上位項目の主な意見は、以下のとおり。

【防犯対策の強化】

- 毎日のパトロール。(30代)
- 防犯カメラ及び防犯灯の増設。(60代)
- 昼夜問わず出没する、野生の猪の対策。(60代)

【医療施設の拡充】

- 震災前と同等の医療施設。(10~20代)
- 夜間対応可能な医療機関がほしい。(30代)
- 常勤の専門医がいること。(50代)
- 医者の数の安定確保による、待ち時間の短縮。(60代)
- 総合病院の開設。(70代以上)

【商業施設の再開・充実】

- 洋服などが買うことのできる店が欲しい。(30代)
- ファーストフード店等の飲食店が欲しい。(30代)
- コンビニ以外の商業施設の整備をして欲しい。(40代)
- 買い物ができる店舗を増やす。仮設の商店は休みが多い。(50代)
- 商業施設の早期再開。(50代)
- 大型スーパーが欲しい。(60代)
- 日用品を販売する店が欲しい。(60代)

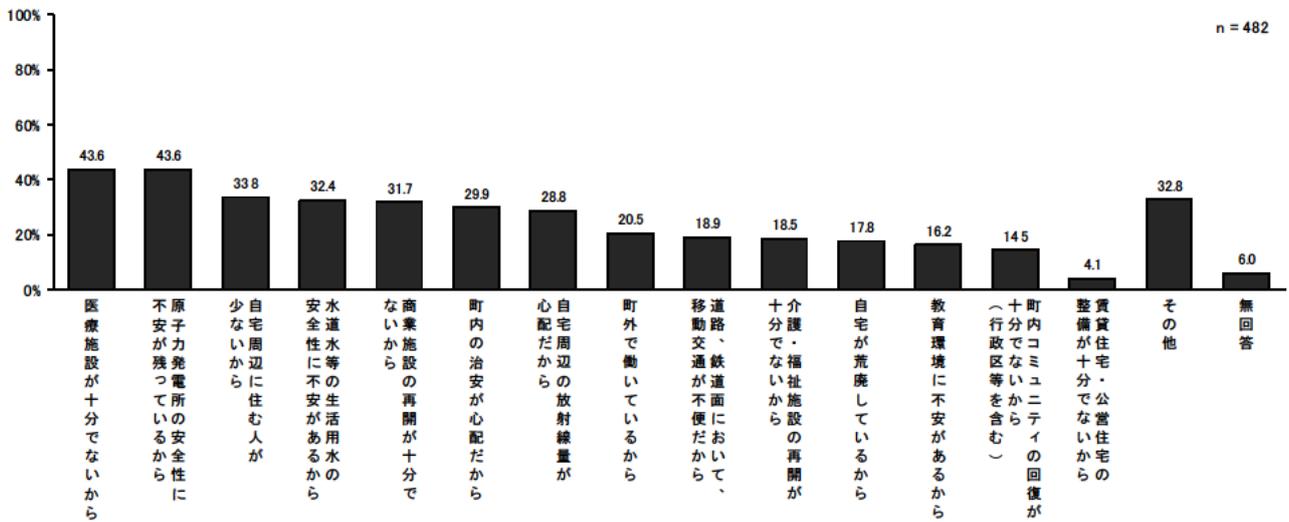
3-3-9 戻らないと決めている理由

【問 18 は、問 12 で、「4 檜葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問 18（1） 檜葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか。（〇はいくつでも）

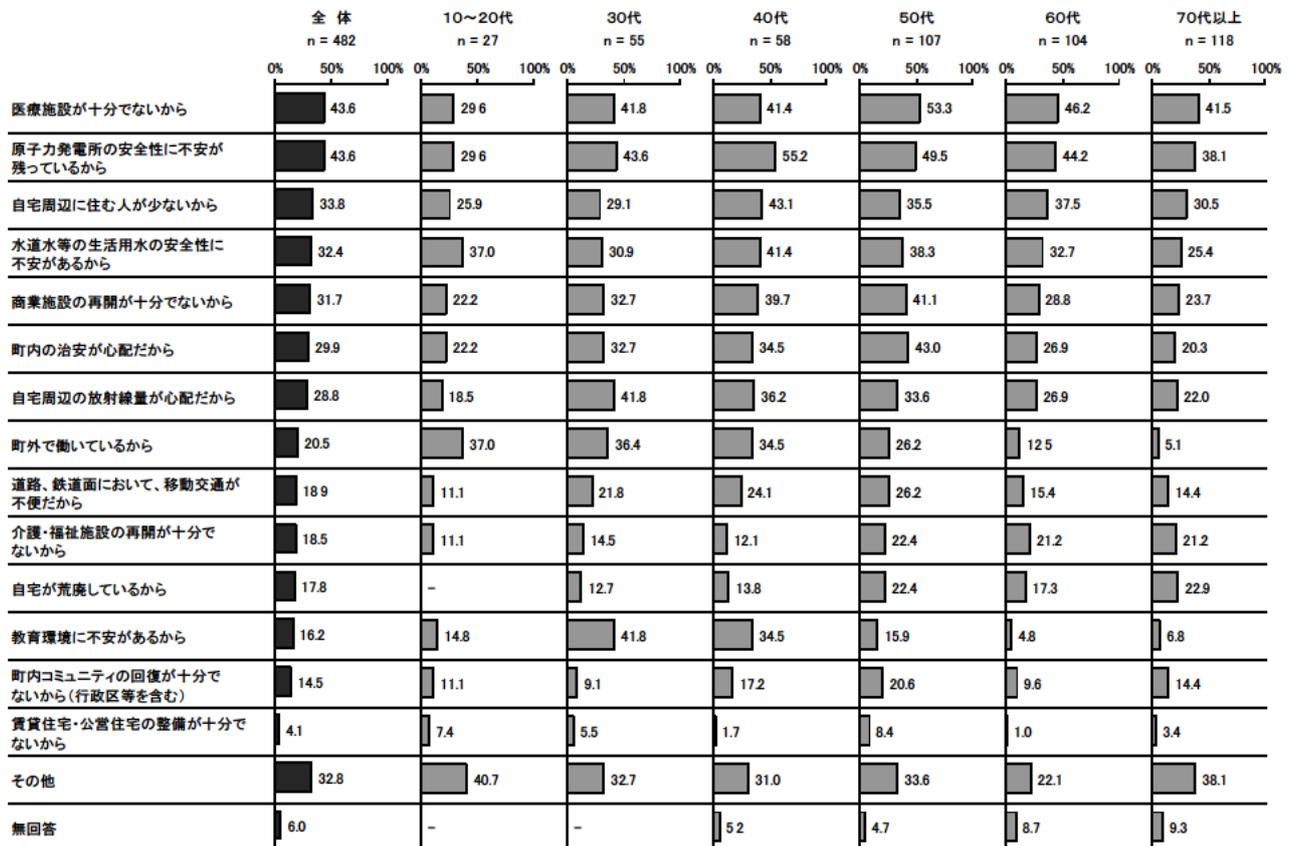
戻らないと決めている理由については、「医療施設が十分でないから」、「原子力発電所の安全性に不安が残っているから」がともに 43.6%と最も高く、次いで「自宅周辺に住む人が少ないから」が 33.8%、「水道水等の生活用水の安全性に不安があるから」が 32.4%となっている。

<図表 3-3-9-1 戻らないと決めている理由>



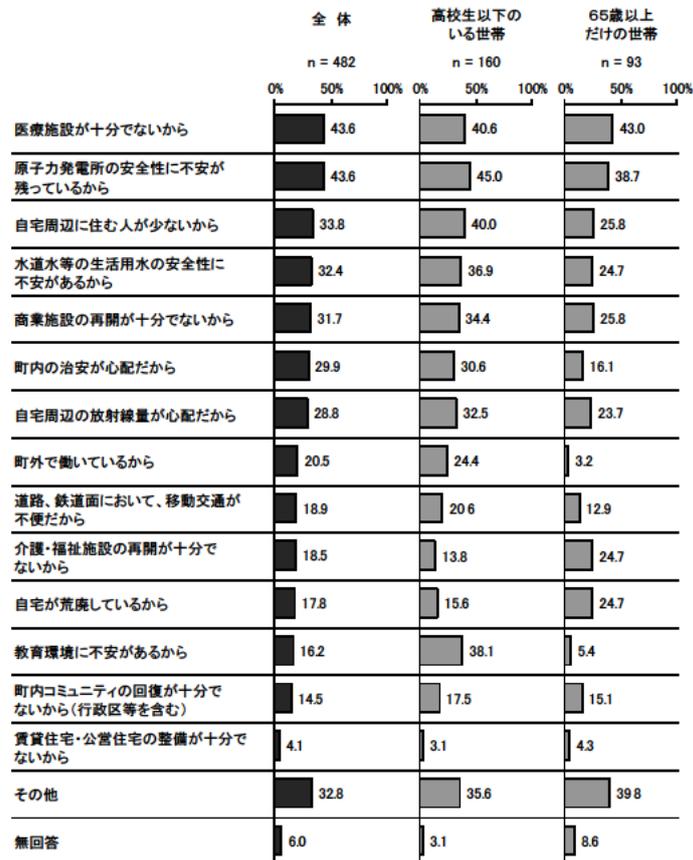
回答者の年齢別にみると、「医療施設が十分でないから」が50代（53.3%）で他の年代と比較して割合が高くなっている。また、30代、40代では「教育環境に不安があるから」が他の年代に比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-9-2 戻らないと決めている理由（年齢別）>



世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では、「原子力発電所の安全性に不安が残っているから」（45.0%）が最も高くなっており、65歳以上の世帯では「医療施設が十分でないから」（43.0%）が最も高くなっている。

<図表3-3-9-3 戻らないと決めている理由（世帯構成別）>



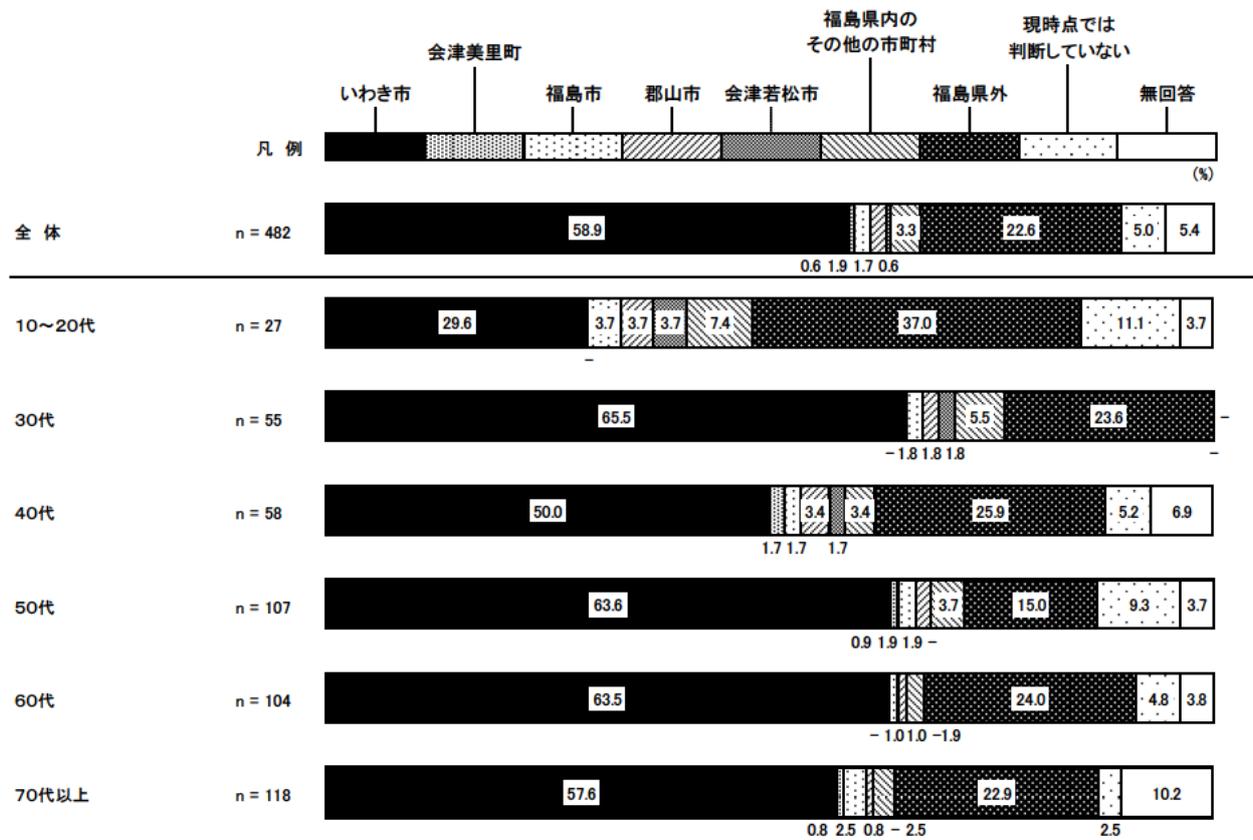
3-3-10 帰還しない場合に居住する自治体

【問18は、問12で、「4 榎葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」と回答した方にうかがいます。
 問18(2) 榎葉町に戻らない場合、今後どの自治体で居住を予定されていますか。(〇は1つ)

帰還しない場合に居住する自治体については、「いわき市」が58.9%と最も高く、次いで「福島県外」が22.6%となっている。

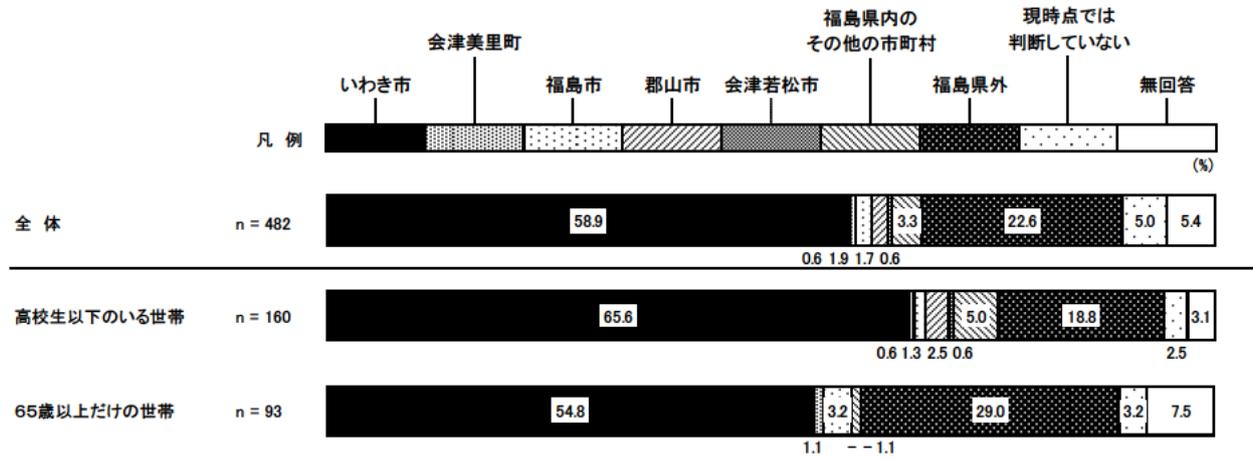
回答者の年齢別にみると、30代以上では「いわき市」が過半数を占めている。

<図表3-3-10-1 帰還しない場合に居住する自治体（年齢別）>



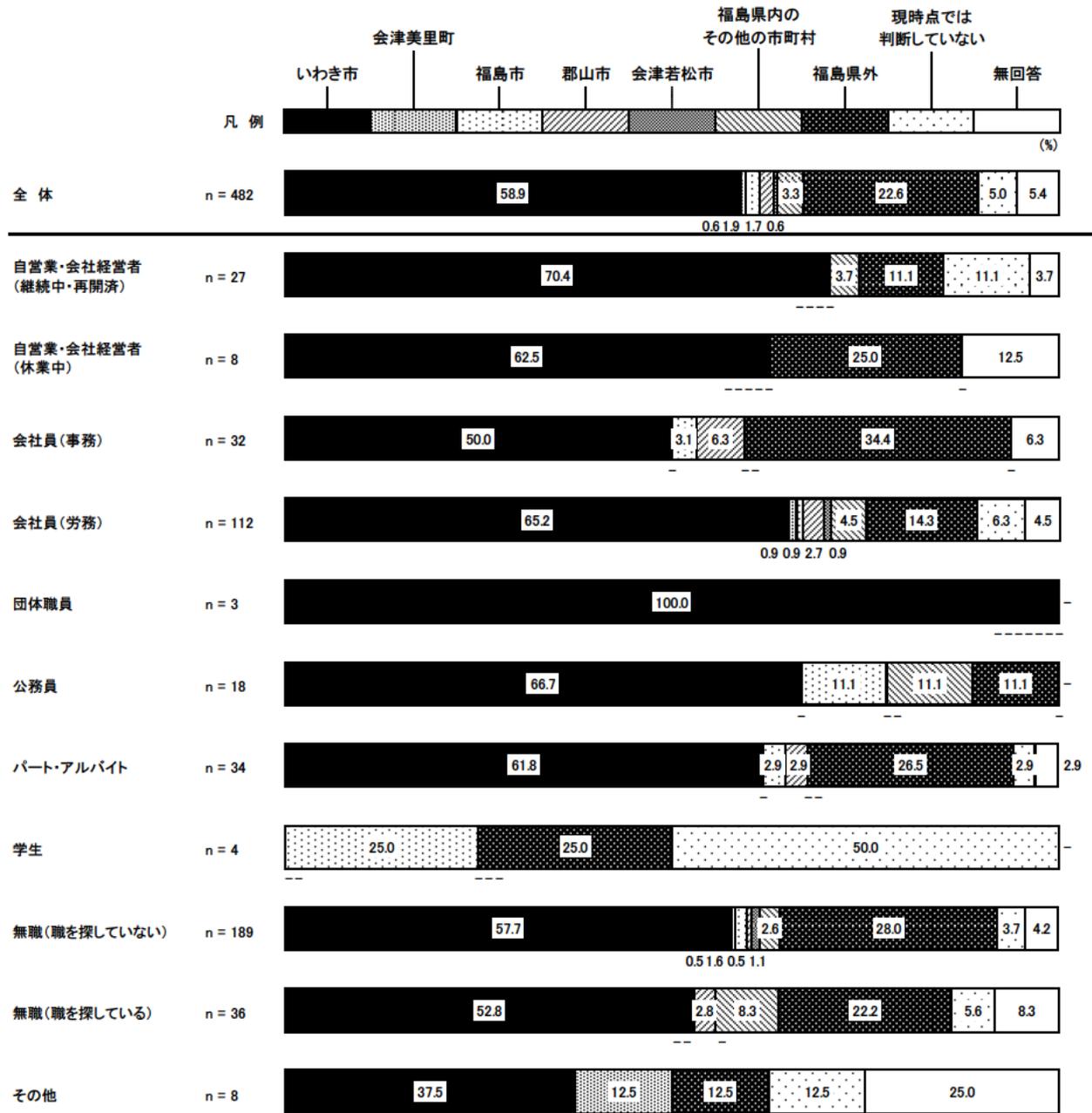
世帯構成別にみると、高校生以下のいる世帯では、「いわき市」(65.6%)が65歳以上だけの世帯と比べて1割高くなっている。一方、65歳以上だけの世帯では、「福島県外」(29.0%)が高校生以下のいる世帯と比べて1割高くなっている。

<図表3-3-10-2 帰還しない場合に居住する自治体(世帯構成別)>



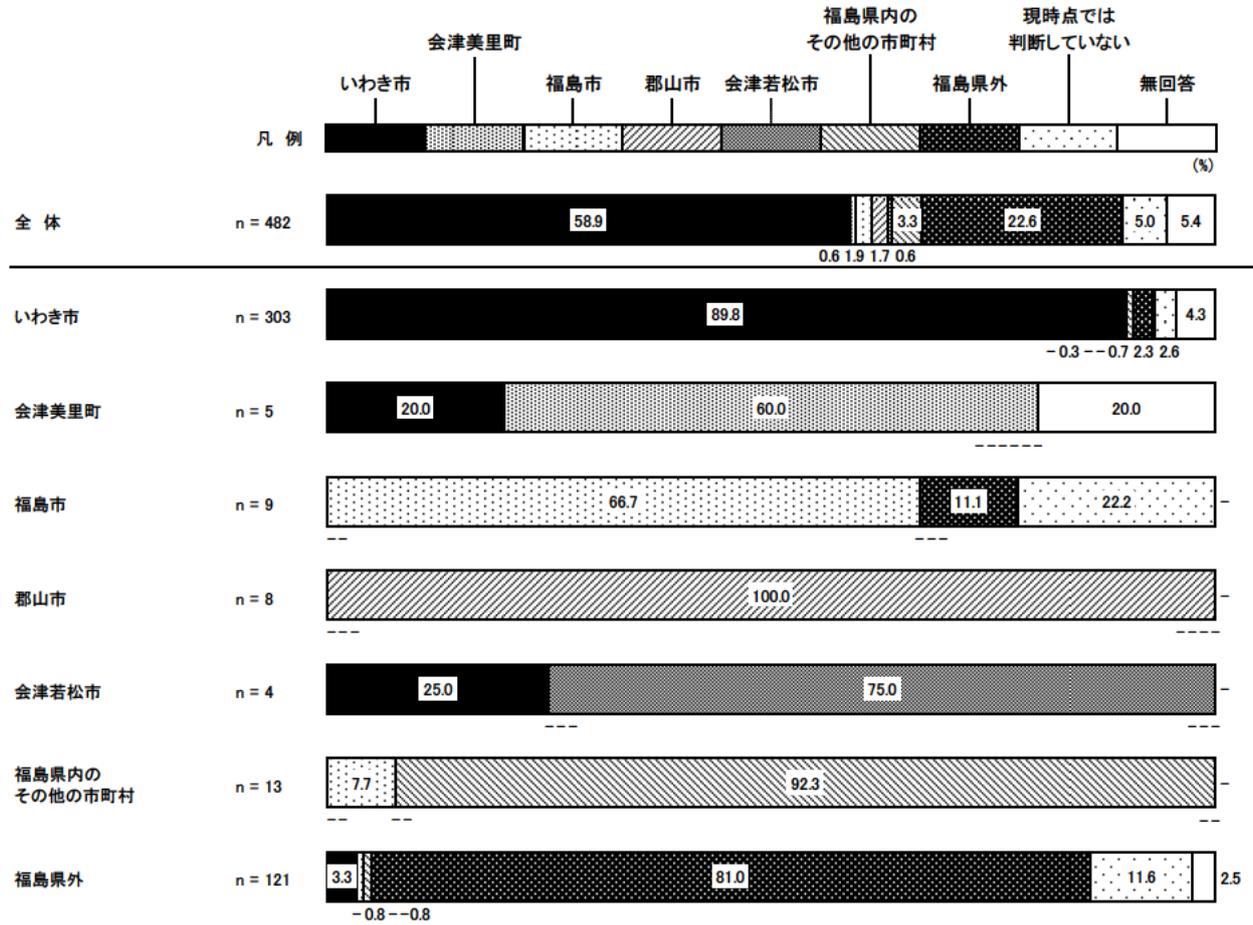
職業別にみると、いずれの職業においても「いわき市」が5割以上となっている。また、「福島県外」は、会社員（事務）（34.4%）が他の職業に比べて高くなっている。

<図表3-3-10-3 帰還しない場合に居住する自治体（職業別）>



現在の居住自治体別にみると、いずれの自治体でも、現在居住する自治体にそのまま居住を希望する割合が高くなっている。

<図表3-3-10-4 帰還しない場合に居住する自治体（現在の居住自治体別）>

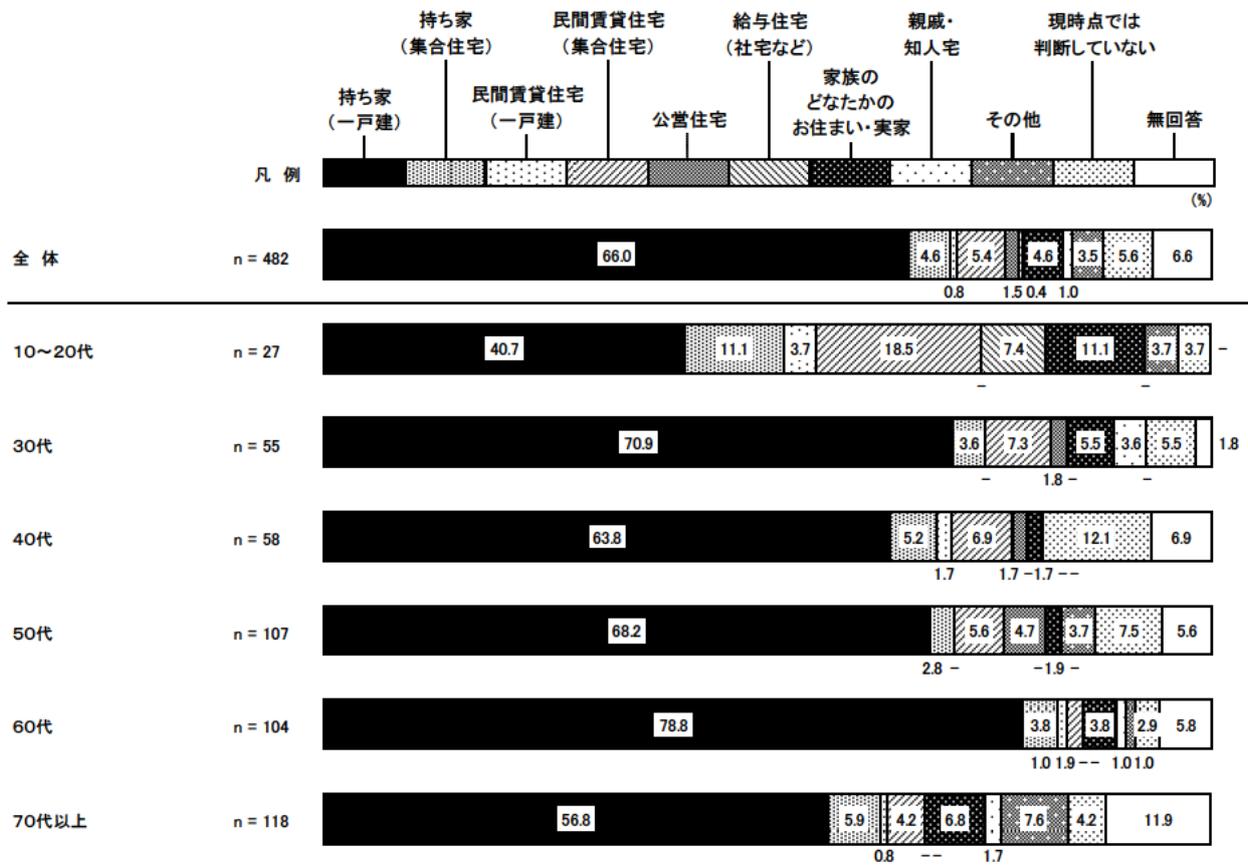


3-3-11 帰還しない場合の住居形態

【問18は、問12で、「4 檜葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」と回答した方にうかがいます。】
 問18(3) 今後、居住する住宅はどのような形態（の予定）ですか。（〇は1つ）

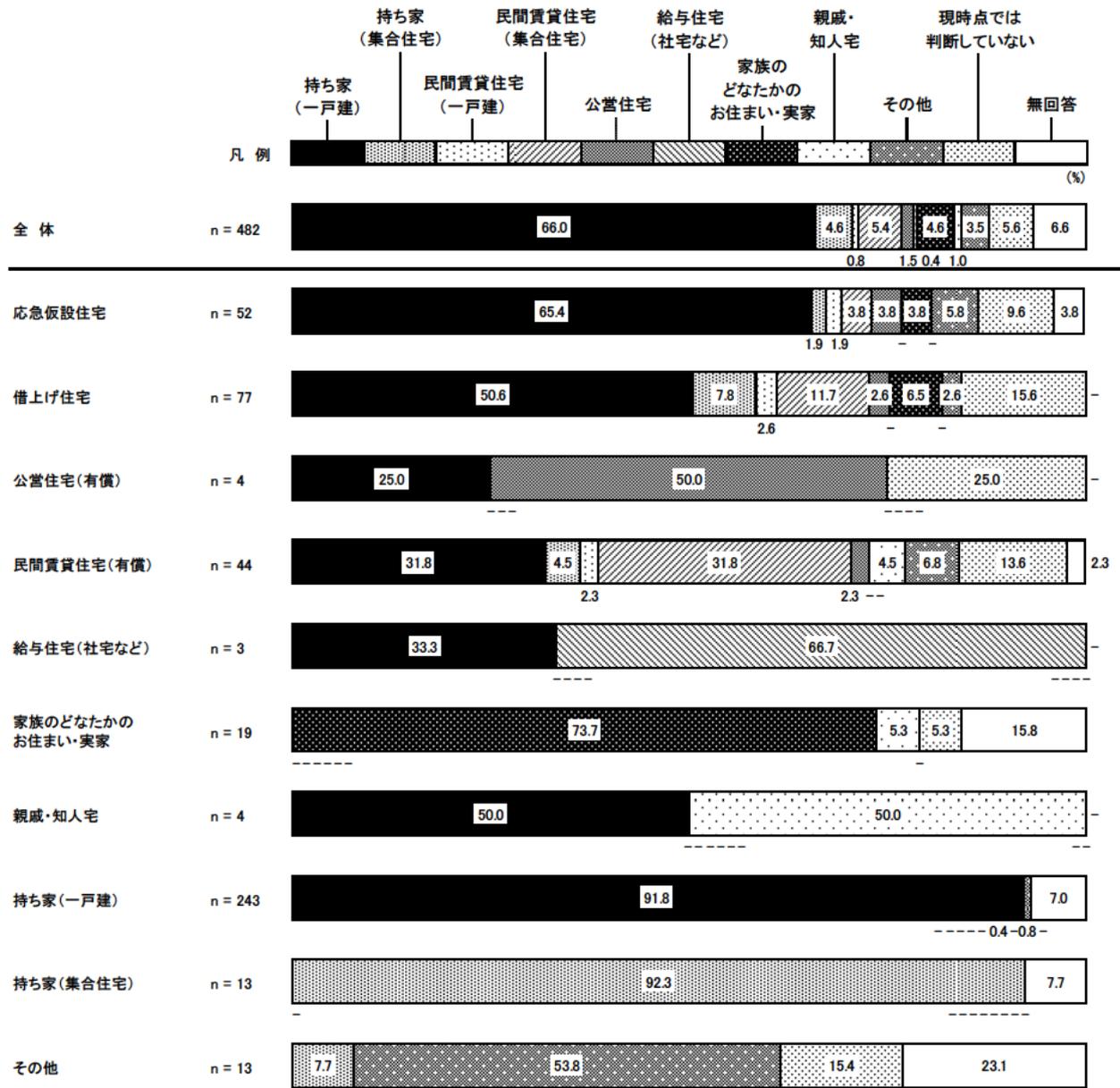
帰還しない場合の住居形態については、「持ち家（一戸建）」が66.0%と最も高くなっている。回答者の年齢別にみると、30代以上では「持ち家（一戸建）」が過半数を占めている。

<図表3-3-11-1 帰還しない場合の住居形態（年齢別）>



現在の住居形態別にみると、現在「応急仮設住宅」「借上げ住宅」にお住まいの方は、帰還しない場合の住居形態として「持ち家（一戸建）」と回答した方の割合が高く、その他の住居形態に現在お住まいの方は、帰還しない場合の住居形態として、現在と同じ住居形態と回答した方の割合が高くなっている。

<図表3-3-11-2 帰還しない場合の住居形態（現在の住居形態別）>



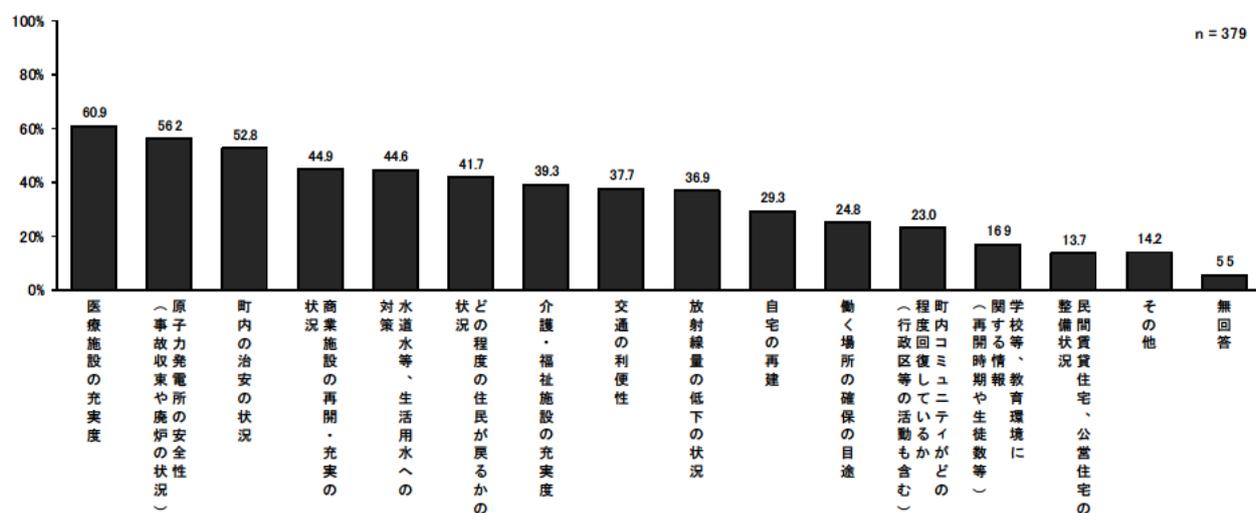
3-3-12 檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報

【問 19 は、問 12 で、「5 戻るかどうかについて、今はまだ判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 19 檜葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする項目について、あてはまるものをお選びください。(〇はいくつでも)

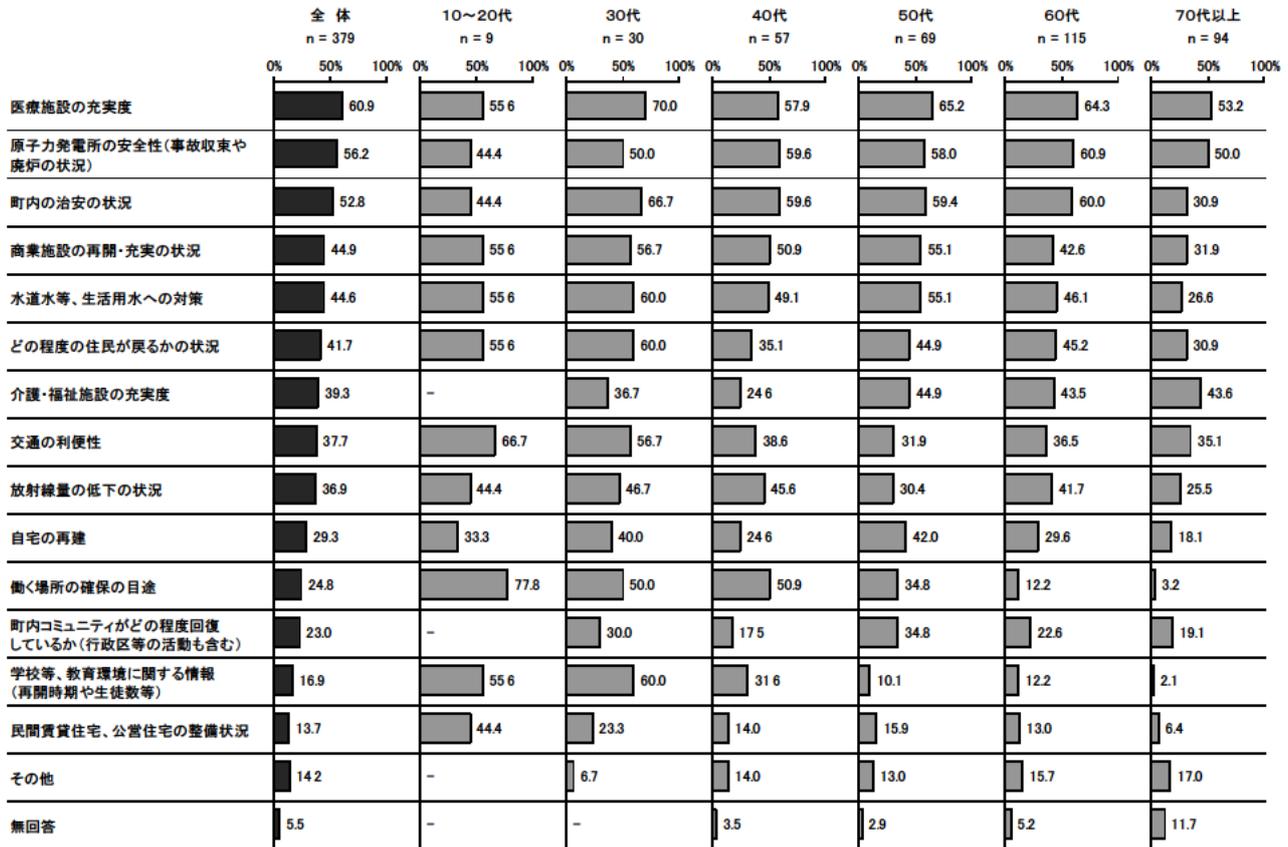
檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報については、「医療施設の充実度」が 60.9%と最も高く、次いで「原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）」が 56.2%、「町内の治安の状況」が 52.8%となっている。

<図表3-3-12-1 檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報>



回答者の年齢別にみると、「医療施設の充実度」はいずれの年代においても5割以上となっており、30代（70.0%）で最も高くなっている。また、「学校等、教育環境に関する情報（再開時期や生徒数等）」は、30代（60.0%）が他の年代と比べて割合が高くなっている。

<図表3-3-12-2 檜葉町への帰還を判断する上で参考とする情報（年齢別）>



3-4 意見・要望

問 20 町の復興に対して、日頃お感じになっているお気持ちや今後のあなたの展望などを自由にお書きください。

国や自治体への要望、復興に対する展望や気持ちなどについて、594 世帯から回答があった。ここでは、記入された回答を下記項目に分類し、代表的なものを抜粋して掲載する。

<p>●生活について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難生活の長期化への不安 ・元の生活が取り戻せるかどうかの不安 ・元の生活、安定した生活の回復 ・元の生活に戻ることにについてのあきらめ ・現在の生活について ・現在の生活の人間関係・コミュニティについて ・現在の生活の経済的な不安について ・現在の生活の健康に関する不安について ・現在の生活の仕事・学業に関する不安について ・現在の生活全般の不安について ・将来の生活に関する考えについて ・将来の生活の経済的な不安について ・将来の生活の健康に関する不安について ・将来の生活の仕事・学業に関する不安について ・将来の生活全般の不安について ・生活（再建）支援について ・防犯（治安・安心）について ・その他 	<p>●除染について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・除染作業の意義について ・除染作業にかかる費用の他への活用について ・除染作業の効果などについて ・除染作業の実施箇所などについて ・除染作業の早期・迅速・的確な実施について ・除染作業スケジュールの明確化について ・除染廃棄物の処理について ・その他
<p>●震災発生前の居住地について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還困難区域等の設定について ・所有する住まい・土地の買取りについて ・自宅の現状（被害状況）について ・自宅の再建・改築・解体について ・元の住居や土地などの管理・処分について ・元の住居や土地に対する税について ・所有する墓地の維持・管理・移転について ・その他 	<p>●復旧・復興について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復旧・復興の遅れ、長期化について ・復旧・復興のスケジュールについて ・復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について ・町村合併について ・ライフライン・インフラの整備について ・社会福祉施設の整備について ・医療施設の復興・充実について ・学校の復興・充実について ・商業の復興・充実について ・住民の参加・自助努力について ・早期の原状回復・復興実現について ・その他
<p>●賠償について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・賠償内容・方法について ・賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について ・所有する住まい・土地に対する賠償全般について ・その他 	<p>●原発の安全性について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃炉作業の迅速な実施について ・廃炉作業全般について ・その他
<p>●帰還について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰還への不安 ・帰還可能時期の明確化について ・帰還したい ・帰還しない ・現時点では帰還の判断ができない ・帰還に関する施策について ・帰還を望まない人への対応について ・その他 	<p>●原発事故に対する対応について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行政や東電の対応について ・対応の長期化、遅れについて ・情報の開示・発信について ・中長期的スケジュールについて ・その他
<p>●避難期間中及び将来の住宅について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・復興公営住宅の早期・迅速な建設について ・復興公営住宅の建設地・形態等について ・復興公営住宅に係る経済的負担について ・復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安 ・復興公営住宅への入居について ・居住場所の確保について ・借上げ住宅について ・住宅の購入について ・その他 	<p>●その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後のエネルギー政策について ・行政に対する謝意、励まし ・その他

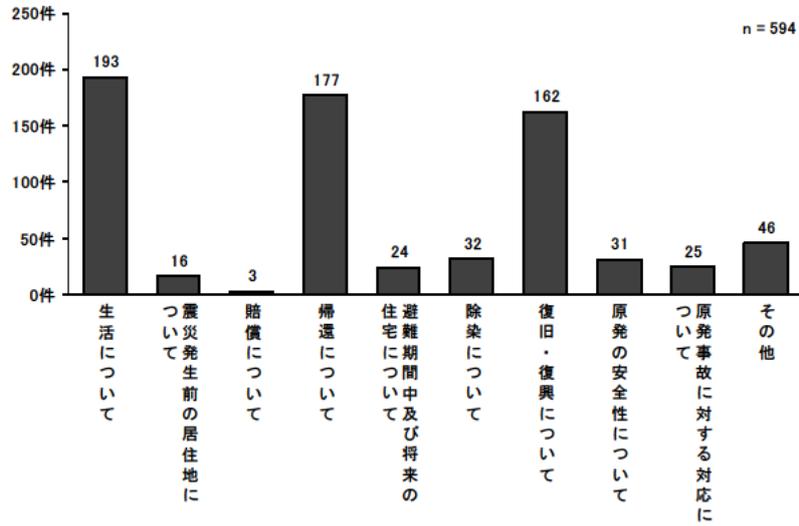
※掲載する文章は原文を基本とするが、固有名詞が含まれている場合や長文の場合などは、一部省略している。

※一世帯の回答の内容が、複数のテーマにわたる場合は、それぞれの項目へ分類している。

まず、10の大項目についての、分類結果は下図のとおりとなった。

「生活について」が193件と最も多く、次いで「帰還について」が177件、「復旧・復興について」が162件となっている。

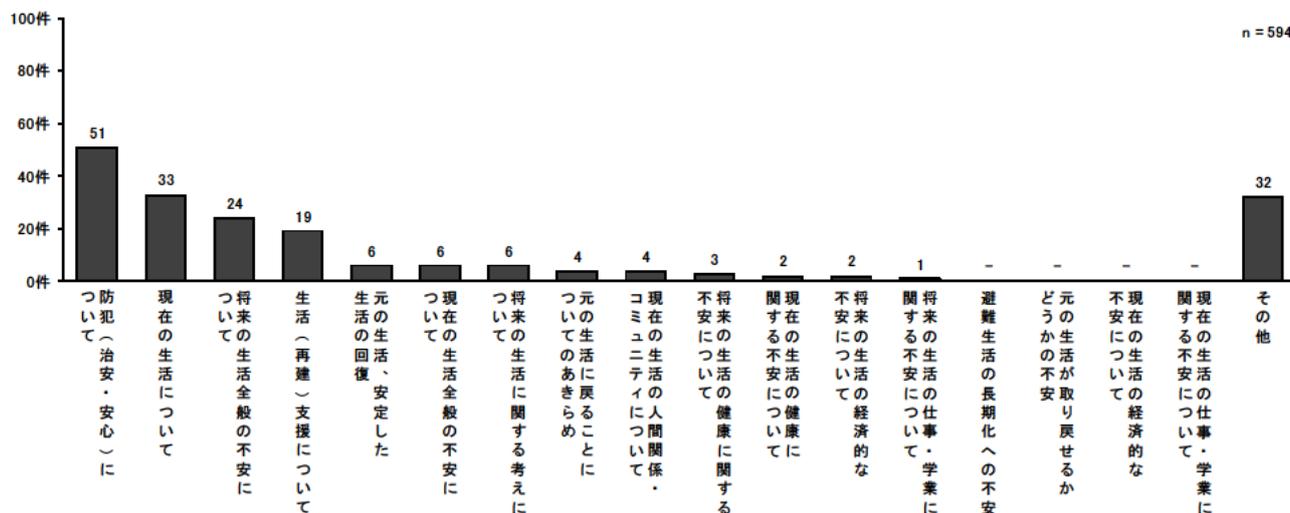
<図表3-4-1 意見に係る記入内容の分類結果>



(1) 生活について

生活についての具体的な意見としては、「防犯（治安・安心）について」が51件と最も多く、次いで「現在の生活について」が33件、「将来の生活全般の不安について」が24件となっている。

<図表3-4-2 生活についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[防犯（治安・安心）について]

- もっと人が戻ってきてほしいと思う。今年から学校が再開する為に榎葉町に家を新築しました。家の周りにも何軒か家がありますが、人が居ません。夜は真っ暗で、自分が仕事の都合上、家に帰れない日もあると思います。そんな時、家に居る家族の事が心配です。（30代）
- 町内の治安が心配。ダンプが多く道路に出るのに苦勞する。（40代）
- 野生動物を駆除してもらいたい。もしくは電気柵など無料で作ってもらいたい。防犯対策でただパトロールしているだけでなく、地区住民に声をかけてもらいたい。（60代）

[現在の生活について]

- 子供が春から中学生になりますが、駅と自宅が遠く、榑葉中学校への通学は断念しました。学校が町との唯一の接点だったので、少し寂しく思います。榑葉の事を目にしたり、聞いたりするのも少なくなりますが、ふるさとを忘れずにいてほしいです。(30代)
- あれから6年が過ぎましたが、「まだ6年、もう6年」の気持ちがいたりきたりしています。榑葉を離れたことを責めた日もありました。3月11日近くなると、津波のニュース、原発の映像が映ると涙がとまりません。(50代)
- 町に戻っていますが、近所が1軒では淋しいです。「いつになったら入居するのかね」が隣人との合言葉の状態です。外灯は点いても近隣の家の灯は点いてなく、国道を走る大型車の音が地震のように響きます。西風はドアを叩き、眠れぬ夜が続いています。若い人の頑張りはずばらしいのですが、どうぞ現地に住んで下さい。一時的な行事で励ましているとは思わないで下さい。一時が後に残される中年は淋しさが残ります。集まる事が好きな人間ばかりとは限りません。集団生活が好き、人の関係が苦手な人もいます。(60代)
- 80年間生活した自宅を解体することになり、こんなに悲しいことはない。娘の家に世話になっていても、私にとっては人の家なので、心が休まらない。めぐり合わせなので誰にもあたるところはなく、今はこの生活に慣れるようにと生活している。町のみなさんが一生懸命復興に力を注いで働いていることと思います。よろしくお願いします。私は、前に少しでも進んでくれることを願います。(70代以上)

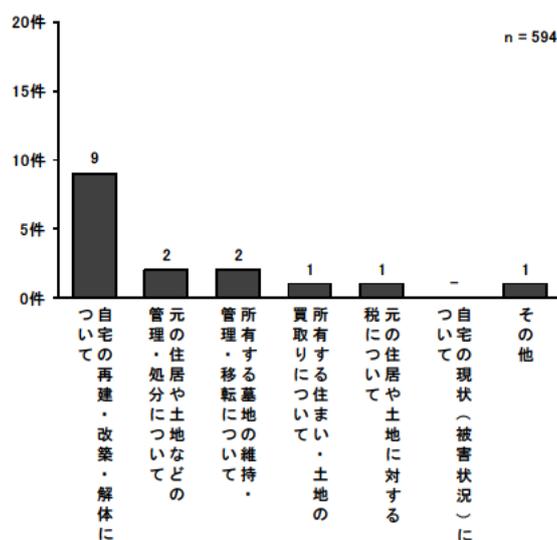
[将来の生活全般の不安について]

- 北田地区の復興は目に見えるものがあるが、自宅周辺は家屋の解体で空地が増え、将来どのようなか不安である。(50代)
- 一人暮らしになってしまったので、全てに不安である。自分が高齢者だから、町に帰っても放射線の件で子供や孫が帰らないため、何かと不安で不便である。そうかと言っても、いつまでも故郷を離れてばかり居られない。墓参りもしたい。残っても帰るも、生活の基礎は0からやり直さねばならず、高齢者では体力にも不安があり、何も出来ない。リリー園はどうなっているのでしょうか。(70代以上)
- 高齢化が進むのは仕方がないが、1人暮らしで車の免許を持たない者としては不安しかない。(70代以上)

(2) 震災発生前の居住地について

震災発生前の居住地についての具体的な意見としては、「自宅の再建・改築・解体について」が9件と最も多く、次いで「元の住居や土地などの管理・処分について」、「所有する墓地の維持・管理・移転について」がともに2件となっている。

<図表3-4-3 震災発生前の居住地についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[自宅の再建・改築・解体について]

- ・ 檜葉の自宅を解体するか、判断を迷っている間に解体の受付が終了してしまい、解体出来ずに困っています。もう1度解体の受付を再開していただきたい。(50代)
- ・ 町を復興するためには人が戻らないと無理なのに、帰りたい人に対して特別措置は取れないのでしょうか。今まで住んでいた場所に自宅を再建したいのに、認めてもらえない事に失望しています。こんな事なら解体せず、リフォームにすれば良かったと後悔しています。(50代)
- ・ 住宅を早く直していただきたいと思います。70才も近くなってきたので静かな所で暮らしたいと、この頃つくづく思う様になってきた所です。知らない住民の集まりの中で暮らしているので、切ない気がします。早く檜葉に戻り畑仕事などしたい、と気持ちが強いこの頃です。(60代)

[元の住居や土地などの管理・処分について]

- ・ 檜葉町内に土地を有しているので、今後の活用について考えている。(60代)
- ・ 優良農地をどう管理して行くか考えてほしい（農地が荒れ放題にならぬよう）。裏山や山林あたりの除染を、もっとしっかり行なってほしい。(70代以上)

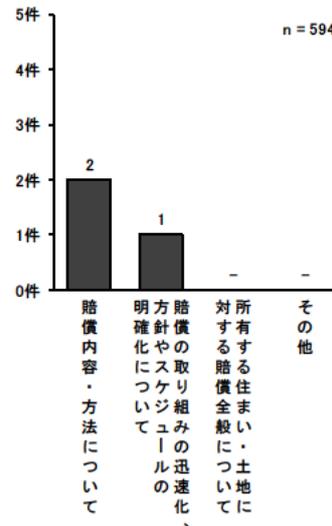
[所有する墓地の維持・管理・移転について]

- ・ エコテックの埋立ての件がなければ戻ると決めていたが、埋立てが決定すれば戻る理由がないので、お墓も移転を考えている。震災前の気持で、お墓参りはできない。家族や親せきが一同に集まることはできない。先祖の守ってきた、土地、建物を震災前同様に、守って行く気にはなれない。(60代)

(3) 賠償について

賠償についての具体的な意見としては、「賠償内容・方法について」が2件と最も多く、次いで「賠償の取り組みの迅速化、方針やスケジュールの明確化について」が1件となっている。

<図表3-4-4 賠償についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

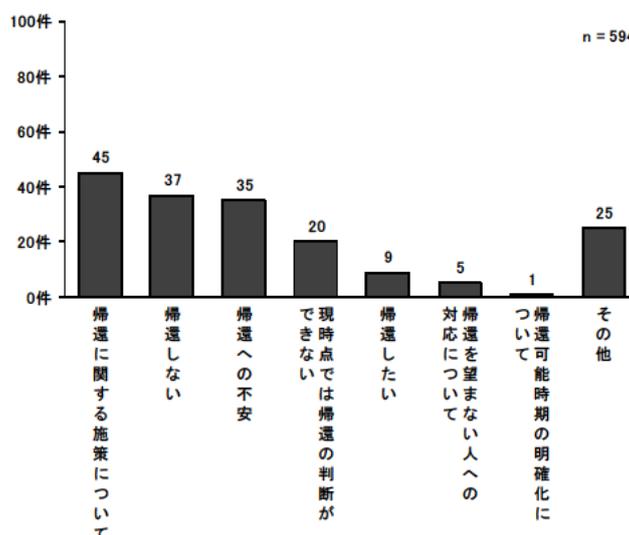
[賠償内容・方法について]

- 榎葉町が震災前と同じように戻っていないのだから、賠償金の追加があってもいいと思います。公共職業安定所に通っていますが、面接を受けて採用してもらえないか不安です。榎葉町民枠として必ず採用してもらえるように配慮していただけないでしょうか。仕事をやめてまで会津から榎葉に戻ってきたので、仕事が見つからないのが不安で仕方ありません。(30代)

(4) 帰還について

帰還についての具体的な意見としては、「帰還に関する施策について」が45件と最も多く、次いで「帰還しない」が37件、「帰還への不安」が35件となっている。

<図表3-4-5 帰還についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[帰還に関する施策について]

- 帰町するたびに、まだまだ手つかずの家や壊れて草に覆われている建物、傾いた看板等を見るとまだまだだと思ってしまいます。宿泊しても、夜間の物騒な雰囲気は拭えません。子供、若者が戻れる街づくりが必要かと思えます。(30代)
- 地元に戻る事により、不便さが目に見えています。現状の地元に戻る方が、何らかのリスクを背負い生活して行かなければなりません。樫葉町に戻る世帯に対し、子供たちもちろん、何かしらの優遇や支援をお願いします。(40代)
- 帰還者へ、税制などの面で優遇するなどの対策を考えていただきたい。(50代)
- 避難先の方が生活利便性は高いので、帰還するとそのギャップが気になります。出来るだけ、生活利便性を高くしていただきたいです。樫葉町単独でなく富岡町や広野町と連携して、実施するのも1つだと思います。(60代)

[帰還しない]

- 仕事の都合もあったが、避難先での生活も慣れ、家族を持つこともできた。家族、特に子供の生活、教育のことを考えると、樫葉に帰るとするのは選択できない。持ち家の準備も進んでいるので、帰町は考えていない。(30代)
- 避難生活が長すぎて、樫葉町に今すぐ戻ろうという気持ちが萎えてしまった。戻らなくてはならない理由もなくなった。(50代)
- 町の復興といっているいろいろな施設を整備しているが、なぜ町民が町に戻らないのかについて、もっと考える必要があると思う。除染が完全に終わっていない場所へは戻れないと思う。町を離れて避難して6年、子どもたちも避難先の生活に慣れ、樫葉町には戻りたくないという気持ちが、話しをする中で感じる。そんな現状の中で、私たち親も戻ろうという気持にはなれない。ということで現在の場所、又は近くで今後も生活していくことになると思います。(60代)

Ⅲ 調査結果

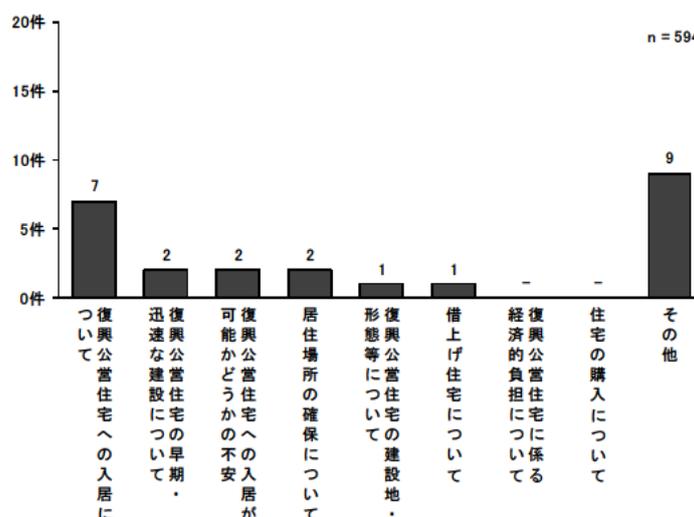
[帰還への不安]

- 核シェルターの設置、屋内の子どもの遊び場、避難道路の整備、早期帰還者の減税、行政区の再編、飲料水の支援等、今年中に楡葉町に戻るつもりですが、不安がいっぱいです。(50代)
- 今いる町なら30年後の様子に不安がないが、楡葉町に戻った場合、30年後の町の様子が想像できないので不安になります。住民はどんな人がどれくらい暮しているのだろう。廃炉途中にトラブルは起きないのだろうか。放射能物質が風で飛んでこないのだろうか。1~2ヶ月に一度くらいは楡葉町の様子を見に知っているが、決められないでいます。(50代)
- 1度も福島(楡葉)には戻っていないのが現状です。戻る事に対して何から始めて良い事かわからないので、時間だけが過ぎていきます。自分の家に戻りたいと思うが、生活(買い物、医療等)が自然に出来るか不安です。頭の中ではわかっているが、頭の中は真白のままです。出来るだけ早く楡葉での生活をしたいと思っています。(60代)

(5) 避難期間中及び将来の住宅について

避難期間中及び将来の住宅についての具体的な意見としては、「復興公営住宅への入居について」が7件と最も多く、「復興公営住宅の早期・迅速な建設について」、「復興公営住宅への入居が可能かどうかの不安」、「居住場所の確保について」がいずれも2件となっている。

<図表3-4-6 避難期間中及び将来の住宅についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【復興公営住宅への入居について】

- 職場が地元で再開したので、早く復興公営住宅に引っ越したいです。商業施設の再開が充実していない部分は問題ではありますが、早期の公営住宅への入居環境をお願いしたいです。現在は、いわき市から通勤しています。(50代)
- 今一番不安なのは、住む家のことです。30年3月以降、家賃を全額負担することになれば、生活していけない。今後、早急に県営住宅及び復興公営住宅に入居できるようにシステムを変更し、早く情報をオープンにしてほしい。空室状況など早く知らせてもらわないと、仕事先の選択にも影響してきます。戻りたくても家族や環境の変化などで、戻れない人々への支援をもっと考えてもらいたい。切り捨てられていくようで不安しかない。それでなくても知り合いもいない中で、精一杯生きています。住む家だけでもはっきりして欲しい。仕事をしたくても、しっかりとした家が決まらなければ決められない。自立したくてもできない。家だけはなんとかして下さい。(50代)
- 他の地にすでに家を建てている人たちも、復興公営住宅を借りていると聞きます。町に戻ってこないなら、戻ってきたいけど家がないというような人たちに譲るべきだと思う。役場ではその辺のことを良く調査しているのでしょうか。子ども園にしてもしかり、震災前のマニュアル通りではおかしいのではないのでしょうか。今現在の状況を良く理解して、訂正するところは訂正する。そんな考えはないのでしょうか。(60代)

【復興公営住宅の早期・迅速な建設について】

- 公営住宅の早急な建設等、この件については、他町（富岡町）等の公営住宅が進んでいる。(70代以上)

Ⅲ 調査結果

[復興公営住宅への入居が可能などうかの不安]

- 公営住宅に申込んでありますが、早くはっきりした返事を望んで居ます。気持ちが落つきません。
(70代以上)

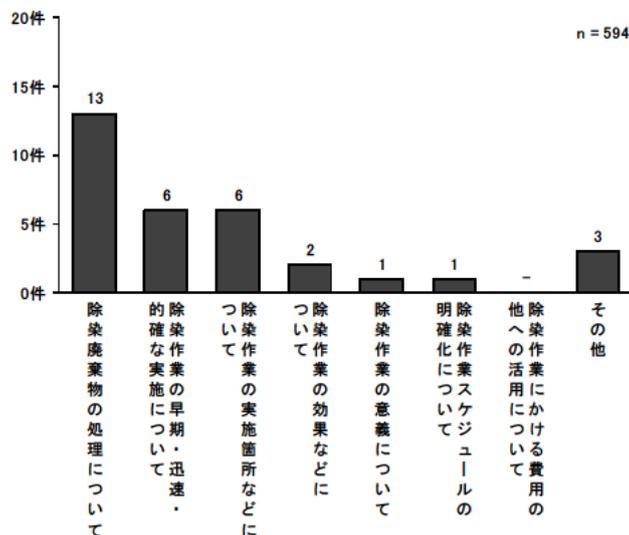
[居住場所の確保]

- 家族や他町村の人が優先じゃなく、まず家や土地がない者を優先に話しを聞いてほしい。いつまでたっても住む所がない。土地、家がある者が優遇されている気がする。(50代)

(6) 除染について

除染についての具体的な意見としては、「除染廃棄物の処理について」が13件と最も多く、次いで「除染作業の早期・迅速・的確な実施について」、「除染作業の実施箇所などについて」がともに6件となっている。

<図表3-4-7 除染についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

【除染廃棄物の処理について】

- 4年ぶりに榊葉町の実家へ行きましたが、6号線道路のすぐ見える所に大きな黒いかたまりが積み重なっているのを見て、ゾッとしました。いくら放射線量が低下し、人が住めると言われても、これからの子供達をあな場所生活させる気にはなれません。まだまだ、震災前の状態に戻すには時間がかかるのではないかと思います。住民が戻り、住むための住宅の建設ばかりでなく、人が生活していくために必要な、衣・食・病院など、何不自由のない元の生活ができるよう、榊葉町だけではなく近隣の町を含めての復興が特に必要なのではないのでしょうか。(40代)
- 町のあちこちにある除染廃棄物の山がいまだにそのまま、いつ中間貯蔵に移動するのでしょうか。榊葉町と富岡町の間に来る予定の最終処分場には、絶対反対します。除染は終わったのですが、田畑にあるセシウムはそのまま残っています。空間線量を減らすために、土を混ぜてしまったため取り除くことは難しいでしょう。そこで農業を再開することは、ものすごく不安です。(50代)
- 町は直ちに指定放射線廃棄物の受入れを、直に撤回すべきである。こういうものを搬入されてきたのでは、将来への不安があるし、とても戻る気にはなれない。受入れを撤回すれば、明日にも戻りたい。(60代)

【除染作業の早期・迅速・的確な実施について】

- 線量低減対策。(50代)
- 今後、放射線量低減対策がどのような方向性になるのか不安である。自宅の屋内放射線量が多いし、特定廃棄物埋立処分場などの問題もあるので、裏山など20m以外でもきめ細かな除染を行ってほしい。(70代以上)

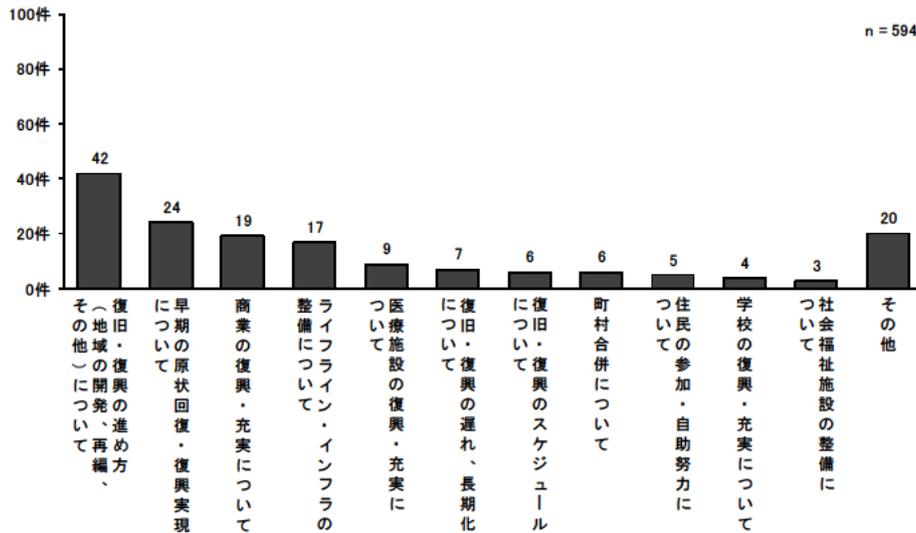
【除染作業の実施箇所などについて】

- ため池等の除染が全然進んでいない。(50代)
- ホットスポット的地点の除染。住居周辺(20m以内)の林の除染。第2原発の廃炉。(70代以上)

(7) 復旧・復興について

復旧・復興についての具体的な意見としては、「復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）」についてが42件と最も多く、次いで「早期の原状回復・復興実現について」が24件、「商業の復興・充実について」が19件となっている。

＜図表3-4-8 復旧・復興についての意見＞



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔復旧・復興の進め方（地域の開発、再編、その他）について〕

- 檜葉町だけの復興を進めても、やはり不安は大きく感じる。双葉郡全体で足並みを揃えて、目の前の課題を1つ1つクリアして欲しい。(40代)
- 檜葉町の復興は、人口が増えることが必須だと思います。その為の提案として、第一に地元商店会が開店しない場合、檜葉町商店会以外の商店が出店出来るよう、土地の提供などの助成をして、住民の利便を図ってもらいたい。第二に、戻れない檜葉町民以外の富岡、大熊、双葉、浪江の町民が檜葉町に住居を構える事が出来るように、土地等を造成して、新しい住民と新生檜葉町を作ってほしい。そうでなければ富岡以外の人達は、広野町やいわき市に新居を求め、人が住める檜葉町が衰退してしまうことに懸念が生じます。第三に、公職（町会議員、役場職員）は地元檜葉町に住んでほしい。(50代)
- 津波で住宅が流出し、現在旧行政区の住民がバラバラに生活をしている（他市町に住宅を再建）。このため、今後の行政区の有り方を検討する必要があると思う。(60代)

〔早期の原状回復・復興実現について〕

- あれから6年、高齢者の年齢になり、先のことを考えると不安が募るばかりです。震災前と同じように放射能汚染を心配しないで生活できるならば、戻りたいと思います。復興といっても除染されていない所があれば、制限もあり、以前のような生活は無理です。行政区により戻り方は異なると思います。(60代)
- 1日も早い復興を願っています。そのためには若い人達を優先する様な檜葉町の案を作り、若い男・女を呼び込んで下さい。檜葉の繁栄を願います。(70代以上)
- 一人でも多くの人々が町に戻れる環境を整えてほしい。商業施設、特にスーパー等食料を買うのに、広野町やいわき市まで行く必要があり、車がないと生活できない環境です。普通の生活ができる様お願いします。(70代以上)

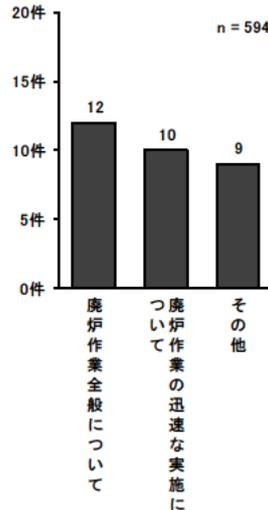
[商業の復興・充実について]

- 町の復興には人が集まる所、スーパー、飲食店、ショッピングモール等があれば、少しでも人が町に帰って来る気がします。(40代)
- 地元スーパーの再開を最優先のひとつに考えて取り組んでほしい。檜葉の将来がかかっている。(50代)
- 一番感じる事は、自分の家の近くに生活用品の店があること。老人の故で1人であり、足が弱ってくれば食料品を含めて不自由では困ることがあると、一番大変なことです。昔みたいに行商人が居れば助かりますが、それは出来ないでしょうから、せめて商店が近くにあってほしいです。(70代以上)

(8) 原発の安全性について

原発の安全性についての具体的な意見としては、「廃炉作業全般について」が12件と最も多く、次いで「廃炉作業の迅速な実施について」が10件となっている。

〈図表3-4-9 原発の安全性についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

〔廃炉作業全般について〕

- 町の公共事業や道路整備、宅地造成、防潮堤の整備など復興は進んでいると思うが、第一原発の状況がどのようになっているのか、最近ではテレビのニュースでもあまり取り上げられず、第一原発の情報が全く分からない状態です。楡葉町だけでなく、双葉郡の町村で独自に管理できるよう、管理機関を作って毎月現場を視察し、東京電力に情報を公開してもらおうようにした方がいいと思う。現在も廃炉が完了しておらず、放射能や汚染水が海にもれていると思います。町の整備や復興も大切だと思いますが、やはり一番大切なものは、町民が安全に安心して暮らせる環境だと思います。いくら国が放射線量は下がった、水道水は大丈夫と言っても、簡単に信用する人はそうそういないと思います。地震がくるたびに不安でしかたありません。学校、病院、商業施設、宅地の整備も大切だが、やはり第1原発の不安がある限り、帰還する人は増えないと思う。町でもその不安を取り除く方法を考え、実施していくのが最優先の課題だと思います。早く震災前の楡葉町になるようがんばってください。(40代)
- 福島第二原子力発電所の廃炉が決定されない。福島第一原子力発電所廃炉へ向けた準備において、安全性が確保されていない。居住を考えると、不安になってしまうのが現実です。(50代)
- 町内の治安が心配。水道水、生活用水への不安。原子力発電所の事故収束、廃炉決定。(70代以上)

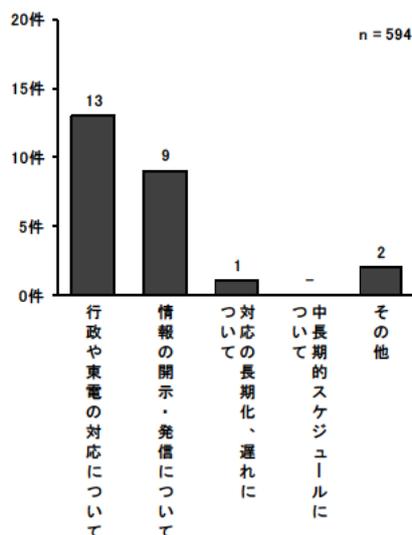
〔廃炉作業の迅速な実施について〕

- 復興という言葉だけが前面に出て、肝心の第一原子力発電所の処理問題が先ではないでしょうか。発電所で働く人の中には、放射線により20名以上の被爆者が居ります(働災認定者)。すでに楡葉町の人々は、マンネリになって気にもなくなっている状況です。子供が被爆したら東京電力の責任と矛先を向けるでしょう。行政(町)の責任を持つ話は聞いてない。町は国の手先になって町に戻し、人口を増すだけあの手この手で進めている様に感じ取れます。(60代)
- 楡葉町に戻っていますが、心配は第二原発の件です。廃炉に県・国に申し出をして頂きたい。(70代以上)

(9) 原発事故に対する対応について

原発事故に対する対応についての具体的な意見としては、「行政や東電の対応について」が13件と最も多く、次いで「情報の開示・発信について」が9件、「対応の長期化、遅れについて」が1件となっている。

<図表3-4-10 原発事故に対する対応についての意見>



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政や東電の対応について]

- 震度5で第2原発の冷却の停止とは、一体東電は何を考えているのでしょうか。国は原発を動かす事だけしか考えていないのでしょうか、いつも心配しながら生きていくのは嫌です。町は国の方針に従うだけで、楡葉町をどうしたいのか、何も見えてきません。楡葉町が「自分達はどうしたいのか」という事がないから、国の言う通りにしかになっていないのではと思います。こんな町の何に希望を持って、何を信じて生きて行けというのか、それを町に聞いてみたいです。向かう方向が町も分からないから、住民を引っばってもいけない。(30代)
- 東電に対しては、国との癒着等、体質が変わらない限り信頼はできない。東電が福島から去るまでは、復興にならないと思っている。(50代)
- 避難している人にもっと配慮して欲しい。選挙の時ばかりではなく、議員をはじめ町長は、月に1回位は顔を出して町民の意見などに耳を傾けてほしい。(70代以上)

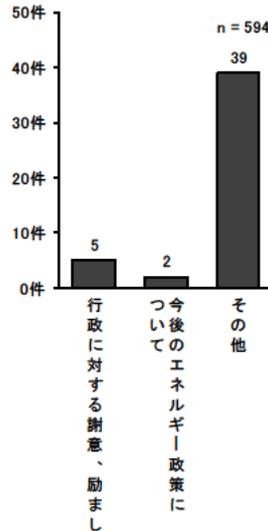
[情報の開示・発信について]

- 放射線については、過剰な反応といわれる事もあるが、地震の際、国道6号で線量計が振り切れた事はニュースにならない。この地域で、情報を適切に開示されない中で生活する事のストレスや不安は、住んでいない人にはわからない。(40代)
- 楡葉町のコミュニティセンターなどで講演会やイベントなどをやっている様だが、町の会報だけの宣伝では、人が集まらないのではないかと。思い切ってテレビのCMなどで宣伝して、楡葉町民以外の人達(いわき市の人、広野町の人など)も遊びに来てくれる様にしたい。(50代)
- 原発・放射線量等について、正確な情報を提供してほしい。(60代)

(10) その他

その他についての具体的な意見としては、「行政に対する謝意、励まし」が5件と最も多く、次いで「今後のエネルギー政策について」が2件となっている。

〈図表3-4-11 その他についての意見〉



上位項目についての主な意見は以下のとおり。

[行政に対する謝意・励ましについて]

- 避難をした先が檜葉町より人口が多かったり、商業施設が多かったり、医療機関が多かったりと以前よりも暮らしやすい生活をしている方が数多くいらっしゃると思う。またそこで就業したり、結婚したり、家を持ったりと、尚更その土地を離れられなくなった方も多いと思う。それだけ、約6年間という月日は大きかった。ただ私も含め、故郷というのは檜葉町しかない。いつか子供が出来たとき、「父ちゃんの故郷はここなんだよ」と言えるように、以前のような…、以前以上の素敵な町になることを祈っております。大変だと思いますが、職員の方々頑張って下さい。(10～20代)
- 災害前より、町関係（特に役場等官公庁）に勤務されている方々の心労に敬意を感じています。個々人の家族の考え方を最優先し、各々の判断による展望に委ねることが大切だと思っているので、私達の判断で今後の在り方を決めていきたいと考えています。(60代)
- 町長、町職員のご苦勞に感謝しております。私達も出来ることから町の為、子供達の為頑張りたいと思います。(70代以上)

[今後のエネルギー政策について]

- 東電福島第2原発は、廃炉にする計画を持ちつつ、原子力と自然エネルギーを活用したハイブリッド発電所への転換を試みてはいかがでしょうか。現に檜葉沖で風力は実証実験・稼働している様ですし、海底波力や比較的日照時間の長い檜葉町や富岡町の、増加する有休農地・山林等を活用した太陽光発電も良いのではないのでしょうか。現在のままでは、財源や雇用に恵まれた優良企業であるにせよ、今まで通り再稼働される事はとても不安です。(60代)

IV 參考資料

4-1 使用調査票

楡葉町 住民意向調査

記入上の注意

● 調査をお願いする方

- ▶ ご回答は、楡葉町住民の世帯の代表者の方をお願いいたします。
- ▶ 現在世帯が何か所かに分かれて避難されている場合には、それぞれの場所にお住まいの代表者の方にご回答をお願いいたします。

● ご回答方法

- ▶ ご回答は、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ▶ 前から順番に回答を進めてください。途中、「問〇〇へ」などと質問を飛ばすように指定がある場合には、それに従って回答を進めてください。
- ▶ 「その他」に○をされた場合は、()内に具体的な内容をご記入ください。
- ▶ の中に記入をお願いしている質問には、地名、数などを具体的にご記入ください。

※調査票はすべて無記名でお願いしております。

● ご提出方法

- ▶ ご記入済みの調査票は、1月18日(水)までに、同封の返信用封筒に入れ、郵便ポストに投函してください（切手は不要です）。

楡葉町 福島県 復興庁

【お問い合わせ先】

ご不明な点がございましたら、下記までご連絡ください。

■ 復興庁「住民意向調査」問い合わせセンター

フリーダイヤル 0120-901-847

[設置期間： 1月5日（木）～1月18日（水） 平日10時～17時]

はじめに、ご記入いただくあなたご自身のことについて教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問1 性別（○は1つ）

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

【すべての方にうかがいます。】

問2 あなたの現在の年齢（○は1つ）

- | | | |
|----------|-----------|-----------|
| 1 ~19歳 | 6 40~44歳 | 11 65~69歳 |
| 2 20~24歳 | 7 45~49歳 | 12 70~74歳 |
| 3 25~29歳 | 8 50~54歳 | 13 75~79歳 |
| 4 30~34歳 | 9 55~59歳 | 14 80歳以上 |
| 5 35~39歳 | 10 60~64歳 | |

東日本大震災発生当時のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問3 震災発生当時にお住まいだった地区を以下から教えてください。（○は1つ）

- | | | | |
|-------|--------|--------|----------------------|
| 1 旭ヶ丘 | 8 山田岡 | 15 前原 | 22 その他 |
| 2 菅団 | 9 山田浜 | 16 大坂 | ※わからない場合は住所を記載してください |
| 3 乙次郎 | 10 女平 | 17 大谷 | 〔 〕 |
| 4 下井出 | 11 松館 | 18 榎木下 | |
| 5 下小塙 | 12 上井出 | 19 波倉 | |
| 6 下繁岡 | 13 上小塙 | 20 繁岡 | |
| 7 山所布 | 14 上繁岡 | 21 北田 | |

【すべての方にうかがいます。】

問4 あなたは、震災発生当時、世帯主でしたか。（○は1つ）

- | | |
|------------|---------------|
| 1 当時世帯主だった | 2 当時世帯主ではなかった |
|------------|---------------|

【すべての方にうかがいます。】

問5 『震災発生当時』に、あなたを含めて一緒に住んでいた方の人数を教えてください。
あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。
(人数で回答)

ア) 未就学児(小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64歳(中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問6 震災発生当時にお住まいだった住宅は、どのような形態でしたか。(○は1つ)

1 持ち家(一戸建)	→問7へ	7 家族のどなたかのお住まい・ 実家	→問8へ
2 持ち家(集合住宅)	→問7へ	8 親戚・知人宅	→問8へ
3 民間賃貸住宅(一戸建)	→問8へ	9 その他	→問8へ
4 民間賃貸住宅(集合住宅)	→問8へ	〔具体的に〕	
5 公営住宅	→問8へ		
6 給与住宅(社宅など)	→問8へ		

【問6で、「1 持ち家(一戸建)」または「2 持ち家(集合住宅)」と回答した方にうかがいます。】

問7 震災発生当時にお住まいだった持ち家(自宅)は、今後どのようにされる予定ですか。(○は1つ)

1 被害がなく(または軽微であり)、修繕が不要	
2 すでに修繕済	
3 現在修繕中	
4 今後すぐに(1年未満)修繕する予定	
5 今後1～2年以内に修繕する予定	
6 今後修繕を行う予定であるが、時期は未定	
7 特に修繕を行わず、そのままにする	
8 解体する(その後、建て替える予定)	
9 解体する(現時点で、建て替える予定はない)	
10 すでに解体済み(今後、建て替える予定)	
11 すでに解体済み(現時点で、建て替える予定はない)	
12 現時点では判断していない	
13 その他〔具体的に〕	

現在のあなたの状況について教えてください。

【すべての方にうかがいます。】

問 8 現在の世帯構成についてうかがいます。現在、あなたを含めて一緒に住んでいる方の人数を教えてください。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。(人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

【すべての方にうかがいます。】

問 9 震災発生当時ご一緒にお住まいであった家族は、現在、何か所に分散してお住まいですか。(○は1つ)

- | | |
|------------------------|----------------|
| 1 世帯でまとまって居住 (一人暮らし含む) | 3 合計 3 か所に分散 |
| 2 合計 2 か所に分散 | 4 合計 4 か所以上に分散 |

【すべての方にうかがいます。】

問 10 現在のあなたの職業を教えてください。現在、仕事に就いている方は、業種も教えてください。なお、2つ以上の職業を持っている場合には、主な収入源になっているものを選択してください。

問 10(1) 職業 (就業形態) (○は1つ)

- | | | |
|--------------------------|-----------------|---------|
| 1 自営業・会社経営者
(継続中・再開済) | 8 学生 | ⇒問 11 へ |
| 2 自営業・会社経営者(休業中) | 9 無職 (職を探していない) | ⇒問 11 へ |
| 3 会社員 (事務) | 10 無職 (職を探している) | ⇒問 11 へ |
| 4 会社員 (労務) | 11 その他 | |
| 5 団体職員 | (具体的に) | |
| 6 公務員 | | |
| 7 パート・アルバイト | | |

【就業している方にうかがいます。】

問 10(2) 業種 (○は1つ)

- | | | |
|-------------|------------------|----------|
| 1 農・林・漁・畜産業 | 6 運輸業 | 11 公務 |
| 2 建設業 | 7 卸・小売り・飲食、サービス業 | 12 その他 |
| 3 製造業 | 8 金融・保険業 | 〔 具体的に 〕 |
| 4 電気業 | 9 医療・福祉 | |
| 5 ガス・水道業 | 10 教育 | |

【問 11 は、震災発生当時の職業が自営業・会社経営者以外（会社員、団体職員、公務員、パート・アルバイト、学生、無職、その他）の方は下記にご回答ください。】

問 11(1) 今後の職業について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

- 1 震災発生当時から同じ職場で働いており、今後も働きたい →問 12 へ
- 2 震災発生後に転職または就職し、今後も現在の職場で働きたい →問 12 へ
- 3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい →問 11(2) へ
- 4 今後、檜葉町以外^{*}の職場で働きたい →問 12 へ

※希望地があれば、具体的にご記入ください。

(都・道・府・県)

(市・町・村・区)

- 5 今後、働く予定はない ⇒問 12 へ

- 6 その他 { 具体的に

↓
→ 問 12 へ

【問 11(1)で、「3 今後、檜葉町で職場が見つかるのなら、そこで働きたい」と回答した方
にうかがいます。】

問 11(2) 今後、町内で職場を探し、仕事をする上で何か支障となること、支援策として事業者や行政に望むことがありましたら、自由なお考えをご回答ください。

(例 町内の住居を解体してしまったので、社宅等の整備を支援して欲しい。)

【すべての方にかがいます。】

問 12 現状及びこれからのお住まいについてお答えください。(○は1つ)

- | | | |
|---|----------------------------|---------|
| 1 | 檜葉町に戻っている | →問 13 へ |
| 2 | 早期に檜葉町に戻る | →問 14 へ |
| 3 | 条件が整えば、檜葉町に戻る | →問 14 へ |
| 4 | 檜葉町には戻らない(他市町村での自主再建の方も含む) | →問 14 へ |
| 5 | 戻るかどうかについて、今はまだ判断ができない | →問 14 へ |

【**問 13** は、問 12 で、「1 檜葉町に戻っている」と回答した方にかがいます。】

問 13(1) 現在、檜葉町内でお住まいの住宅は、どのような形態ですか。(○は1つ)

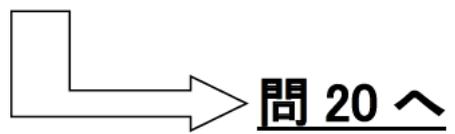
- | | |
|---|-------------------------------|
| 1 | 元の持ち家(自宅)(建て替えた場合を含む) |
| 2 | 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てた |
| 3 | 元の自宅とは別の町内の場所に、中古住宅を購入した |
| 4 | 民間賃貸住宅(一戸建) |
| 5 | 民間賃貸住宅(集合住宅) |
| 6 | 給与住宅(社宅など) |
| 7 | 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 8 | 親戚・知人宅 |
| 9 | その他
〔具体的に〕 |

問 13(2) 檜葉町内での今後の生活において、必要だと感じていることについてお答えください。(〇はいくつでも)

1 防犯体制の強化	8 水道水等、生活用水の安全対策
2 雇用確保の支援	9 公営住宅の整備
3 商業施設の再開・充実	10 教育環境の充実
4 鉄道等の公共交通機関の再開・充実	11 継続的な健康管理等、放射線に対する不安解消への取組、線量低減対策
5 医療施設の拡充	12 その他
6 介護・福祉施設の再開・充実	〔具体的に〕
7 町内コミュニティ活動（行政区等の活動も含む）への支援	

問 13(3) 問 13(2)で選択した「必要だと感じていること」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「必要だと感じていること」について、自由なお考えをご回答ください。

問 13(2)の 選択肢番号	自由なお考え
(例) 7	コミュニティ形成につながる活動を町に支援して欲しい。



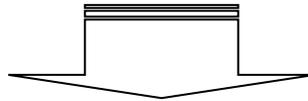
【問 14 は、問 12 で、「2」～「5」と回答した方にかがいます。】

問 14(1) あなたが現在お住まいの自治体名を教えてください。(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 いわき市 | 6 福島県内のその他の市町村 (具体的にご記入ください。) |
| 2 会津美里町 | → <input type="text"/> (市・町・村) |
| 3 福島市 | 7 福島県外 (具体的にご記入ください。) |
| 4 郡山市 | → <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区) |
| 5 会津若松市 | |

問 14(2) 現在お住まいの住居は、どのような住居形態ですか。(○は1つ)

- | | |
|-------------------|--------------|
| 1 応急仮設住宅 | 7 親戚・知人宅 |
| 2 借上げ住宅 | 8 持ち家 (一戸建) |
| 3 公営住宅 (有償) | 9 持ち家 (集合住宅) |
| 4 民間賃貸住宅 (有償) | 10 その他 |
| 5 給与住宅 (社宅など) | 【 具体的に
】 |
| 6 家族のどなたかのお住まい・実家 | |



問 12 で「2 早期に檜葉町に戻る」または
「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方

➡ 問 15 へ

問 12 で「4 檜葉町には戻らない (他市町村での自主再建の
方も含む)」と回答した方

➡ 問 18 へ

問 12 で「5 戻るかどうかについて、今はまだ判断できない」
と回答した方

➡ 問 19 へ

【問 15 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」または「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 15(1) 檜葉町に戻る時期について、現在のお考えをお聞かせください。

(○は1つ)

1 半年以内	3 2年以内	5 5年以内
2 1年以内	4 3年以内	6 5年超

問 15(2) 檜葉町への帰還後、どのような家族構成になると考えていますか。あなた自身を含めて、現在の年齢・学齢にあてはまる人数でご回答ください。

(人数で回答)

ア) 未就学児 (小学校入学前)	人	エ) 高校生	人
イ) 小学生	人	オ) 15～64 歳 (中学・高校生を除く)	人
ウ) 中学生	人	カ) 65 歳以上の方	人

問 15(3) 檜葉町に帰還した場合のお住まいは、どのような形態を予定されていますか。(○は1つ)

1 元の持ち家 (自宅) (建て替える場合を含む)	6 民間賃貸住宅 (集合住宅)
2 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに一戸建の持ち家を建てる	7 公営住宅
3 元の自宅とは別の町内の場所に、新たに分譲集合住宅を購入する	8 給与住宅 (社宅など)
4 元の自宅とは別の町内の場所に、中古住宅を購入する	9 家族のどなたかのお住まい・実家
5 民間賃貸住宅 (一戸建)	10 親戚・知人宅
	11 その他
	〔具体的に〕
	12 現時点では判断していない



問 12 で「2 早期に檜葉町に戻る」と回答した方

➡ 問 16 へ

問 12 で「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方

➡ 問 17 へ

【問 16 は、問 12 で、「2 早期に檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 16 (1) 檜葉町内での今後の生活において、必要だと感じていることについてお答えください。(〇はいくつでも)

1 防犯体制の強化	8 水道水等、生活用水の安全対策
2 雇用確保の支援	9 公営住宅の整備
3 商業施設の再開・充実	10 教育環境の充実
4 鉄道等の公共交通機関の再開・充実	11 継続的な健康管理等、放射線に対する不安解消への取組、線量低減対策
5 医療施設の拡充	12 その他
6 介護・福祉施設の再開・充実	〔具体的に〕
7 町内コミュニティ活動（行政区等の活動も含む）への支援	

問 16 (2) 問 16(1)で選択した「必要だと感じていること」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「必要だと感じていること」について、自由なお考えをご回答ください。

問 16(1)の 選択肢番号	自由なお考え
(例) 7	コミュニティ形成につながる活動を町に支援して欲しい。

 **問 20 へ**

【問 17 は、問 12 で、「3 条件が整えば、檜葉町に戻る」と回答した方にうかがいます。】

問 17 (1) 檜葉町に戻るにあたり、あなたがその条件として考慮する項目についてあてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

1 自宅の再建	11 水道水等の生活用水に対する不安が解消されること
2 放射線量の低減と不安の払拭	12 教育環境の充実
3 どの程度、住民が戻るか	13 原子力発電所の安全性（事故収束や廃炉の状況）
4 防犯対策の強化	14 賃貸住宅・公営住宅の整備
5 町内で仕事が見つかること	15 その他
6 商業施設の再開・充実	具体的に _____ _____ _____
7 鉄道等の公共交通機関の再開・充実	
8 医療施設の拡充	
9 介護・福祉施設の再開・充実	
10 町内コミュニティ活動（行政区等の活動も含む）の回復	

問 17 (2) 問 17(1)で選択した「条件として考慮する項目」のうちで、具体的なお考えがあれば、選択肢番号の欄にご記入ください。そして、その「条件として考慮する項目」について、自由なお考えをご回答ください。

問 17(1)の 選択肢番号	自由なお考え
(例) 10	コミュニティ形成につながる活動を町に支援して欲しい。



【問18 は、問12で、「4 檜葉町には戻らない（他市町村での自主再建の方も含む）」と回答した方にうかがいます。】

問18(1) 檜葉町に戻らないと決めている理由はどのようなことですか。
(○はいくつでも)

- | | |
|---------------------------------|--------------------------|
| 1 自宅が荒廃しているから | 11 水道水等の生活用水の安全性に不安があるから |
| 2 自宅周辺の放射線量が心配だから | 12 教育環境に不安があるから |
| 3 自宅周辺に住む人が少ないから | 13 原子力発電所の安全性に不安が残っているから |
| 4 町内の治安が心配だから | 14 賃貸住宅・公営住宅の整備が十分でないから |
| 5 町外で働いているから | 15 その他 |
| 6 商業施設の再開が十分でないから | 具体的 |
| 7 道路、鉄道面において、移動交通が不便だから | |
| 8 医療施設が十分でないから | |
| 9 介護・福祉施設の再開が十分でないから | |
| 10 町内コミュニティの回復が十分でないから（行政区等を含む） | |

問18(2) 檜葉町に戻らない場合、今後どの自治体で居住を予定されていますか。
(○は1つ)

- | | |
|---------|-----------------------------------------------------------------|
| 1 いわき市 | 6 福島県内のその他の市町村（具体的にご記入ください。） |
| 2 会津美里町 | → <input type="text"/> (市・町・村) |
| 3 福島市 | 7 福島県外（具体的にご記入ください。） |
| 4 郡山市 | |
| 5 会津若松市 | → <input type="text"/> (都・道・府・県) <input type="text"/> (市・町・村・区) |
| | 8 現時点では判断していない |

問18(3) 今後、居住する住宅はどのような形態（の予定）ですか。(○は1つ)

- | | |
|----------------|-------------------|
| 1 持ち家（一戸建） | 7 家族のどなたかのお住まい・実家 |
| 2 持ち家（集合住宅） | 8 親戚・知人宅 |
| 3 民間賃貸住宅（一戸建） | 9 その他 |
| 4 民間賃貸住宅（集合住宅） | 具体的 |
| 5 公営住宅 | |
| 6 給与住宅（社宅など） | 10 現時点では判断していない |



【問 19 は、問 12 で、「5 戻るかどうかについて、今はまだ判断ができない」と回答した方にうかがいます。】

問 19 檜葉町に戻るかどうかの判断をする際に、あなたが参考にする項目について、あてはまるものをお選びください。(○はいくつでも)

- | | |
|-----------------------------------------|----------------------------------|
| 1 自宅の再建 | 11 水道水等、生活用水への対策 |
| 2 放射線量の低下の状況 | 12 学校等、教育環境に関する情報
(再開時期や生徒数等) |
| 3 どの程度の住民が戻るかの状況 | 13 原子力発電所の安全性(事故収束や
廃炉の状況) |
| 4 町内の治安の状況 | 14 民間賃貸住宅、公営住宅の整備状況 |
| 5 働く場所の確保の目途 | 15 その他 |
| 6 商業施設の再開・充実の状況 | 〔 具体的に 〕 |
| 7 交通の利便性 | |
| 8 医療施設の充実度 | |
| 9 介護・福祉施設の充実度 | |
| 10 町内コミュニティがどの程度回復
しているか(行政区等の活動も含む) | |

 **問 20 へ**

問 20

町の復興に対して、日頃お感じになっているお気持ちや今後のあなたの展望などを自由にお書きください。

以上でご回答いただく内容は終わりです。
調査にご協力いただきまして、誠にありがとうございました。

同封の返送用封筒にご記入済みの調査票を入れて、
1月18日(水)までに郵便ポストに投函してください(切手は不要です)。

**楡葉町 住民意向調査
報告書**

平成 29 年3月

復興庁 福島県 楡葉町

調査機関:株式会社サーベイリサーチセンター

